



伊藤音次郎日記

1914(大正3)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成30)年6月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。

一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼1ページ▲▼

大正三年

▲▼1ページ▲▼ 一月行事

中旬帰坂 獨立行動ニ対スル運動ヲナスコト

奈良原氏白戸氏ノ行動ニ注意シ身ヲアヤマラザルコト

本年中ニ操縦、名ヲナシ基礎ヲ作ルコト

▲▼2ページ▲▼ 大正3(1914)年1月1日(木)

天気 快晴

午前五時就床 九時起床十一時ヨリ御祝ヒ 十二時ヨリ奈良原氏へ年始 得ル處ナシ
二時白戸氏へ年賀 花ヲ引キ六時夕食 其儘就眠

▲▼3ページ▲▼ 大正3(1914)年1月2日(金)

天気 晴少雨 風強ク寒シ

午前八時起床 湯屋ニ行キ朝食後階上ニ於テ花ヲ引ク 武運ツタナク三十五錢取ラル
十一時川村氏來ル 直チニ去ル 同時ニ余モ白戸氏宅ヲ辭シ帰宅 途次九段ニ廻リ模
型材料ヲ求メ帰宅後製作 夕方九分通り出來夕食後近所ニ新築サレタル金春館ニ活
動ヲ見ル 健(ママ)築ノ構造写真共ニ完カラズ豫期ニ反スル 甚ダ遠シ 入場者九分通
リノ入り 年若キ婦人頗ル多ク美人ト稱スル者又少ナカラズ、野心平ラカナラズ。サレ
ドモ功成リ名トゲタル上ハ彼等数人ヲ左右ニ待(ママ)セシムル難キニアラズト自ラナグサ
ム 十時前帰り花ヤ雷様ヤトランプナド遊ビ興ジ一時就床ス

▲▼4ページ▲▼ 大正3(1914)年1月3日(土)

天気 快晴 夜風強シ

昨夜ノツカレニ九時頃起床 十時半加藤ニ行ク。主人不在十二時帰宅 食後一時半ヨ
リ始メテ御母サント奈良原氏宅ニ行ク 得ル處ナシ

例ニ依ツテ今月中ニ俱樂部ヲ立テ三月頃迄ニハ、余ニ飛行シ得ルニ至ラシムベシト。今月

中モ今年中モ随分久シキモノナリ

御母サンハ豊川様ニ詣デ余ハ同稻荷前ヨリ電車ニテ帰宅 入浴 昨日ノ日記ヲ附ケタ食 後チ八時頃ヨリ又種々ノ遊ビヲナシ腹ノ皮ヲヨジルコト一再ナラズ十二時就床 三日間ニ加藤河村サンヘ年始ニ來ラズ 余リタノモシキ人間ニアラズ

▲▼5ページ▲▼ 大正3(1914)年1月4日(日)

天気 快晴

時事 海軍始飛行 デヘルデッサンノ公試飛行 井上大尉搭乗

九時起床 終日店番ヲ仰セツカル 午後加藤來リ三時ヨリ仕事始メノ宴ヲ開クニ付出席ヲ求ム サレドモ酒後ヲ考ヘ余ハ之レヲサケタリ

夕食後模型ヲ作ル 八時半ヨリ遊戯 十一時就床

晝間ハ多ク努力論ヲ讀ミ時ヲ過セリ

▲▼6ページ▲▼ 大正3(1914)年1月5日(月)

天気 晴

九時朝食ヲ終リテ白戸氏ヲ訪ヘンモノト仕度スル處ヘ加藤君來リ不在ヲ聞キ晝食後一時半宅ヲ出デ、訪フニマダ所沢ヨリ帰京セズ ヤムナク奈良原氏ヲ尋ネ豫定ノ行動即チ九日過ギ帰坂ニツキ旅費ト父ニ安心セシムル爲メ俱樂部ノ確實ナル設立期ヲ知ラサレシコトヲ頼ミ模型ニ塗ルベキ白ペンキヲ貰ヒテ帰途加藤君宅ニ行キ小道具ヲ借ル。丁度酒宴中ナリシ爲メ盃数杯ヲ受ケテ六時前帰宅 夕食入浴、後カルタヲナシ後チ投扇興ニ夜ヲフカシ十二時床ニツク

晝前中沢來 下駄ト金二十錢ヲ與フ 羽織ヲ無心サレタレド余ニモカワリナケレバコトワル 不景氣トハ云ヘ何處トナク賑ヤカナリ 忘年会モナク新年會モナキ吾等アワレナリ

▲▼7ページ▲▼ 明治43(1910)年1月6日(木)

天気 晴

七時起床 日比谷ニ出初メ式ヲ見ニ行ク 然ルニ品川ニ大火アリ 八時過ギ僅ニ一台ノ蒸氣ポンプ來ルノミ 去ル上ニ警官ノモノ、シクニ間毎二道ノ両側ニ整列(ママ)シ立止ルナ、ソコハイケナイナド、人民保護モ此處迄行クト人權ジユウリンダ 余ニ面白カラヌニ帰宅シ加藤ヘ道具ヲ借リニ行ク 帰途次海軍ノモ式ニ台頭上ヲ飛ブニ會フ。帰宅後模型製作、製圖等ヲナシ夜八時頃ニ及ブ。

本日出來上ガレル模型ニテ種々試験スルニ、サカサマ飛行、垂直下降等ノ以外ニ安定ナ

ルヲ実験シ得タリ。サレバ余モ最(ママ)非充分練習ヲツミタルアカツキニ六試ミント思フ
但シ其際ハ發動機ヲ止ムルヲ宜シカラント考フ。十一時迄投扇興
御母様ハ本日向島ノ七福神詣ニ行キ夜帰宅サル

▲▼8ページ▲▼ 大正3(1914)年1月7日(水)

天気 晴曇雨晴

八時起床 第一ノ模型完成シ第二ノ模型ニ着手ス 十一時頃加藤親父來ル 奥ニ階ニ
於テ酒盛アリ 中バニシテ白戸ヨリ電話ニテ余ニ來ランコトヲ求ム 即チ食後行ク。忠雄
君病氣ニ付病名ヲ聞キ呉レトノコト問ヒシモ答ヘズ 兎ニ角醫者ニ行クコトヲ進メ直チニ
行カシム。多分横根ナラン。
四時頃ブラ、徒歩ニテ帰ル 製作ノ着手 八時過ギ中止シヌ 御母サン年始ヨリ帰ヘ
ラル

▲▼9ページ▲▼ 大正3(1914)年1月8日(木)

天気 快晴

八時起床 新聞ヲ見九時朝食後模型製作 機体テール、主翼ノ一部出來上ル 時夜
十時二及ブ
夕方前白戸氏來ル 吾レニ何ノ話モナシ 後チニ御母サンヨリ聞ケバ女ニツキ非常ナ
コボシ話ヲナシタル由 サモアラン 余ガ昨日ノ様子ヲ見ルニ氏ガ、ハツ子ニ対スル様余リ
ニ意氣遠慮スルニ似タリキ。ア、白戸君モ遂ニ奈良原式ニナリ終リヌ
五時前加藤保君來 スグ帰ル 後チ御母サンニ聞ケバ奈良原氏ヘ行キ小遣ニ一円ヲ貰ヒ
來リタリト

▲▼10ページ▲▼ 大正3(1914)年1月9日(金)

天気 快晴

九時朝食新聞閲讀ヲ終ルヤ奈良原氏宅ニ行ク 要事ハ今夕帝劇觀劇會ノ礼ハ河村氏
ノ好意ニヨリ頂戴シタレドモ如何ニセシ 財政頗ル困難ノ時ナレバセメテ辨当代ナリト
得ンモノトテナリキ。然ルニ氏不在ニテ奥様ナリシ爲メ豫定ノ行動ハ、ハヅレタレドモ漸
ク金一円ヲ得帰途模型材料ヲ求メ十二時帰宅 模型製作ニ時間。仕舞ヒテ四時五
分帝劇ニ行ク 時スデニ幕開キ居タリ。十時二十分帰宅ス。大ナル感想ハナシ。久シ振
リノ芝居見物トテ、面白カッタ。奇麗ダツタ。眞ニセマラサレタノ外言ナシ。余ノ席ノ二
ツ目ニ鏡滋君ノ芝ノ小指ノ妹ト云フアリ 頗ル付キニアラズトモ美人ト稱スルニ足ル
年十七。鏡滋君昨夜ヨリ余ニ如何ト云フ 余又欲セザルニアラザルモ進マズ。進マントシテ

進ミ得ズ。余ノ爲スベキコト前途遼遠多多アリ

▲▼11ページ▲▼ 大正3(1914)年1月10日(土)

天気 快晴

八時起床 終日模型製作 午後八時頃材料ツキテ中止シ、發明館へメンダインヲ買ヒニ行ク 然ルニ小型ノモノナク大型ノモノヲ買ワンニ六十錢ばかり金足ラズ不止得ブラ、銀坐通り散歩シナガラ帰ル

午後七時頃白戸君來 明日忠雄君加藤病院ニ入院手術ナス由。余ニ立會ヲ求メラル。又十三日ニ、イツレニカ引越ス由 其手傳モ頼マル

▲▼12ページ▲▼ 大正3(1914)年1月11日(日)

午前七時起床 白戸氏引越ノ手傳ニ行ク十二時スベテヲ終リ酒宴ニ入り二時頃帰ラント二階ニミントヲ取りニ行クト丁度白戸夫妻ニテ余ニ二十五錢玉二個ヲニギラセントス余ハ之レヲ固ク辭セシニ女ハ如何ニ思ニケン 金高ガ少ナイカラデシヨートテ、其金ヲ投付ケタレバ余ハ無言ノマ、飛出ス。余ハヨイコトヲシタト思ツタ。余如何ニ苦シクモ彼レ等ガ七八オイタ金ヲ理由ナクシテ貰ヒ得ベキモノデハナイノデアル。ソレニナンゾ金ヲ投ゲツケルトハ余リニ失敬ナリ。サレバ之レヲヨキシオニ白戸トモ手ヲ切ラント思エリ

帰途奈良原氏宅ニ寄り金十円ヲ得 櫻島爆發ニテ鹿兒島降灰一尺五寸ニ及ベル由 数日中ニ帰国セラレルベシトナリキ 尚帰途加藤宅ニ寄り模型材料ヲ作り夕方方帰り模型製作 十時頃プレーン全成ス

此記事十三日ノ出來事ニテ十一日ノ記事ハ十三日ノ處ニアリ

▲▼13ページ▲▼ 大正3(1914)年1月12日(月)

天気 快晴

時事 鹿兒島櫻島バクハツス

午前ヨリ午後ニ渡リ模型製作 三時頃材料無く一マヅ中止 奈良原氏宅ニ材料ヲ購フベク資ヲ求ニ行ク アヒニク夫妻共ニアラズ 少時ノ後帰途白戸宅ニヨリ夕食ヲ得淺草に五九郎ヲ見ニ行カントサソワレシモ辭シ帰宅後少時空想ニフケリ後チ御母サンノ前ニテ雑談 切抜整理中不圖飛行機出發着陸ニ無滑走ニテ無(ママ)シ得ベキ事ヲ思フ 十時就床セシモ眠レズ 十一時頃河村氏帰宅 右ノ話ヲナスニ特許ヲ受クベシト大ニ進メラル 又河村氏新橋ニテ河辺君ニ出會ヒタル由 明日小生ヲ訪ルベシト

▲▼14ページ▲▼ 大正3(1914)年1月13日(火)

天気 快晴

朝食後十時迄待チタレドモ白戸君來ラズ 宅ニテ模型ヲ作ランニモ材料ナク不止得加藤君宅ニ行キフロートプロペラヲ製作シタ方帰宅 夕食後内ヲオプロペラノ仕上ヲナス夜十時過ギニ及ブ

余不在中白戸兄二度來リタル由 忠雄君入院手術セリ

此記事十一日分ナリ 十三日分十一日ノ處ニアリ

▲▼15ページ▲▼ 大正3(1914)年1月14日(水)

天気 風雨

八時起床 朝湯ニ行キ散髪ヲナス 十時頃附近ノ車屋ニ依頼シテ白戸君ニ預ケテアル荷物ヲ取りニヤル。時二一円弍十五錢デミカンノ盛籠ヲ作りテ送ル 之レヲ以テ一先ツ絶交セン

十一時頃加藤君ニ行キ時計ヲ受出ス 九時頃ヨリ生温キ南風強烈ヲキワメ御晝頃ヨリ雨降り出ス 一時頃河辺君來 久シ振リニテ諸談ス 余ノ内氣ヲ察シ大坂へ帰ツタ後チハ大ニ吹き、マクルベント云フ 夜十時頃帰ル 丁度佐久間町ニ出火アリ 風力ハゲシケレバ大火ヲ恐レテ余ハ飛行機ノ書類ヲアツメテ、カバンニ納ム。間モナク止ム 二時頃平塚氏ヨリ電話アリ 明日ヨリ東北地方ニ飛行スル由

▲▼16ページ▲▼ 大正3(1914)年1月15日(木)

天気 晴

九時朝食ヲ済マストスグ浅草ノ帝国館へ天馬ヲ見ニ行ツタ 余リ期待シスギタ爲メ、ステキトハ思ワナカツタガ兎ニ角近來ノ活劇モノデアッタ。帰宅後模型機体ニ板金ヲ張ルタ方仕舞フ 夜八十五日正月トテ投扇興ヤ、双六ヲシテ十一時過ギ床ニツク

▲▼17ページ▲▼ 大正3(1914)年1月16日(金)

天気 快晴

八時起床 朝食後加藤君宅ニ行キ、プレインノ柱ヲ作り昨日保夫君ニ頼ンデ白戸宅ヨリ持帰りアル洋服ヲ貰ヒ帰途、ヤスリト材料ヲ求メテ帰り、晝食後製作ニカゝル處へ玉井君(弟)來 雑談ノ後チ共ニ浅草ニ散歩ニ出ヅ 即チ、余ガ帰坂後幸ヒニシテ飛行機ヲ作り得ル場合ニ玉井君ノ如キ助手ヲ得タキガ故、内意ヲサグリ且ツ、大口オモ都

合ニテ手ツダヒサセンモノトテ、ソレトナク玉井君ノ口ヲ以テ大口君ニ云ワセン爲メ、五九郎ヲ見テ夕食ニ平野ニ行キ牛肉ヲ食フ。手銭ニテ飲酒ハ今日ヲ以テ今年最初トス。帰りニ久シ振リトテ吉原ヲ素見シテ八時半帰宅ス。九時頃大口君帰ツタリトテ(二三)日イヅレニカ行キ居リタリ)電話ヲ懸ケ來リ 明後日來訪ナス由
本日平野ノ勘定ヲ済マセシ時只二三十錢ヲ余スノミ 今少シニシテ足ヲ出ス處アヤブカリケリ

補記 一時頃加藤病院ニ忠雄君ヲ見舞フ。夕方前白戸君來リタル由

▲▼18ページ▲▼ 大正3(1914)年1月17日(土)

天気 快晴

去ル十三日ノ約束ニ付本日朝食後奈良原氏宅ニ旅費ヲ取りニ行ク 然ルニナンゾ一昨日鹿兒島ニ出發シ何事モ云ヒ残シ居ラズト ア、又一杯喰ワサレタコトカ。センナシ今ハ只ダ無言ノ外ナク時機ヲ見テ言ベキコトヲ言ワンノミ。ソレニシテモ旅費ヲ調ヘザルベカラズ。大口ニ頼マンカ加藤ニシヨカ、河村サンナラ、スグダガ如何ニモ云ヒニクシ。思案ノ内ニ帰宅 模型製作。加藤保君來。帰ルナラ旅費都合セント云フ。多謝
夕食後加藤宅ニ立寄り青山ニ行ク 要ハ預ケアリシ行李ヲ取りニ。敬子君シキリニ奈良原帰京迄出發ヲ見合セト云フ。余ナントモ答エズ行李ヲカツイデ徒歩ニテ帰ル。歩ミナガラ思フニ、車ニモ乗レズクラキ道ヲ、ヨリナガラ一時間余モ帰ルコトノ如何ニモナサケナキコトヨ

▲▼19ページ▲▼ 大正3(1914)年1月18日(日)

天気 曇少雨

明日河村先主人ノ三回忌ニ付來客アルベク、余ハ奥ニ階ノモノヲ整理ス 大坂ニ持帰ルモノ残シ居クモノト、ヨリ分ク
夕方白戸君來 先日ノ侘ヲナスラシ。明日最(ママ)非余ニ來宅センコトヲ求ム。余確答セズ
十一時就眠ス

朝床ノ内ヨリ發着装置ノ考察ヲ巡ラス

都築氏二十五万円ノ株式組織トシテ大日本飛行機製作所ヲ起シ主ニ發動機ノ製作ヲナシ、町ノ鍛冶仕事モナスベク、スデニ五千株ノ内三千株成立セル由 設立ノアカツキニ白戸君ニ飛行部主任ニナランコトヲ、求メタル由。磯部氏ハ例ノ研究會ノコトトテ折合頗ル悪シキ由 サレド協會ノ方ニ尚三万余円ノ殘金アル由(外ニ磯部氏ガ洋行費ハ三千元經費三千元ルンブラー百馬力二台三万二千元ヲ消費シタル由)

◆▼20ページ◆▼ 大正3(1914)年1月19日(月)

天気 快晴

七時半起床 十時頃皆サン御寺へ行ッタノデ余ハ店ノ人々ト店番方々發着機ヲ工夫ス
一時頃帰ラル 余ハ加藤君宅ニ行キ模型ヲ入レルベキ箱ヲ作ル 夕方帰宅 ツラ、思フ
ニ今二三日遅レテモヤハリ金ヲ貰ツテ帰ッタ方ガ宅へ帰ツテカラガ非常ニヨイト思タ。ソ
レデ今夜一度奈良原サンへ行カウカト思ツタガ晝頃カラ少シ風気味デ咽喉ガ痛ク水鼻
ガ出ルノデ心持悪シク九時頃床ニ就イタ

◆▼21ページ◆▼ 大正3(1914)年1月20日(火)

天気 曇

九時朝食後奈良原氏宅ニ行ク 明日午後二時帰京ノ由。帰宅ニ際シ朝鮮ノ立替金ノ
受取書ヲ渡シ居ク 徒歩ニテ帰ル 近來又々空想ニラケル様ニナツタ。ソシテ明日ハ復妙
ニ種々ナ過己ヤ未來ノコトガ頭ニウカンデ出タ。

夕方大口君來 野島氏ヲ新橋ニ見送ルナリト。即チ幾原氏ノ飛行機ヲ以テ、台湾ニ飛
行スル爲メ稲毛ニテ練習ヲナスニ付四国ニアル「カーチス式」ヲ稲毛ニ運ブ爲ナラン。二
時五十分ニ立ツトテ三時二十分過ぎ帰り行ケリ

御母サンモ風ノ心地デタ方カラ床ニツカレタ

八時頃余ハフラ、ト尾張町ノ通りヲ博品館迄散歩シタ

夕方、シヨボ、ト降ツタ雨ニ、スベテガ、シットリト身ニシミル様ニ、落付イタ一種ノ淋
シサヲ感ジタ 帽子モカムラナカッタノデ頭ガ清々トシタ。然シ余自身ヲ省ミテ過己五
年間何等得ル所ナカッタコトニ付思ワズ身ブルイシタ

◆▼22ページ◆▼ 大正3(1914)年1月21日(水)

天気 曇

モ一荷物ヲ方付ケテ仕舞ッタノデ何ヲスルコトモナク、仕方ナク午後ハ又散歩ニ出カケ
タ。今日ハ数寄屋橋手前ヲ北へ北へト出テ須田町へ出タ。トフト飛行機ノコトヲ思ヒダシ
テ秋葉ノ原へ見ニ行ツタ。シートハ大キナノト取替テアッタダケデマダ其マ、ニナツテ居タ。
人ノモノダガ実ニ、オシイモノダト思ツタ ソレカラ和泉橋ヲ渡ツテ材木町ヲ通ツテ南
下シタ方前帰宅シタ。四時半夕食後、日比谷ニ散歩シタ。シヅカナ夜ノ幕ハ次第々々ニ、
タレテ來テ人顔モ見エナクナツテ余ハ門ヲ出タ。帰りニテーエム商会ニ立寄ニ玉井君ヤニ
三ト雑談シテ帰ツタ。六時デアツタ シバラクシテ、又今度ハ銀坐通り京橋迄散歩シタ。
寒イ風ガ吹クノデ人通りハ少ナカッタ 夜店商人モ店ヲ仕舞ツテ帰ルノガ多カッタ。帰

宅後雑談 九時半就床

今日モ一日色々空想ヲ畫クノミデアッタ

▲▼23ページ▲▼ 大正3(1914)年1月22日(木)

天気 快晴

午前九時過ぎ宅ヲ出テ奈良原氏ヲ訪フ 電車賃ナケレバ無論徒歩 昨日帰京シタレドモ金ナシト云フ。今日ヨリ運動シテ金ヲ作ルナリト。イツ頃出來ルヤト云フニ、分カラズ出來次第手紙ニテ知ラスベシト 又朝鮮ノ勘定ニ付テハ富山金沢へ行ツタ時ニ相済ミ居ル筈ニテ、今日迄残り居ル訳ナク白戸ガ、ゴマカシタルナラントノコト 余ハアキレテ言ノ出ズル處ヲ知ラズ。最早ヤ、スベテ絶望ト見テ帰途加藤君宅ニ行キ旅費トシテ金八円調達ヲ依頼シ三時頃帰ル 今日ハ、ツヒニ晝食ヲ喰ワズ、電車ニモ乗レズ帰宅ス。ア、ナサケナキカナ。親ニソムキ、兄姉ニ心配サセ、ナニ面目アツテ帰ルコトヲ得ン 余タルモノ実ニ涙ヲ禁ズル能ワザリキ

河村ノ御母サンハ飛行機デナク商業ヲスルナラ、少シ位資本ヲ出シテモ宜イトマデ余ニ親切ヲツクサレタリ。ア、同情深キ人ヨ

▲▼24ページ▲▼ 大正3(1914)年1月23日(金)

天気 晴

今日ハイヨ、出發デアル 御晝頃ニナツタガ加藤君ガ來ナイ 少々氣ニナツテ來タ 一時過ぎ電話デ金出來タカラ取りニ來テ呉レトノコト 早速出カケタ。ソシテ別レダトテビールヲ抜イテ居ル處へ白戸君ガ來タ 例ニ依リ質物ヲ頼ミニ來タノダ。其内僕ノコトデ奈良原氏ノ宅へ行ツタ親父ガ帰ツテ來タ。奈良原氏ニハミレンノ無サソナ話振りダツタトノコト。サモアリナン。サレバゴソ帰ルノダ

四時頃辭シテ帰途ニ三ノ買物ヲナシ六時帰宅 夕食後荷造リヲナス内、時間セマル處へ白戸君來 餞別トシテ二円ヲ出ス 余之レヲ受ケニ三會話 六時半皆様ニ別レヲツゲ宅ヲ出ツ。ステーションニハ、白戸ノ妻君モ來テ居タニハ一寸意外ダッタ ソレニ河村氏ニ芝ノ女加藤君トベテ五人ノ見送り人 僕ガ東京へ來テ以來ノ出來ゴトデアッタ

▲▼25ページ▲▼ 大正3(1914)年1月24日(土)

天気 晴

三時前濱松ニテ河村ノ御母サンガ好物ト云フノデ濱納豆ヲ二個ト父ニワサビ漬ヲ求メタ 十時梅田着 十一時宅ニツキ西ノ家トすしやガ心配シテ呉レテルカラ早ク行ケト云フノデ一寸顔ヲ出シニ行ツタ 晝食後入浴 新世界ニ行キ活動ヲ見テ夕方帰ルナン

ダカ淋シカッタ

夜父居ズ 姉ト兄ト延次郎君ト四良平君ノ前ニテ今後ノ方針ヲ計ルニスベテ不却 最
後ニ海外留学ノコトマデソレナラ姉ガ引受ルトノコト 先ヅ一考ヲ要ス 夜八時半就眠

▲▼26ページ▲▼ 大正3(1914)年1月25日(日)

天気 晴

八時過ぎ起床 姉二十円ヲ貰ヒ加藤ニ爲替ヲ組ム

午後河村、奈良原、白戸、加藤、浅井、石黒ニ手紙、ハガキ等ソレミニ出ス 一時頃大
正館ニ喜劇ヲ見夕方帰 二階ヲ方付書籍其他ヲ整理ス 夜十一時過ぎ就眠

▲▼27ページ▲▼ 大正3(1914)年1月26日(月)

天気 晴

今日ハ旧暦正月元旦トテ朝早く起コサレ、御雑煮ヲ祝ツタ

模型製作 三時頃温泉ニ行キ夕食後千日前ノ常盤ヲ見タ 十一時帰宅
發信 川辺佐見君

▲▼28ページ▲▼ 大正3(1914)年1月27日(火)

天気 晴

十時起床 朝晝食共ニス 模型製作。夜延次郎君ト新世界ノ俗ニ、寓クダト云フ、オ
デンヤニテ酒ヲノム

帰途玉突ヲヒヤカシテ帰宅 再ビスシヤニ行キ杯ヲヒゲ十一時過ぎ床ニツク
浅井氏ヨリ來月二日來談トノ返來ル

▲▼29ページ▲▼ 大正3(1914)年1月28日(水)

天気 快晴

終日模型製作 夕方温泉ニ行ツタ 七時夕食ヲ終ル 今夜ハ春次君ヲ第一ニ延次郎君
井筒君、石垣君外ニ二三人女モ來デ例ニ依ツテ大分賑ヤカデアッタ

八時頃延次郎春次ニ君ト新世界ニ遊ビニ行ツタ
九時頃難波ニ火事ガアッタ

發信 白戸河村ニ君

▲▼30ページ▲▼ 大正3(1914)年1月29日(木)

天気 晴

模型製作 材料ガナイノデ近所ニ買ヒニ行ツタガ何處ニモナカッタ 仕方ガナク大分骨ヲ折ツタ 夕方公園ニ散歩ニ行ツタ途中新世界ノ中デ「カンナ」トホーノ木ヲ求メタ 夜例ニ依ツテ六七人來客ガアツタ。久シ振りデ岩崎君モ來テ少シ飛行機ノ話モシタ 十時床ニ入り喜劇ノ本ヲ見テ眠ル

▲▼31ページ▲▼ 大正3(1914)年1月30日(金)

天気 晴少曇

模型製作 夜散髪ノ帰りニ、スミクダニテ一杯ノム
帰宅後喜劇集ヲ讀ミ就眠ス

▲▼32ページ▲▼ 大正3(1914)年1月31日(土)

天気 晴

九時起床 新聞ヲ讀ム 後チ模型ニ張ルベキ布ヲ買ヒニ行ク 松屋町通りヲ随分サガシタガ皆紙バカリ 出來テ居ルノヲ見テモ布ノ張ツタノハ一ツモナカッタ
帰途心齋橋通ヲサガシタガ同一 仕方ナク道頓堀ニ出デパウリスタニ入りコーヒニ菓子デ腹ヲ作り千日前ノ芦戸俱樂部ニテ白対黒ヲ見ル
帰宅後温泉ニ行キ新世界ヲ見テ帰り夕食
夜延君ト又新世界ニ行キパイーノ後チ玉突場ヲ素見シテ帰ル。丁度釣鐘屋ノ夫人、娘ヲツレテ來合セ正ニ帰ラントスル處ナリキ 久シ振りノ対面ナリシ

▲▼35ページ▲▼ 大正3(1914)年2月1日(日)

天気 晴

終日模型製作 夜モ又…
九時頃終リ新世界へボタンヲ買ヒニ行ク
白戸ヨリ尋ネ來ル 明日下神ノ趣キ返ス
發信 白戸河村ニ君

▲▼36ページ▲▼ 大正3(1914)年2月2日(月)

天気 曇少雪

時事 堂島坐ニ於テ当市廢税並ニ海軍問題演説アリ
九時起床 温泉ニ行キ公園ヲ散歩シテ朝食後運動服ヲ着シ十時半頃宅ヲ出ル 十二

時神戸着ニノ宮ヨリ楠町ヲ尋ネナガラ、ヤット見附ケテ訪レシニ一足違ヒニテ出懸ケタリト 不止得、夕方再來ヲ期シテ福原遊郭ヲ抜ケ公園ニ出デ、活動ヲ見テ三時頃引返セシモ時間早ヤケレバ今ノ中ニ晝食センモノト料理店ニ入り精肉ニテ一二本杯ヲカタムケ、食事ヲ終ツテ浅井氏宅ニ行クニ一時間程前帰宅サレシモ又一二軒行ク處アリトテ出懸ラレントノコト。約束アリシニカ、ワラズ余リ失敬ナト思ヒシモ其内ニ帰ラル、トノコトニ又公園ヲ散歩シ福原ヲ通りシニ数年前遊ビシ事ヲ思ヒ起シ其家ノ前ヲ通りシニ、其マ、名モ東布引トシアリタリ。約五十分程シテ行キシニ、マダ帰ラズ 降雪シオリナレバ、ツヒニ帰途ニツク。神戸ニテハカラズ模型ノ布ヲ得

發信 白戸浅井 受信 白戸

◆▼37ページ◆▼ 大正3(1914)年2月3日(火)

天気 晴

終日布張り 夕方四良平君來 手傳ツテ呉レタノハ宜イガシワクチャニ張ツタノデ又張直シ

夜延太郎君來 共ニ大正館ニ喜劇ヲ見帰途、新ビリ軒ノスミクダニ依ル 同軒ノ女中お清君アリ 年十七 容美スコブル働クトノ噂サ

十時過ギ帰宅 余ガ折格骨折ツテナラベ居キタル、ソケットヲメチヤ、ニシテアッタノデ大ニ立腹シタガ其マ、寝ニツイタ

◆▼38ページ◆▼ 大正3(1914)年2月4日(水)

天気 晴

布張リト翼ノ組立ヲナス。夕方延次郎君石垣君ト温泉ニ行 長イ間待ツテ喜劇ヲ一ツ見テ帰ヘッタ。モー七時頃デッタ

延次郎君ノ張込ミデ「ウドン」トスミクダへ行ツタ。八時帰宅夕食。年ヲ取ル。其内皆ンナ居ナクナツタノデ留都(ママ)事ニ又三人デ内ノ酒ヲ呑ミ初メル處へ一人二人トダシ、増シテツヒニ五六人男バカリアツマツタ。姉ガ石風呂へ行ツテ居ルノデ又兄ヤ三四人ハ石風呂へ行ツタ。余ト延次郎君ト西ノ姉ト又スミクダへ行ツタ。御清サハ居タ

十時頃帰ツテ來タ 姉モ帰ヘツテ來タ 何ンダカ、ヘンナ工合デアッタ。ドーモ内ガ〇ク行カナイ 困リモノダ

離榮君在リ 雁風呂ヨリ御馳走ヲ持參ス 又喰ミ初ム 十二時頃就眠 余モ、ヨツタ。兄ハ、レケニナツテ帰ツテ來タ

スベテノコトハ善意ニ解スベシ、ソコニハ満幸福アリ

▲▼43ページ▲▼ 大正3(1914)年2月5日(木)

天気 曇り

久シ振りデ七時起床 ブラ、公園ヲ散歩シ今日行フベキ事ヲ心中ニ調フ 帰宅後モ氣持ガヨカッタ 朝日記ヲ書キ切抜ヲ整理シ白戸河村ニ君ニ手紙ヲ書キテ後チ今日ハ模型ノ両翼ヲ作ル

夜延次郎君ト今一人ト三人ツレニテ新世界ヲ散歩ス 九時就床

▲▼40ページ▲▼ 大正3(1914)年2月6日(金)

天気 曇晴

九時起床 エンジン製作

夜朝日坐ヘ行フト思ツタガヨシタ。ソシテ又スミクダヘ行ツタ 九時就眠

▲▼41ページ▲▼ 大正3(1914)年2月7日(土)

天気 曇

七時起床 温泉ニ行キ公園ヲ散歩ス 北風寒ク空模型(ママ)悪シ發動機出來上ガル

六時ヨリ町内親勇會ノ新年會ニ父病氣ノ爲メ代理ス 三時出席ノ豫定ガ八時頃漸ク宴開カル

十一時頃中坐ス 何シロ始カラ終リ迄ゴタスタ、、、、、実ニ不快ナル會合ナリキ。帰途スミクダニ依ル 御清サンガ、ノゾキニ來タ。帰途再ビ支那料理ニテ、シヤンハンデ腹ヲ作り十二時帰宅。兄ハ明朝伊勢ニ行クトテ土産物ヤナニカト整理シツ、アリタリ

▲▼42ページ▲▼ 大正3(1914)年2月8日(日)

天気 雨

七時半起床 エンジンナラビニ坐席、ハンドルヲ作ル

夕食後階上ニテ此記事中河村氏ヨリ小包着ス 何ニヤラ、ガラ、鳴ツテ居ル 楽シミダ 此記事九日サリ

小包ノ中ハ田丸屋ノカキ餅デアッタ 外ニ切抜モ這入テ居タ 八時床ニ入り切抜ヲ整理ス

▲▼43ページ▲▼ 大正3(1914)年2月9日(月)

天気 雨

小包ノ中ハ田丸屋ノカキ餅ゴアツター 外ニ切抜モ遣入テ居ター 八時床ニ入り切抜ヲ整理ス

十時起床 新聞ヲ讀ミ河村氏ヘ礼状ヲ出ス
午後テール取付ケハンドルヲ作ル

夜西ノ延次郎君來 共ニ朝日坐ニ活動ヲ見ル
帰途新ビル軒ニ依ル

▲▼44ページ▲▼ 大正3(1914)年2月10日(火)

天気 晴

時事 東京日比谷ニ於テ海軍問題ニツキ国民大會アリ

午前九時起床 温泉ニ行キ浴湯 コーヒーヲノミ帰宅

今日ハ坐席ヲツクリ操縦線ヲ張ル

夜來宅者二三 雑誌ノ中ニ時ヲウツス 十時床ニ入

▲▼45ページ▲▼ 大正3(1914)年2月11日(水)

天気 晴

時事 天王寺公園ニ国民大會アリ

九時起床 油タンク、ペンキ塗り カーブレター等ヲ作ニ五時ニ至ル

夜夕食後漸(ママ)時シテ新世界ニ行キ帰途一軒ノンデ、スシヤニ行ク

九時過ぎ就床後豆滑走發着機ノ設計ヲナス

▲▼46ページ▲▼ 大正3(1914)年2月12日(木)

天気 晴

十時起床 新聞ヲ讀ミ河村氏ヘ礼状ヲ出ス 御母サンノ名前ヲ
午後テール取付ケヲナス 五時半終ル

八時過ぎ起床 マグネトヲ作ル。ペンキ乾カズ仕事出來ズ

午後清平ヲ連レテ活動ヲ見ニ行ク。一ツ見ルカ見ナイ内ニ帰ル。帰宅後伊勢へ兄ノ礼状
ヲ出ス外ニ白戸河村加藤大ロニモ

夜十時床ニ入ル 眠レズ 十二時頃ブックヲ取出シテ眠レヌマニ思ヒツキタル室内飛行
機ト真空取付機ノ圖ヲ引ク 三時前眠リニツク

▲▼47ページ▲▼ 大正3(1914)年2月13日(金)

天気晴

ペンキ乾カズ終日何事モナサズ 午後大正館ニ喜劇ヲ見ル
夜就床後少時努力論ヲ讀ム

▲▼48ページ▲▼ 大正3(1914)年2月14日(土)

天気晴

午前九時起床。カーブレター、マグネト、オイルポンプ同パイプ、タンク等ヲ取付ケ、メ
インブレーモ付ケタ刻ニ及ブ
夜春次君井筒君來 十時頃迄雑談 就床

▲▼49ページ▲▼ 大正3(1914)年2月15日(日)

天気晴

九時起床 昨日不備ノ點ヲ作リイヨ、正午完成ス
午後一時半ヨリ大正館ニ喜劇ヲ見ル 日曜ト十五日ガ一所デ大分賑ヤカデアッタ
夜山本ノオジ來 姉ノ話ナラン 兄ト相談ノ爲メ鳥佐ニ行ク
九時頃ヨリ新世界ニ行キ一杯ノム。三合カタムケテイ、心持ニナリテ帰ル
前商會ノ田辺氏ヨリ余、河村氏ニ居ルツモリニテ出セル手紙來ル 其後ノ模様聞キタシ
トノコト
彼レ一個ノ私見カ主人ノ命カ少々考ヘモノナリ

▲▼50ページ▲▼ 大正3(1914)年2月16日(月)

天気晴

午前田辺氏へ返書ヲ書ク。ホンマノ記ノ中ニ写シ置ク
午後模型ヲ写真ニ取ル
夕方公園散歩
夜發着機ノ設計ヲナス

▲▼51ページ▲▼ 大正3(1914)年2月17日(火)

天気 快晴753

午前八時起床 新聞ヲ讀ム
終ツテ破レタル又古ビタル障子ノ張替へ 一時終ル 入浴 湯屋アリ帰宅 水屋、鏡台、
火鉢等ノ修理ヲナス

七時頃ヨリ延次郎君春次君ト新世界ニ行ク 横重ニテ肉ニテ酒ヲノム 價頗ル廉
九時過ギ帰宅 姉結婚ノ事ニ付キ鳥佐、四良平西ノ姉諸君來合ワス 余ハ夕方ヨリ此
事アルヲ知ルモ之レヲ、サク 即ニ余ハ宅ノコトニツキ發言權ナキコトヲ自ラ知ルガ故
鳥佐ノ已ノ君ニ模型ニツキ説明ヲ與フ
十一時床ニ入ル 階下ニハマダ想(ママ)談ノ模様ナリキ

▲▼52ページ▲▼ 大正3(1914)年2月18日(水)

天気 曇753

午前九時起床 岩川氏へ奈良原氏ノ近況ヲ聞ク爲メ手紙ヲ出ス
午後二時頃ヨリ大正館ノ活動ヲ見六時帰宅 夕食後雑誌 八時床ニ入り模型ノ本ヲ
見ル

▲▼53ページ▲▼ 大正3(1914)年2月19日(木)

天気 曇747

九時起床 新聞ヲ讀ミ晝迄カキ餅ヲ焼ク
午後小グライダーノ製作ヲナス

竹島へ上手ナ易者ガ來テ居ルトテ余ニシイテ易ヲ見テ貰フ。例ニ依ツテ成功オボツカナ
シトノコト。シイテヤルナラバ今月來月ナレバ西或ハ西北ノ方ニテ材料ヲ求メルカ或ハ行
キテナスベク 四月ニ入ラバ東ノ方

夜八時床ニ入りテ工學講義録ニアリタル飛行機高度測定法ヲ手帳ニ写ス
九時頃信チヤン來 自前ノ祝ノ爲メ
姉写真ヲ写ス 結婚見合ノ爲メ。飛行機ノ写真出來ル

▲▼54ページ▲▼ 大正3(1914)年2月20日(金)

天気 曇747

九時起床 河村白戸加藤諸君へ二枚ツゞ 奈良原田辺二氏へ一枚ツゞ、写真ヲ送ル
午後グライダー一ツツクル

夜右同ジク設計中十二時頃兄ハ田中芳、野田、吉田ノ三氏ヲ連レテ歸リ來ル 酒ニ、ヨ
ウテ皆へベレケナリ。余ヲ床ヨリ起シテ田中芳、易者ノ言ニ依リ飛行機ヲ斷念シテ西北
ノ方ニ進ンデ何カ事業ヲヤラレタシト意見ヤラ希望ヤラ 注(ママ)告ハ有難ケレドモ、ヨ
ッ。パライナガラノ御説教ハ余リニ失敬ナ

然シ余モ帰坂以來此度ハ斷念ノ止ムナキニ至ランコトハ豫期セシ處。サレド…

▲▼55ページ▲▼ 大正3(1914)年2月21日(土)

天気 晴751

九時起床 僕ノ写真ガ出来テ居タノデ一枚河村サンへ送ル 外ニ田辺奈良原白戸諸氏へ端書ヲ出ス

晝何ニカノ話シカラ父ガ妾ヲコシラエテ甚ダ宜シカラズ 兄ハ例ノ酒グセニテナドト姉ガ泣イテコボシタ 實際姉ニハ氣ノ毒ニ堪エナイ

午後十五錢デ千日前ニ活動ヲ見タ。中ニ空中ノ慘事ト題シテ飛行機發明苦心晝ガアツタ。ソレデ遂ニ成功シタ 僕ノ今ノ身ニ取ツテ一ツノ、シゲキヲ與ヘタガ余ハ尚マヨツテ居ル。今日ハ歩ミナガラモ將來、取ルベキ手段ニツキ色々ト考ヘタガ、ヤハリ模型屋デモシテ行ク、ハ飛行機製造所デモ興スヨリ外アルマイ
夜モンシナ話シデ十時頃ニナツタ。頭ガ痛ム。

▲▼56ページ▲▼ 大正3(1914)年2月22日(日)

天気 曇後雨750

九時起床 新聞ヲ讀ム 晝前田辺氏ヨリ返書來 イツレ其内手紙差上ゲトノコト 何ニカ考ヘアルナラン

三時頃ヨリ大正館ヲ見ニ行ク 夜八時頃帰宅夕食中白戸君ヨリ手紙來 石黒來リ内山ト手ヲ切ル由 ソレニハ三千円ヲ以要ナリトテ仙台へ調達ニ趣キシ由 今月中ニハ決定ノ由 小生ノ意見ヲ聞キニ來ル

小生モタトエ商業ヲ始ムルニテモ資本金ヲ要スレバ今一度ヤツテ資本金デモ残シ度ク思ヒタレバ、決定ノ上ハ上京ノ趣キ返信ス

▲▼57ページ▲▼ 大正3(1914)年2月23日(月)

天気 曇748

九時起床 今日ハ何事モ手ニツカズ近所ヲ散歩スルコト三回 公園ニ一回 其間々ニ瓦斯機関努力論ヲ讀ミ僅カニ得ル處アリ

朝温泉ニ行ク

夕河村氏ヨリ切抜來ル 夜床ノ中ニテ整理ス

▲▼58ページ▲▼ 大正3(1914)年2月24日(火)

天気 晴750

八時起床 姉ニ話シテ金五円ヲ得河村氏へ送ツタ。コレデ氣ガ晴々トシタ

午後白戸君カラ石黒北海道ニ帰り内山、發動機ヲ他賣ツタトノコト
夜余リタイクツナノデ小説ヲ借りテ來テ讀ムコトニシタ

▲▼59ページ▲▼ 大正3(1914)年2月25日(水)

天気 曇746

九時起床 終日小説ヲ讀ミ夜八時頃迄二六冊ヲ讀ミ切ル
夕方白戸君ヨリ手紙來リ、五千円ニテ、發動機飛行機共ニ取レルカラ浅井ニ相談サレ
タシトノコト ト二角明日下神スルコトニシ、五千円トハ余リニウマ過ギルノデ確實ナコト
ヲ調ベル様手紙ヲ出ス

▲▼60ページ▲▼ 大正3(1914)年2月26日(木)

天気 晴

七時二十分起床 仕度シテ下神ス 十時頃浅井氏宅ニツクニ、マダ寢テ居タ。戸ヲ明ケ
テ貰ツテ中ニ入ル 妻君ヲシキ女何ンダカ見タ様ナト思ツタガ道理 佐渡島へ來テ居タ
宅ノ近所ノ女デアッタ 奇寓
ソレカラ色々話シテ居ルト浅井ト云フノハ延次郎君ノ友達ト云フコトモ分カッタ
晝食ヲ御馳走ニナツテ大倉山ニ伊藤公ノ銅像ヲ見テ三時頃帰途ニツヒタ
話ノ要點ハマダ新ラタニ之レカラ運動スルノデアルガ、今日モ一人金里ノ使ガ來テ居タ
最(ママ)非成立サストノ意気込ミ
帰途古イ以前遊ンダ三ツ目亭ノ前ヲ通り這入ト思ツタガ金ハ持ツテ居ルガ余リ使ツテハ
ト思ツテ、帰ツタ。

▲▼61ページ▲▼ 大正3(1914)年2月27日(金)

天気 曇750

十時起床 日記ヲ附ケ切抜ヲ整理シ白戸君ニ昨日ノ結果ヲ報ズ
午後温泉ニ行ク。帰宅後モーターヲ讀ム
夜新世界ヲ少時延次郎君ト共ニ散歩シ、帰宅後又小説ヲ借りテ床ニ入り讀ム
姉八時頃イヅレニカ行キテ帰ラズ 三時頃ニ帰り來ル 其レ迄余モ又眠レズ苦シカリキ

▲▼62ページ▲▼ 大正3(1914)年2月28日(土)

天気 快晴756

終日小説ヲ讀ム 人ノ兄ト題スル立志小説 得ル處ナキニアラザルモ余ニハタシテナシ得

ルヤ否ヤ

午後公園ヲ散歩シツヒデニ發明品博覽會事務所ニ就イテ、ルンブラー出品ノ有無ヲ聞クニ出ルトノコト

夜白戸カラ手紙來 發動機飛行機ハ、スデニ都築氏ニ賣渡シタルモノ、五千円ニテ取引出來白戸ニハ其マ、譲ルトノ由

▲▼65ページ▲▼ 大正3(1914)年3月1日(日)

天気 快晴

十時起床 清平ヲ連レ新世界ルナパークヲ見ニ行キシニ十二時開園トノコトニテ帰宅。西ノ内ニ行キシニ井戸端ニ姉アリ。ポンプ壞レタリトテ、ツルベ綱ヲ製シ居タレバ一寸ポンプヲ分解シテ直シヤル

午後大正館ノ喜劇ヲ見夕方、帰宅。カシワト牛肉ノすき焼 今日ハ一日ナレバ酒ヲノム。食終ルヤ表ノ方ニ声アリ。大口君來ル 意外ナガラ台湾ニ行ク途トハスグ知レタリ

種々東京ノ模様ヤ飛行界ノ有様、野島氏幾原氏ノ關係等ヲ聞キ又話ス

内本町二丁目ニ用時(ママ)アリトノコトニ同道シ十一時其宅ヲ出デ新世界イロハニ上リテ酒ヲ呼び又話シヲナシ十二時半共ニ帰宅 少時ニシテ兄姉モ帰り來ル。姉ニ味ヲ引キ一寸賑ワイテ一時過就眠ス

白戸ト鳥飼合同ストノコト 眞否ハタシテ如何

▲▼66ページ▲▼ 大正3(1914)年3月2日(月)

天気 雨743

七時起床 大口君ト温泉ニ行キ帰宅 朝食ヲスマシテ神戸ニ行ク 十時半、野島氏ノ宿森商店ニツク。野島氏大ニ待チアグミ居ル處ナリキ。直チニ波止場ニ行ク。ソコニハ台湾ノ人モアリ。立話ノ内ニ時間セマリ小蒸氣ニテ本船ニ行ク 雨上リタレドモ風ハゲシク波高シ。帰りハ、ホトンド、クツガエラントセシコト四五度。時川辺、玉井ニ氏來リ、共ニ野島氏ト同友人松村氏ト牛肉屋ニテ晝食ヲナス

松村、川辺、玉井諸君ト余ハ飛行機ヲ郵船倉庫ニ預ケニ行ク。翼ガ小サイカラ寒ニ荷造リモ工合ガヨイ 三時頃森氏宅ニ行キ写真帖ナドヲ拝見シテ松村氏ト共ニ大阪ニ帰ル

海野氏今月二十日頃クリスト・ファーンソン氏ト共ニ來ル由。野島氏余ノ爲メニ添書ヲ書クトノコト 明日拙宅ニ行クト云ワル

夜延君トイロハニ酒ヲノミビリ軒デビールヲ呼び大スイス

▲▼67ページ▲▼ 大正3(1914)年3月3日(火)

天気 曇743

午前八日記ヲ付ケ、切抜ヲ整理シ午後八本ヲ讀ム
夜モ雑談。ツヒニ本日ハ表ノシキヲマタガザリキ
野島氏ツヒニ來ラズ

今日妙ニ將來ノコトドモ氣ニ成リテヤリキレズ、頭ヲナヤマシム

▲▼68ページ▲▼ 大正3(1914)年3月4日(水)

天気 晴

終日ブラ、ト川辺君ノ來ルノヲ心待ニシタガツヒニ來ナカッタ

種々思案ノ決(ママ)果今一度ダケ飛行界ニ飛ビ出シイヨ、イケナケレバ斷然思ヒ切ル
ベク姉ニハカル。シカシテ今年中ノ、ユーヨヲ得

加藤君來信

加藤河村二氏へ發信

▲▼69ページ▲▼ 大正3(1914)年3月5日(木)

天気 快晴

七時半起床 仕度ヲシ神戸ニ行ク 時九時半

川辺玉井二君ハ積込ミニ行キシトノコトニ余モ後ヲオイシモ出會ハズ 遊園地ナド散歩

シテ時間ヲ空費シ、晝食ヲ喫シ再ビ森家ニ行キ野島氏ト飛行談ヲナシ海野氏ニ照會状
ヲ貰フ。坂本鈴木両氏ハ余リコノマシカラザル組織ナレバ照會セザルベシトノ意見ナリキ

三時半頃川辺玉井両君帰り五時頃込會談 川辺君ト共ニ夕食ヲナスベク〇〇〇亭ニ

行ク 七時帰途ニツク 十時就床

▲▼70ページ▲▼ 大正3(1914)年3月6日(金)

天気 曇730

九時起床 温泉ニ行キ日記ヲ付ケ新聞ヲ讀ミ、竹島ノ裏ニ兄ヲ訪ヒ東京行キヲ談ズ
意外ニ心好ク惹ス

午後大山館ノ活動ヲ見ル

夕方伊勢ノオバト延次郎君來 爲次郎君ハ九時五十分ノ列車ニテ朝鮮ニ行ク

オバハ姉ノ結婚ノ事ニツヒテナリシモ、スデニ他ニ結(ママ)定セシ後 余代筆シテ其旨伊勢
ニ報告ス

十時半就床。折柄ニツ音鳴ル 窓ヲ開クレバ遠ク西南ニ火焰ノ昇ルヲ見タ

▲▼71ページ▲▼ 大正3(1914)年3月7日(土)

天気 晴730

不圖ト目ガ醒メルト、ザーザーゴトント物スゴイ音 大変ナ風雨デアッタ

朝ニナルト雨ハ止ミ空全ク晴レテ居タガ風ハ随分強ヨカッタ。船ニ乗ツテ居ル人等モ南風ニ出會ツタ筈ダガドーシタ事ダロー

十時頃ヨリ物置ヲ整理シタ 御晝迄カゝッタ 身体中ホコリダラケ

午後ハブラゝ、夕方大正館ニ行キ八時半帰宅 夕食ヲナス

九時過ギ姉等買物ヨリ帰ル 余ノ帽子モ買ツテ來テ呉レタ。兄ガ失シテ呉レタ御蔭デア等ノ品ニナツテ有難イ

▲▼72ページ▲▼ 大正3(1914)年3月8日(日)

天気 快晴740

春ラシイ麗ラカナ日曜日デアル 午後カラ土佐堀ノ田坂氏ヲ訪レ海野氏ノ帰期ヲ聞キ野島氏ノ事傳フツタヘタ

海野氏ハマダ船ニ乗ツテ居ナイトノコト 大分ソレデハマダゝ、明ラカナコトハ分ラナイ

帰途北濱ニ滋野氏ノ事務所ヲ尋ネタガ分ラナカッタ ソレカラブラゝ、心濟(マ)橋通リヲ南下シテ道頓堀ニ出テ。ハウリスタデコーヒーヲ吞ミ千日前ニ敷島俱樂部ヲ見テタ刻帰ル

夕食後新世界ニ散歩シ九時頃帰ル 西ノ延次郎君ト兄嫁トガ何ニカ云ヒ合ツテ居タ。ウルサイ人タチ。然シ三十分程デ事ハオサマッタ 余ハ就床

河村氏へ又々出京何分宜シクトハガキヲ出シタ

▲▼73ページ▲▼ 大正3(1914)年3月9日(月)

天気 雨745

終日シトゝト降ツタリ止ンダリシテ居タ

午後一時半頃カラ温泉ニ行ツタ

夜ハ又別ニ何事モナスコトナク終ル

▲▼74ページ▲▼ 大正3(1914)年3月10日(火)

天気 曇747

今日モフルミフラヅミノ陰気ナイヤナ日デアッタ

終日小説ヲ讀ミタ方カラ結婚ニ用ヒル紙ヲ折ツタ 約ク七十組程出來タ
夜延次郎君ト新世界ニ行キ、新ビリ軒ハ余ガ金ヲ出シソレカラ丸太がうしニテノミ初メ
女中ヲカラカヒ出デ、朝日軒ニ行キビールヲノミ約三十分程遊ンデ帰宅 シバラクスル
ト姉ガ帰ツテ來タ

▲▼75ページ▲▼ 大正3(1914)年3月11日(水)

天気 曇少雨

九時起床 十一時頃温泉ニ行ク

午後エビス館ニライオン狩ヲ見タ

朝白戸君カラ手紙來 鳥飼トヤルニツイテ來テ呉レトノコト 手間四十円一ヶ所ニ付

外ニ日当ニ円旅館自分持汽車汽船二等賃金ヲ給ストノコト

兎ニ角上京ノ旨ダケ返信ス

▲▼76ページ▲▼ 大正3(1914)年3月12日(木)

天気 曇後晴

午前中ブラ、午後築港ノ八木氏へ姉結婚ノコトヲ知ラセニ行ク 丁度不在中ニテ、

其間ニ入港中ノ軍艦アツマ浅間ヲ見ニ行ク 余ノ舟ハ吾妻行キデアッタ。色々見セテ呉

レタガ上甲板バカリデ下ノ方ハ昨年追ハ見セタガ此頃ハ見セナイトノコト 何故ダカワカ

ラナイガ水兵モコボシテ居タ

僕ハアマリニ小サイク感じタ。他ノ人々ハ大キイ、ト云ツテ居タ。ソシテスベテガ、モツ

サリシテ居ル様ニ見エテ、コンナ機械ヲイジクツテ、キビンナ働キガ出來ルノカト思ツタ。

シカシ平常練習シテ居ル爲メニハ余ノ考ヘハ余リニ過ギタト思ツタ

見終テ五時頃八木氏ヲ訪フ 妻君ガ小兒ヲダイテ一人居タ 御不沙汰ノ挨拶ヤ飛行

機ノ話シデ少時居タイガスグデテ帰途千日前ニ軍神ノ写真ヲ見タ

▲▼77ページ▲▼ 大正3(1914)年3月13日(金)

天気 晴

午前八時半起床 父頗ル不氣元(ママ)ノ由 余ハ厚司ヲ暑裏ニ敷クベキ煉瓦ヲ竹島ヨリ

運ブ 数三百枚

終リテ竹島ノ倉庫ニアリタル海軍拂下ノ魚型水雷ノ圧縮空気エンジン分解シ得ル處ア

リ 午後三時頃終ル

夜延次郎君ト中辺館ヲ見十時帰宅就床

▲▼78ページ▲▼ 大正3(1914)年3月14日(土)

天気 雨曇743

シト、ト降ツテ居ルノモ御晝頃カラ晴レタ

午後大正館ヲ見ニ行ツテ五時頃帰宅

夜八時頃就床

▲▼79ページ▲▼ 大正3(1914)年3月15日(日)

天気 快晴748

午前中又煉瓦ヲ二百枚運ンダ

午後公園ヲ散歩シタ 發明品博覧會ノ開会式ノ上ニ今日ニカギッタ好天気トテ大分

人が出テ居タ。帰途世界館ノ活動ヲ見タ

夜延次郎君ト又新世界ヲ散歩 八時過ギ帰宅就床

▲▼80ページ▲▼ 大正3(1914)年3月16日(月)

天気 晴

午前公園ヲ散歩シ午後大正館ニ活動ヲ見ル

夜八時就床

▲▼81ページ▲▼ 大正3(1914)年3月17日(火)

天気 快晴

廿二日ニ差支ルノデ今日大掃除ヲナス 五時頃終リ入浴

夜延次郎君ト世界館ニブラウンン探査ヲ見ル

夜宅後就床

▲▼82ページ▲▼ 大正3(1914)年3月18日(水)

天気 雨後曇リ

午前九時起床 雨ノ爲メ障子張リヲ明日ニ延バシテすし屋ニ行き、西ノ内ヨリ油ヲ貰

ヒ來リ宅ニテ玉子其他ノ材料ヲ取りヨセ天プラヲツクリ酒ヲノム

午後夕方公園ヲ散歩シ夜延次郎君ト活動ヲ見ニ行ク 帰宅就床

▲▼83ページ▲▼ 大正3(1914)年3月19日(木)

天気 快晴

大分近ツイテ來タノデ内ハ何ニカト急ガシソーダ 余モ今日ハ障子張リヲヤツタ 四時頃終ツテ入浴後湯屋デ見タ広告ニヨツテ恵美須館ノ活動ヲ見ニ行ツタ
夜切抜ヲ整理シテ後チ就眠

▲▼84ページ▲▼ 大正3(1914)年3月20日(金)

天気 曇リ

午前八時起床 今日モ障子張リヤナニカト日ヲクラス
河村氏ヨリ飛行界ヲ送ラレタノデ釣鐘屋デバナ、焼ヲ求メテ送ル

▲▼85ページ▲▼ 大正3(1914)年3月21日(土)

天気 快晴

八時起床 春輝タゞヨウ好天気 天王寺カラ新世界へ随分人ノ出タ様子
余ハ宅ノ手傳イヤラ、鮓屋ノ手傳イデ急ガシカツタ 夜八時半就床

▲▼86ページ▲▼ 大正3(1914)年3月22日(日)

天気 快晴

イヨ、今日ガ式日 處ガ附近一帯二大清潔法ガ行ナワレルノデ検査ノ済ム迄畳ヲ敷コトガ出來ズ実ニ困ツタガ漸ク夕方全部ノカザリモ出來タ。九時頃知セニ依リ五六人ト共ニ余ハ辻迄出向ヘルコトニナツタ
ヤガテ式ハ方ノ如ク終ツテ酒宴ニナツタノガ十二時頃 散會シタノガ午前五時 余ハ二時頃カラ失敬シテ六時頃起キタ

▲▼87ページ▲▼ 大正3(1914)年3月23日(月)

天気 雨

朝ガタカラ、ポツリ、トトード本降りニナツテ仕舞ツタ。今日ノ宴ハ八時頃カラ開レテ十二時過ギカラ、ソロ、散會シテ二時頃ニハ全部眠リニツイタ 余ハ一時頃小林サンヲ電車迄送ツテ行ツタガ、又カルミノ中デ花(ママ)緒ガ切レテ随分困ツタ 電車モ中々出テ來ナカツタ、ガ乗ル迄ツイテ居タ 新世界ノ安料理屋ノ仲居ラシイ、連中ガ一團二三ノ男トワヤ、サワギナガラ帰ツテ行ツタ

▲▼88ページ▲▼ 大正3(1914)年3月24日(火)

天気 曇り

今日モ宴会 午後六時ニ春子太夫ヲ始メ母堂夫人其他芳子一同ト妻方ハ父ニ松清、喜代平ノ三人 御膳ノ数ハ十九人デアッタガ手傳ヤナニカデ人数ハカナニ多ク大盛況デアッタ 余モ今日ハ大分ヨッタ、ガクツレル迄ニハナラナカッタ
十二時過ギ床ニツク

▲▼89ページ▲▼ 大正3(1914)年3月25日(水)

天気 晴

昨夜ノ酒ハ頗ル好イ工合ニヨッタノデ今朝ハ非常ニ心地スガ、シク方付モノノ手傳ヒモハカドツタ 九時頃三平サントコロノお末ちやんガ今夜カラ泊ツテ居タガ帰ヘツタ
三時頃カラ大正館ノ喜劇ヲ見ニ行ツタ
夜十一時頃迄二階デ新兄ト碁ヲ打ツタリ其他ノ人ト話ヲシタリシテ床ニツヒタ

▲▼90ページ▲▼ 大正3(1914)年3月26日(木)

天気 曇

午前八時起床 西ノ内へ掃除ノ手傳ニ行ク 三時頃終リ久シ振りデ公園ヲ散歩ス。モ
ー池ノ端ノ桜ガチラホラトシテ、芝ガメッキリ青クナツタ
航空館ノ方へ行クトマダ、ルンブラーガ來テ居ナイ様デアッタ。少時ニシテ帰宅スルト西
カラ再三呼ビニ來タトノコトデ行ツテカシワデ御馳走ニナツテ延君ト共ニ帰ル
夜九時頃ヨリ金山講ヲツトム 來會者二十余人 今夜モ二時頃迄サワイダ

▲▼91ページ▲▼ 大正3(1914)年3月27日(金)

九時起床 發明品博覽會ヲ見ニ行ツタ 例ニヨツテ精米機ヤソンナモノデゴトンゴトンガ
チヤ、ハ、ヤツテ居タガ自動車ヤモーターボートヤ、ソレニ和製ノ瓦斯輪發動機ノ大分
多クナツタコトガ先ヅ目出度

オドロキ館ノ晝写真ハ先ヅ成功。美術館内ノ電気実験ハ説明ガモノ足ラナカッタ
二時頃帰宅。明日上京ノコトニ決シス
夜ハ眠クテ、ハタマラズ八時頃カラ寝テシマッタ

▲▼92ページ▲▼ 大正3(1914)年3月28日(土)

今日出發トキメテ朝カラ持ツテ行クベキ本ヤ何ニカヲカバンニ納メタ 御晝頃ニ階ノ兄
ガ五円呉レタ。シバラクスト白戸君カラ書留ガ來テ十円ノ爲替券ガ這入ツテ居タ

早速郵便局で現金ヲ受取り土産物ナドヲ買ヒ、又道頓堀迄靴下ヤネクタイヲ買ヒニ行ツタ 三時頃帰宅 少シ間ガアルノデ一寸恵美須館ノ活動ヲ見五時頃ヨリ昨日鳥佐カラ貰ツタ、すき身デタ食ヲ始メ六時半頃酒ヲノミ着物ヲ着替ヘテ車デ梅田ニ行ツタ 姉カラ十円又貰ツタ。

汽車ハ満員 京都アタリカラ乗ツタ人ハ立ンボシテ居ル人モアツタ
悪クムス様ナ蒸気トデ気持ノ悪イコトオビタシカッタ

◆▼93ページ◆▼ 大正3(1914)年3月29日(日)

天気 快晴

苦シイ思ヒヲシテ十時半新橋ニツイタ 車ヲ呼ビテ川村氏宅ニ着タ 丁度白戸君居合
ス 至二日前ヨリ毎日生ガ來ルカ、ト來タトノコト 御母サンモ丁度今御晝飯ノコト
デ生ノ噂ヲシテ居タ處ダトノコト

晝食後入浴 白戸君ト共ニテーエム商会ニ行キ鳥飼氏ニ面會 店員ハシキリニ日本飛行
機研究會ノ名稱デ各地新聞社ヘ引札様ノモノヲ發送シテ居タ 一寸手傳ツテ、麻布ノ
白戸君宅ニ行ク 前ノ家カラ少シ廣イ様デアル 妻君トモ會談 夕食ヲ馳走ニナリ、加
藤君宅ニ行クベク七時頃川村ニ帰ル 然ルニ加藤君上野ニ行キ帰途立寄ルトノコトニ待
チタレドモ遂ニ來ラズ 御母サント談話ノ内ニ就床 丈一君七百円程失敬シタトノコト
今ハ店ニアラス

◆▼94ページ◆▼ 大正3(1914)年3月30日(月)

天気 雨

七時半起床入浴 加藤君ヨリ電話アリ 朝食後訪問ス

少時雑談 保夫君ト芝浦ニ海軍製ノカフ折衷式ヲ見ル 野島氏ノ語ノ如クフロートハ
プロペラーノ軸ト水平ヲナス 重心點モフロートノ浮力中心ヨリ余リ後方ニアラザルコト
ヲ觀タリ。晝食ハ加藤君宅ニテ馳走ニナリ後チ共ニ浅草ニ行ク。先ヅ加藤君ノ用ヲ足ス
ベク山谷ノ寺ニ詣デ帰リテ帝國館ニ入り空中水雷ノ写真ヲ見テ、トラクター式ニ於テ
モフロートニ角度少ナキヲ知ルヲ得タリ。六時頃出デテ加藤君ノ案内ニテ某旗亭ニテ
夕食ヲナシ千束町ヲ素見シテ帰ル
雨シキリニテ困難ス

八時帰宅十時過御母サン芝居見物ヨリ帰ル 少時ノ後チ就床 鏡滋君落語ノ本ヲ讀
ム 余聞キナガラ眠ル

◆▼95ページ◆▼ 大正3(1914)年3月31日(火)

天気 快晴

時事 内閣組織ノ大命清浦子ニ下ル 皇太后陛下御経快ニ渡セラル
七時半起床 新聞朝食後奈良原氏ヲ訪ワント思フ處ヘ白戸君ヨリ電話アリ テーエムニ遊ビニ來イトノコトニ出懸ク。然ルニ数寄屋橋上ニテ白戸君ニ出會 不思議ニ思フ中ニ言葉アリ 十円アレバ借リタシトノコトニ丁度十円五十錢程殘金アリタレバ早速用立テル忠雄君ノ下宿料四月分ヲ支拂フ爲メナリト
晝頃迄TMニアリ 晝食ノ爲メ帰宅 一時頃ヨリ青山ニ行ク 赤坂見附辺ノ桜チヲホラト宜シ

奈良原氏夫人トモニ今シガタ外出セリトノコト 御母サン面會雜談 間モナク帰ヘラントセシニ、鮎ヲ馳走ニナリ又シバラク話ス 静子ツヒニ帰エシタル由 叔父ナルモノタゞチニ茨木ヘ身賣セシトノコト 実ニ不ビンナ者ナリ
帰途TMニ依ル 白戸君ヨリ大工ト共ニ日比谷ヨリ愛宕様ニ遊ビツヒニ白戸君宅ニ行キ夕食後帰宅。雜誌ヲ讀ム。松村ノ奥様ト御母サント御話中 十時頃帰ヘラル、鏡滋氏ト三人デ白戸君ノ噂サヤ何カデ十一時頃床ニツク
御晝頃高井商店ノ田辺氏ニ電話シテ上京ヲ報ズ 明日花川戸ニ行クベク約ス

◆▼68ページ◆▼ 大正3(1914)年4月1日(水)

天気 快晴

鏡滋氏例ニナク六時半頃起床 余七時頃起床
二月廿六日以後ノ切抜整理ヲナス 午後三時頃迄ニ通讀ヲ終ル。後チTMニ行ク。後藤アリ。余リ新ラシカラヌ、ウグイ茶背広ニ赤靴ヲハキ居タリ。唯ヤー久シ振リト言葉ヲカケシノミ 用ヲ聞キモセズ少時白戸君ト対談帰宅ス。夕刻白戸君來 聞ケバ後藤ハ都築氏ノ代理ニ來リタル由。

夕食後六時半田辺氏ヲ訪フベク出ヅ。電話ニテ聞キ覺エタル道ハタヤスク、寓居ニ着クヲ得タリ 久方振ノ面會 挨拶アツテ飛行機ノ談ニ入ル。高井氏豊間氏モ奈良原氏ノ行動ニハ少ナカラズ立腹ノ模様ナリキ。田辺氏茲後ニ發動機ヲ取上ゲヨーカト云ワレシ時余ハ、出スベキ言ヲ知ラズモクシタリキ 高井氏ノ意氣トシテ尚飛行機ニ色気ナキニアラズ。萬一ニモ余ニ彼ノ發動機貸與セラレザルニアラザルコトヲ認メ得タレドモ、今日ハサルコトハ言ワズ少量ノ酒ヲ馳走ニナリ九時五分辭シテ十時十分前帰宅。ソバヲ馳走ニナリ写真ヲ見セテ貰テ十時半床ニ入ル

◆▼69ページ◆▼ 大正3(1914)年4月2日(木)

天気 曇リ後雨

七時起床 新聞朝食後切抜ヲBookニ張ル 十時頃加藤君來 十一時頃終リ後チ河

村氏ト三人ニテ花ヲ引ク 吾レ頗ル好運ニシテ勝續ク 晝食後尚引續キ行フ 三時頃猪ノ口君來 又共ニ花ヲナス 午後ハ少々利アラズ 六時頃中止シテ加藤君帰ル 後ハ河村氏ト三人鼎坐シテ語ル。星野氏一昨日帰休ヲユルサレ野島氏ノ帰京ヲ待チツ、アリトノコト 十時過ギ追談ジテ帰ル 時ニ七日海野氏ヲ迎フベク横濱行ヲ約ス 少時ニシテ就眠

河村氏ト御母サンハ丈一君問題ニツキ心痛ノ色アリタリ

▲▼100ページ▲▼ 大正3(1914)年4月3日(金)

天氣 曇少晴

昨日猪ノ口君ト今日大正博ヲ見ルベク約シタガ天氣ガ悪イカラ來ナケレバトヨイト思ツテ居タガ曇ツテハ居タガ降ル様子モナカッタノデ十時過ギヤツテ來タ 仕方ガナイカラ共ニ出懸ケタ

ソレヨリ先朝食、新聞後敷島へ頼マレタ自動車ノ時刻ヲ通知シ後チTM二一寸行ツタ

大工ハ昨日キリデ帰ヘッタトノコト 布モダ買ワナイシ、大分タヨリナイコトデアル

上野カラ辨財天ヲヌケテ觀月橋ヲ渡リ台湾館ノ處カラ入場シタ 辨財天ノ門ガ馬鹿ニ奇麗ニナツテ居タ 池ノ中ノ噴水塔モヨカッタガ水ノ出方ガ少ナイ。機械館外國館デハ僕等ノ見ルベキモノガ多カッタ。其他ハ多ク注意ヲ拂フモノモナカッタ

シカシ、毎年開カル、博覽會ニ比シ、サスガハ大正博ダケニ、ヨホド博覽會ヲシイ處ガ多カッタ。東京館内ノ模型ハ実ニ人ヲシテ惑心セシメタ。風月デ紅茶ヲノミ五時ノ振鈴ト共ニゾロ、ト出デ、丸万デ晝食兼夕食ヲナシ、猪ノ口君ノ發議デ仲ヲ見ニ行ツタ。上野ノ花ハ満開前ニシツ、見物ダガ仲ハマダ、然シ生ケル花ハ相変ラズキレイダ 田舎ノ團体見物ガ頗ル多カッタ。十時頃帰宅 御母サンニ博覽會ノ話ヲシテ居ル處へ鏡滋君ガ帝国ホテルノ演奏會カラ帰ヘツテ來タ 十一時就床 ア、クタビレタ

▲▼101ページ▲▼ 大正3(1914)年4月4日(土)

天氣 雪

八時頃カラ降ルハ降ルハ 花ノ咲ク今日此頃ニ又雪ノ花ガ夜ニナルマデヒッキリナシニ降ツタ。ソレニ河村氏ガ福引ノ博覽會券ノ期日ガナクナツテ來タノデ最(ママ)非ツキ合ツテ呉レトノコトデ午後一時頃カラ出懸ケタ。今日ハ第一會場ノ昨日見残シタ處カラ素通り見物ト云フヤツヲヤツタ 早イノ、クナイノデ五時前ニ第二會場ハ勿論池ノ端ノ賣店迄スツカリ見テ宅ニツイタ

今日ノ様ナ日ニモ大変ナ人出デアッタ

會場内デハ河村氏ガ何ニカ余興ヲ見ヨートカ喰ウトカ云ワレタガ御金ヲ少シデモ遣ワシテハ申訳ケナシト思ツタノデツヒニ足モ休メズニ歸ツタノデ、クタブレテ、腹ガヘツテ居

タ。其変リトシテ夜食ニ鰻メシノ馳走デアッタ 九時半今日早寝トシタ

▲▼102ページ▲▼ 大正3(1914)年4月5日(日)

天気 晴後雨

時事 第二期生二名青山ニ飛行シ來ル

今日ハ寒風吹キサム随分寒イ日デアッタ 七時半起床 日記新聞朝食例ノ如ク終ッテT.M.ニ行ク マダ布モ買ッテ無イシ何ニラスルコトモナイ 十時頃白戸ガヤッテ來タ 一時共ニ帰宅 晝食後白戸君ハ石黒ヲ見舞方々福島ノ主催者ノ名義ヲ聞イテ來ルト云ツテ出懸ケタ。鳥飼氏ハ飛行興行ヲ何地カナリト申込ミガアッタ後チナラデハ製作ニカ、ラナイモノデアロー

午後中央公論ヲ觀ル内三時頃ウツ、ト少時マドロンダ

夜御母サンモ、河村氏モ不在 余ハ奥ニ階デ萬一二モ古イ五十馬力ガ借リラル、様ナコトニナツタラト思ッテ飛行機ノ設計ニ着手シタ

十時頃御母サン帰宅 余ハ床ニ入ル

居候何ントナク氣ノ置ケルモノナリ。如何ニ親切ナル家ニテモ。

イツソ兄ノ言ノ如ク、アルミニウム店ヲ東京デ開ンカ…?

▲▼103ページ▲▼ 大正3(1914)年4月6日(月)

天気 晴

午前中飛行機設計 午後加藤君處ヨリ青山ニ飛行機ヲ見ルベク出懸ケタ ブラ、徒歩ニテ洗濯物ヲサゲテ行ク 保夫君不在。実ハ明日横濱へ海野氏ヲ迎ヘニ行クノニ金カナイノデ時計ヲ必テ調達ノ爲メ來タノデアッタガ遂ヒニ云出シ得ナカツタ 其内河村氏ヨリ電話アリ 明日入港ノ筈ナリシ春洋丸今日午後六時入港ニ付キ猪ノ口君横濱ニ趣キタリトノコト。余ハ斷然今日行クコトヲ中止ス。保夫君昨日芝浦ニテ田辺氏ニ出會シタリトノコト 親父シキリニ余ガカノ發動機ヲ借ルベシト説ク

三時青山行キヲ中止シテ帰宅 白戸君今迄遊ビ居タリトノコト。シカシテ、徳島辺ヨリ飛行ノ聞合セアリタル由

少時設計 五時頃ヨリ日比谷ヲ散歩ス

試験休ミニテ巢鴨ヨリ律子嬢來 数日宿泊スル由

夜鏡滋君ノ發議ニテニツ豆ヲ喰ヒ十時過ギ床ニ入ル

▲▼104ページ▲▼ 大正3(1914)年4月7日(火)

天気 雨

今日ハ少シ活動シタ 飛行發達史ヲ畫書イタリTMへ行ツタリ加藤君トコへ行ツテ時計
ヲツヒニ小遣ヒニ替へタリシタ

夕方カラ田辺氏ヲ訪フツモリデアッタガ余リ降ルノデヒカヘタガ夕食後河村氏ニサソワ
レテ帝国館ヲ見ニ行ツタ 何ソノコトダ。

近來チブスガ、ステキリ流行シテ、スデニ千数百名ニ対シ銀坐ニモ出來タトノコト。之レ
カラ外デ余リナニモ喰ワナイコトニキメタ 万ニモ憾(マ)染スル様ナコトガアツテハ自
分ハカマワ又迄デ河村家ニ大變ナ御迷惑ヲカケナケレバナラナイカラ。

海野氏昨夜十時入港 今日水戸へ帰省セラレタル由猪ノ口君ヨリ聞ク

夕食 河村氏芝ノ人ト同妹君ノ写真ヲ持ツテ帰ツテ僕ニ妹君ノ写真ヲ呉レタ

◆▼105ページ◆▼ 大正3(1914)年4月8日(水)

天気 晴後ヒヨ

新聞朝食後昨年度ノ飛行界ヲ書ク 午後青山ニ飛行機ヲ見ル筈ノ處一天ニワカニカキ
曇リ雷鳴リ十錢銀貨大ノヒヨバラ、ト降り出シタチマチ往來ハ眞白ニナツタ 約
二時間程デ全ク止ミ又晴レタガ丁度加藤君ガ其時來テ居タノデ又花ヲ引キ加藤君ノ
一人マケ ツヒニ同君モイヤ氣ヲサシテ、ヨソト云ヒ出シソレカラ河村氏ノ色物語ヲ
長々ト承ツテ牛肉ヲオゴラレヤット幕引 終ルト夜ハ加藤君ノノロリ。コイツハ先ノヨリ
少々柄ガ悪イガ色事師。其内ニ猪ノ口君ガ遊ビニ來テ居タ 加藤君ガ帰ヘツテ後チ猪
ノ口君ト尾張町カラ新橋ノ方へ散歩シパウリスタデコーヒーヲノンデ帰ル
同君ノ話デハ海野氏ハ次船ニナツタトノコト 期日ハ十八日頃ナリト
十一時河村氏ニオタノシミヲ聞キナガラ眠ル

◆▼106ページ◆▼ 大正3(1914)年4月9日(木)

天気 晴強風

イツモ故障ガ出來テ行ケナクナルノデ朝食後直チニ青山ニ行クベク出テ一寸TMニ立寄
ツタ處アイニクト店番ヲ云附カッタ ツヒニ十一時頃ニ及ンダ ソコハ白戸君ガヤツテ來タ
デ共ニ歩ンデ青山ニ向ツタガ吹キマクル風ガ砂ヤ小石ヲ飛バシテ苦心慘憺 ヤット原ニ
出タ コレハ意外 原ハ風ハアルガ、ホコリガナイ 昨日ノ雹デマダ下ガ、シメツテ居タカラ
ダ 機ハモリスフアルマン第六號研究會式第五號ノ二機ニ破壊シタブレリオ、其他飛行
用具ヤ材料プロペラ五六種ガアッタガ説明スルモノガナイノデ、ワカラナイ人が多カッ
タ

帰途青山ノイロハデ晝食 再ビ徒歩ニテ帰ル 五時頃ライスカレーノ御馳走デスグ田辺
氏ヲ訪フベク出タ 雷門カラ歩イテ途中水菓子ヲ求メテ行ツテ見ルト表ニ錠ガ下ツテ
居テタレモ居ナイ 仕方ガナイカラ隣へ土産ダケ預ケテ、直チニ帰宅 十一時就眠

發表ニナラナイガ皇太后陛下今曉御永眠遊サレタラシイ。ア、イタマシイカナ。世八又暗黒

◆▼107ページ◆▼ 大正3(1914)年4月10日(金)

天気 晴

皇太后陛下ノ御事アリテ、ナスコトモ又手ニツカズ午後八道中記ナド讀ミテ日ヲクラス。御晝前加藤君來 スグ帰ヘツタ 鏡滋氏午後佐久間町ノ人ト博覽會ニ行キ夕方遅ク帰宅

十時半頃ヨリ鏡滋氏ニサソワレ陛下ノ御還啓ヲ拝スベク行ク 初メ新橋附近ニ居タガ前二軍人ガ立ツノデ退却シテ、ダン、土橋ノ方ニ出デツヒニ「ガード」ノ向フデ立スクンダ 刻々ニ集ル人ハ後カラ、トオシテ呉ルノデ其苦シサツタラナカッタ ヤット時刻モセマリ、御通過ヲ奉迎シテ帰途ニツヒタ 御出向ヒノ文武百官ハ思ヒ、ニ帰ヘツタノデ御行列ハ頗ル淋シカッタ。キラビヤカナ御馬車ハ雪白ノ御窓掛深クタレテ神々シク、イツモナラバ玉顔ヲ拝シ得タランニ最早、永ヘニカナワヌコトニコソナリタリケル
十二時半帰宅就眠

發信喜代市、延次郎、四良平三君へ

◆▼108ページ◆▼ 大正3(1914)年4月11日(土)

天気 快晴

今日ハ終日頭ガフラ、ト船ニ乗テ居ル時ノ様ナ氣持ガシタ 御晝白戸君來 後妻君モ來。花カルタヲナス 三時頃加藤君來 五時頃帰ル 白戸君四時頃帰ル
夜七時半頃就床 八時頃鏡滋氏芝ヨリ帰宅 芝ノスグ裏ノ辺カラ出受シタノデ彼女ト共ニ風呂敷包ミヨニツカ、エテニゲテキタトノコト 早速フラック身体ヲ支エツ、奥ニ階へ見舞ニ行ツタ。シバラクスルトニ軒程先キノ家デ焼火シタトノコトデ又二人シテ行カレタ。余ハ手傳フ處ヲ失敬シテスグ床ニ入

◆▼109ページ◆▼ 大正3(1914)年4月12日(日)

天気 晴

時事 飛行家幾原知重氏病死ス

ア、頭ガヘンニフラック 一三二度起キカケタガ立テナイ。シカシ朝食ノ時刻ニナツテ居ルノデ無理カラ立ツテ見タガムネガムカ、シテ上ゲソーニナツタノデ早速便所ニ這入ツタガ格別ノコトハナカッタ。ムネガ悪イノデ食事ハ止メテ床ニ入ツタ 十一時頃富岡醫師へ行

ツテ診察ヲ受ケタ 胃病ダトノコト。終日床ニツク。御母サンヤ鏡滋氏御清ドント交ル々々尋ネテ呉レラレタ
御書モ又キニシテ夜御カユヲ作ツテ貫テタ食ヲ終ツタ 菓ヲノンデカラ、ムネノツカエダケハトレタ

▲▼110ページ▲▼ 大正3(1914)年4月13日(月)

天気 晴後雨

家ノ内ニ病人ノアルノハイヤナモノ。ダカラ、今日ハ大シタコトモナシスルノデ床ニハツカナカッタガ、何ンダカフラツク様デイヤナ氣持チデアッタ
夕方カラ少シ好イ様デアッタガ九時頃カラ又変ニ頭ガ重クナッタ
御母サンタ方小松氏ノ宅ヨリ帰宅 鏡滋君ニ嫁ノ話ガアッタトノコト 實ニ御母サンハ氣ノ毒デアル。河村氏モ又シイテ無理ヲ云ツテ居ラレルノデモ今ノ處ハナイガ又御母サンノ御腹ノ中モ氣毒デアル。余モシ一本立ニナツタ時ハ御母サンニ充分安心セラレル様尋(ママ)カセナケレバナラナイ

▲▼111ページ▲▼ 大正3(1914)年4月14日(火)

天気 雨後晴

起キガケガ誠ニ頭ガ工合ガ悪イ 十時頃醫者ニ行ク ムネハスイテ居ルガ、ドーモ頭ガ悪イト云フト少シ脳神経ヲ弱クシテ居ルトノコト。ドーモ自分ニモソー思ワレル。然シ流行病デナクテナニヨリ。ソレノミ余喜ブノデアル。御晝頃猪ノ口君來 四時頃追遊ンデ帰ル。河村氏内ヨリおしるゝノ御馳走アリ
後チ風ハアルガ日本晴レニ晴レタ空ガイカニモ、麗ハシノデ日比谷ヲ散歩ニ出懸ケタ。TMニテ少シ休息シ日比谷ニ入ル。雨風少シ強ヨケレドモ池ノ端、柳ソヨギテ、水サラハト小波立ち、トミニ氣モ晴々シクナリシバシ、ベンチニ休ミテ帰途敷島ニ立寄り帰宅 夕食 余ノ爲メニオムレツガ取ツテアッタ 実ニ氣ノ毒デノドニツマル思ヒヲシテ食シタガ其嬉ビヲ現スベク余ハアマリニ無口ニ性(ママ)レツイテ居タ

▲▼112ページ▲▼ 大正3(1914)年4月15日(水)

天気 快晴強風

八時起床。今日ハ余程又昨日ヨリモ心持ガヨイガ全癒トハ云エナイ
三時頃白戸君來 四時過ギ打連レテ芝公園ニ散歩ニ行ツタ 余ハ横町カラ出テ御母サンノ窓下ヲ通ルト、六時迄ニ御帰ンナサイトノコト。落語ヲ聞キニ行ク都合ノ爲メナラ

芝増上寺ハ皇太后御追卓(ママ)會ヤ日露戦死者追卓(ママ)會ナドノ催シデニギヤカデアツタ。山内ノ一銭二銭ノ見世物小屋ハマルデ田舎ニ行ツタ様ナ氣ガシタ。桜ハ大抵葉桜ニナツテ若楓ヤ梅ノ新目(ママ)ガ馬鹿ニ奇麗デアツタ。帰加藤君宅ニ立寄り直チニ帰ル。六時十分夕食。八時前金沢亭へ御母サント女中二人ニ女中ノ母親ト五人連レデ行ツタ。御停止開早々トテナンダカ蔭氣デアツタガ、随分腹ノ皮ヲヨジツタ。

▲▼113ページ▲▼ 大正3(1914)年4月16日(木)

天気 晴後雨

八時起床。久シ振リデ入浴シタ後チ醫ニ行ク。胃イマダ健全ナラズト。御晝前加藤君來。荒川堤ニ行カントソソワレシモ行キタクモナク思フ内河村氏ノ發言ニテ食後ヨリ目黒ヨリ池上ニ行カントノコトニテ、ソレニ決ス。数寄屋橋ヨリ電車ニ投ジ目黒駅ニ下車。目黒不動ニ参拜。千束ノ池ヲ見ルベク遠道ヲナシ、同池ノ畔ニテ、ミカンナド喰ヒ池上ニ出ルベク進ム内ニ空アヤシク遠雷次第ニ近ヨラントシツヒニ本門寺裏ニ達スル處ヨリ猛烈ナル雨降り出テ雷鳴トゞロキタレバ本門寺ニ参詣モナサズ、コチラノ軒下アチラノヒサシト、カケツ、大森ニツキシ頃ハビシーヨヌレ電燈ノツク頃ナリシ。帰宅セシハ五時過ぎ。雨止ミ居タリ。五十銭ノ會費ノ中二十式錢割涙(ママ)シアリ。

▲▼114ページ▲▼ 大正3(1914)年4月17日(金)

天気 晴

終日何事モアラズ「モーター」ヤ小説ナドヲ讀ミ夕食ニ及ブ。夕食後金眞館へバン勇ヲ見ニ行ツタ。先キニ話ヲ聞イテアツタ故カサホドニモ思ワナカッタ。氣車ガ全速力デ進行中、レールノ上ニタヲレテ居ル女ヲ男ダキ上ゲル處ガアツタガソレハ、返(ママ)対ニ氣車ノ上カラ落スモノデアル事ガワカッタ。何故ト云フニ氣車ノ煙ガ空カラ煙突ノ中へ這入ル様ニ写ツテ居タ爲メデアツタ。十時就眠。

▲▼115ページ▲▼ 大正3(1914)年4月18日(土)

天気 晴

六時半起床。芝浦へ鏡滋氏ト共ニ行ク。海岸ニ待ツト約一時間 ツヒニ來ラズ帰途ニツク。此間青山ヨリ陸軍ノ飛行機盛ンニ飛ブ。帰宅後醫師ニ行キ十時頃ヨリ青山ニ行

ク 丁度研究會式飛行中ニテ其着陸ヲ見テ久シ振リニ奈良原氏ヲ訪フ 在宅 晝食ヲ御馳走ニナリ雑談 奈良原氏相変ラス奔走中トノ話シ 例ニヨツテイツ目ノツクコトニヤ 帰宅 練兵場ヲ見ルニ警戒オコタリナケレバ又飛行アルベシト權田原停留場方面迄行キシ處モ式飛揚シ數回五十米突位ノ低空ニテバンキングヲナシツ、飛ブ 岡力沢田カイツレカナラン 着陸前後ニ二回共見事ナリキ

帰宅 加藤君ヲ尋ネシ處丁度都築氏ヲ訪フトノコトニ同道ス 一昨日大坂ヨリ帰京セントノコト 滋野男ノ方附ニ行キシトナン。帰途芝浦ニ行キ十時頃來シリト云フフ式ヲ見、帰宅

夜田辺氏ヲ訪フ 不在。都築氏ヨリ帰途泉岳寺ニ義士ノ墓ヲトムロウ

▲▼116ページ▲▼ 大正3(1914)年4月19日(日)

天気 快晴強風

午前七時半起床 朝食 八時芝浦ニ行ク

二回ノ飛行ヲ見加藤宅ニ寄り帰宅

所在ナサニ午後一時ヨリ約二時間日比谷ヲ散歩ス 人出多シ

夜田辺氏ヲ訪フ。明夕不意ニ奈良原氏ヲ訪ヒ商会トシテノ意見ヲ聞キ模様ニヨリ余ニ何事カ依頼スルコトアルベシトノコト 余諾ス。九時帰宅 十時就床

飛行機明朝追濱ニ帰ルベシト、ヤ、強キ風ノ中ヲ、タクミニヨク飛行セリ 得ル處ニ三アリタリ

▲▼117ページ▲▼ 大正3(1914)年4月20日(月)

天気 曇リ

八時起床 晝食在宅 何事モナサズ九時ヨリT.M.ニ行キ白戸鳥飼ニ氏ト布ヲ日本橋

辻買ヒニ行ク。帰商後布ヲ断チ、ミシン屋ニ渡スベク依頼シ帰宅 晝食

午後芝浦ニ行キ各種飛行機ノ説明書ヲ書キ取ル 行キニ加藤君宅ニ立寄直チニ出ズ 三時半起床 漸(ママ)時シテ加藤君來。吉原ニ道中ヲ見ニ行クベク河村氏ト三人ニテ相談出來夕食後六時頃宅ヲ出ズ。夕食ハ余「ライスカレー」ヲオゴル

道中ハ、余リノ人出ニテ歩行出キズ八時前中止トナリツヒニ見ズ車ニテ楼ニ帰ルヲ見テ余モ帰ル 帰途河村氏發言ニテ活動ヲ見ルベク富士館ニ入リシニ目的ノ写真ハスデニ終リロニテ馬鹿ヲ見テ帰ル 十時

▲▼118ページ▲▼ 大正3(1914)年4月21日(火)

天気 快晴

八時前起床 朝湯朝食新聞後九時半TM二行ク 布マダ縫エズ午前中何事モナサズ
午後「バツン」ノ面ヲ取り五時頃終リテ帰ル 三時頃目マイシテ立掛ケアル「フレーン」
ニタオレカ、リ獨リ苦笑シヌ

夜食後切抜ヲ整理シ七時半頃ヨリ加藤君宅ニ行キ十時頃迄飛行界ノ事ヤ奈良原白
戸、前商会ノ話ヲナシ十時頃帰途ニツク 保夫君モ地方出懸ケル様進メシニアラザリ
シモ、サソウイサソヒシニ多分行クベク見エタリキ

帰途久シ振リニテ洋食ヲシタク思ヒ安洋食ヲ二品バカリヤツテ帰宅 就眠

▲▼119ページ▲▼ 大正3(1914)年4月22日(水)

天気 晴

ドーヤラ天候モキマツタラシイ 今日ハ朝食新聞後醫者ヘ行ツタ。水菓ハ今日カラ少シ変
ツタ 兎三角日ニ二度位イフラ、トナルノダカラ、コマル 昨夜ハ又鼻血ガ出タ

今朝加藤君來 九時TM二行キ布ヲ張ル 四時半終ル 帰宅 夕食 切抜ヲ見日比谷
ヨリ新橋ノ方迄散歩シテ七時帰ル
十時就眠

▲▼120ページ▲▼ 大正3(1914)年4月23日(木)

天気 晴

八時起床。TM二行ク 加藤君來共ニプレーンヲ縫フ 晝食ハ例ニ依リ帰宅 午後五時
半頃終リ帰宅 夕食後日本座へ鏡滋氏トキネトホンヲ見ニ行ク 余ハ初メテ之レヲ見ル
タゞウラムラクハ機械ノ音余リニ高キニ過ギ耳ニツク様ナリ 然シ全体ニ於テ感動セルモ
ノナリキ ポンペイ最後ノ日ハ、キネトポンニアラザリシモ史劇トシテ「カチ」アル写真ナ
リキ 晝中「NDIA」ノ盲目ハ主人公ダケニ宜ケレドモ、余少シ盲目ト云フ気分ヲ、アラ
ハシテホシカリキ

十時廿分帰宅 十一時床ニツク

ペスト芝ニモ發生 又千束町ニ有菌鼠現ワレタルトノコト 電車、活動写真館ニアツテモ
タエズ仁丹ヲフクミ警界(ママ)ス

▲▼121ページ▲▼ 大正3(1914)年4月24日(金)

天気 快晴

本日加藤來ラズ 余獨リプレーンヲ縫フ 白戸一寸トツ、手傳フ 夕方鳥飼氏ノオゴ
リデ日比谷ノ三橋亭へメシヲ喰ヒニ行ツタ

夕食後銀坐ヲ散歩シ繪葉書ヲモトメテ帰宅
十時過ぎ就眠 近頃ハ夜九時過ぎルト非常ニ眠気ヲモヨオスコト実ニ不思議

◆▼122ページ◆▼ 大正3(1914)年4月25日(土)

天気 雨

七時一寸過ぎ加藤君ヨリ電話ニテ起コサル
朝食、新聞、御灸、大坂へ通信三通 道中繪葉書ヲ送ル
本日プレーン全部完成 残ルハ都築氏ヨリ引取ルベキテールエレベーター、方向舵ノ張替
ノミ 尚塗料ハ未ダシ
四時加藤君ト共ニ帰宅 加藤夕食後帰ル 加藤君宅不和ニシテ面白カラザル由人ニコ
ボシテ帰レリ
夜兄ニ迫將來ノ方針トシテ今度一巡回後東京ニテ商業ニ従事タキ旨送りヤリ、意見ヲ
求ム
鳥飼今夕岡山へ契約ノ爲メ出發ノ筈

◆▼123ページ◆▼ 大正3(1914)年4月26日(日)

天気 晴

鳥飼三時五十分ニテ岡山ニ行ク
午前八時五十分青山ヨリ重松中尉モ式六號ニテ所沢ニ帰り着陸ノ際墜落即死 将ニ
陛下ハ侍従武官ヲ差遣サル
午後白戸加藤両君ト芝浦ニ海軍ノ飛行ヲ見ニ行キシモ機関故障ノ爲メ中止サル 帰
途加藤君宅ニ寄ル 下駄一足ヲ購フ 残金僅ニ八九十銭 心細キコト限りナシ。夕方
芝公園ヲ散歩シ帰宅
夕食後日比谷ニツ、ジヲ見ルベク出懸ケ途中TMニ立寄ル 長屋君少々「ヨッパライ」氏
自身ノ過去現在ヲ語り共ニ河村宅ニ帰り尚モ談ヲ續ケテ余ニ方針ヲ求メラル 余タル
モノ自分ノ身ヲオサメ得ザルニ何ンゾ人ノコトニ「ヨーカー」シ得ン 然シナガラ余ノ感ゼ
シコトダケハ述ベテ参考トシヌ 拾捨ハ其人ニアリ 十一時前就眠

◆▼124ページ◆▼ 大正3(1914)年4月27日(月)

天気 曇

七時頃カラ加藤君ガ來タ 八時半朝食後同君ト上野ニ行第一會場ヲ見テ谷中ニ出デ
同氏令兄ノ宅ヲ訪レ晝食ヲ御馳走ニナル。ソレヨリ徒歩ニテ浅草ニ出テ帝国館ニテ空戦
ト題スル空中戦ヤ活劇赤(クローバー)ヲ見テ五時前帰宅ス

夕食後鏡滋氏ト日比谷ニツ、ジヲ見テ、ソコヲヲ散歩シナガラ帰宅

▲▼125ページ▲▼ 大正3(1914)年4月28日(火)

天気 雨

昨日フルカ、ト心配シタノガ今朝カラ降ッテ居タ

今日モ余ガ起キテ店ニ行クト加藤君ガ來テ居タ 鳥飼ヘ行ク筈ナリシモ昨夕辻岡山ヨリ何等ノ通知ナシトノコトニ今日モ行ッテモナスコトナシトテ加藤君ノ發案ニテ河村氏ノ中庭ニ植木棚ヲツクル 午後ハカルタヲナシ余ハナケナシノ四十錢ノ金ヲコトゴトク敗ケ加藤君ニ今後ノ小遣トシテ三十錢借用ス。ナサケナイカナ。

夜飛行世界ヨリ重要ナル記事ヲ拔書キス

奈良原氏ヨリ來信アリ 志賀サンノ飛行機ノ書物ノ事ニツイテナリ 大坂ヘ残シ居リタレバ早速送ル様發信ス 御母サンハ夜山田屋サンヘ行カレタ

御灸ハ今日ヲ以テ一週間無事ニ相濟ミヤレ、

夕食ハ余ノ敗ケタ金デ牛肉 アマリ嬉シクモナシ

▲▼126ページ▲▼ 大正3(1914)年4月29日(水)

天気 晴

今日奈良原氏ヘ一寸行カフト思フ内御母サンニ今日ハドコモ行キマセンカト問ハレテ、何ニ氣ナク、ハイト答ヘテ、ツヒニ鏡滋氏ト留都(ママ)番ヲ仰セツカル 加藤君モ共ニ御母サント女中サンタチハ浅草ヘ遊ビニ。十時前玉井君來 不意ニ驚キタルモ兵役驗(ママ)査ノ爲メニ一人先ニ帰ヘツタトノコト 台湾ハ成績ヨシ。來月中旬帰京ノ豫定 二時半頃帰ル

コレヨリ先午後花ヲヤル 昨日ニ変ッテ連勝。御晝玉井君ニ御馳走シタ并代ガアガツタヤレ、実ノ處、勝ナケレバ支拂ガ出來ナカッタノダ。然シ尚加藤君ノ分ハ河村サンデ拂ッテ呉レラレタノハ実ニ毎度毎度氣ノ毒ニ堪エナイ

▲▼127ページ▲▼ 大正3(1914)年4月30日(木)

六時過ぎ起床 日比谷ヲ散歩ス。今日ハ表ニ階奥ニ階ニカベ紙ヲ張リツヒデニ障子ノツマクロイヲナシ又便所ノ横ニ三角形ノ棚ヲツクッテ日ハクレタ。夕食後日比谷ヲ散歩スベク出タガIMニヨッテタ刊ヲ見テ居ル内ニクラクナッタノデ帰宅 書見并ニ拔書ナドヲナシ十一時床ニツク。三良君居眠リヲシテ居タノニ鏡滋氏ガ滑稽ナ繪取り方ヲシタノデ寝ギワニ大笑ヲシタ

今月モ又空シク送ル

春マサニ行カントス 花咲カザレバ実ラザルベシ噫々

▲▼130ページ▲▼ 大正3(1914)年5月1日(金)

天気 晴

時事 重松中尉ノ葬儀九段ヨリ青山ニ至ル

近來如何ニモ元氣ガナクナッタ アエテ小遣ノナイノミデナイ 自分自身頗ル心細イ様
ナ氣持ガシテスベテノ未來ガ非境(ママ)ニシカ考ヘラレナイ。コンナ時モ一度自助論デ
モ讀ンデ見タイ

午前六時半起床。今日ハ風ガヒドカッタ 終日宅デ瓦斯及石油エンジンヲ飛ビ、ニ讀ン
ダリ書キ抜イタリシタ。午後余リ頭ガカユクテ堪エラレナイノデ散髪ニ行ツタ コレデア
ト六タ刊買コトモ出來ナイ。午後ト夜鏡滋氏ガ僕ノ白髪ヲ抜イテ呉レタ 総數百六
十五本 外ニ黒イノガ三十本バカリ

喜代市兄カラハガキガ來タ。飛行機ノ本ヲ早速送ツタトノコト
十一時床ニ入ル

▲▼131ページ▲▼ 大正3(1914)年5月2日(土)

天気 曇後雨

御母サンハ十一時頃カラ女中二人ト定ドンヲ連レテ博覽會見物ニ行カレタ 後チ食事
ヲ終ルト河村サンニ加藤淺野両氏ト花ガ始ツタ 淺野君ハ途中吉田君ト變ツタ 余ハ連
戦連敗見物五回ノ戦ニ五十錢敗ケタ 囊中無一物 河村氏ノ立替ニ預ル。五時頃帰
宅セラル 鳥飼ノ様子ヲ見ルベクTMニ行ク 不在今朝帰宅 何事モ話ナシトノコト 長
尾君ト日比谷ヲ散歩ス タゞ無意味ニ徒クノミ。帰宅後夕食 七時頃電話アリ 行キ
テ聞クニ田中芳氏先日僕ガ兄ニ出シタル手紙ニ着キ聞キタキ事アリタリトノコト 竹島
氏モ來京ノ由 明朝七時ノ約速(ママ)ヲナス
後チ雨ノ中ヲ加藤君トコロニ行キ金一円ヲ借リル 九時半帰宅 十時過ぎ床ニツク

▲▼132ページ▲▼ 大正3(1914)年5月3日(日)

天気 雨後曇

六時起床 日記ヲツケ六時半頃名倉屋ニ出懸ク

田中氏ニ面會 余ノ將來ノ方針ヲ紙ニカイテ明朝持ッテ來テ呉レトノコトデ竹島氏ニ
挨拶シテ歸ル。TMノ方殆ンドダメ。午後二時過ぎヨリ田辺氏ヲ訪フ 店へ行ッテ居ル
トノコトニ淺草公園ニ行キ時間ヲツブシニ五九良ヲ見馬鹿笑ヲシテ六時頃時々行ク支

那料理ヲ喰フ。ハ痛ンデ喰ヘズ半分余ヲ残シテ、出ス。田辺氏在宅。モシ余ニ資本ガ出來練習スル様ニナレバカノ飛行機ヲ借りルニサシツカエナキヤヲ確メシニ大賛成ヲ得タリシカシ事實トナラバ奈良原氏ニ交渉スル筈ナリ 其他雑談 九時頃帰宅ス

◆▼133ページ◆▼ 大正3(1914)年5月4日(月)

天気 快晴

六時起床 第一第二第三ノ余ノ希望ヲ書キテ、名倉屋ニ田中氏ヲ訪フ。然シテ尚右以外ニ父、兄弟並ニ竹島氏デヨキ方針アリタル中ハソレニ従ワル、ヤトノコトニ目下ノ場合、事情ニ依リ御マカセスル旨答ヘテ帰ル

八時頃ヨリ奈良原氏ヘ志賀氏ノ本ヲ持参ス 不在ノ由 女中カワリ居シタメ見知ラズタバチニ帰ル帰途練兵場ノ飛行機ヲ見タルモ、齒ノ痛ミマス、ハゲシクツヒニ電車ニテ帰宅 奥ニ階ニテウツ、ト考事ヲシナガラ横ニナル 夢トモナク現シトモナク浮ブ空想眠ルデモナシ醒テ居ルデモナシ ア、コレガ夢ト云フモノニナル玉子ガ夢トハ一種ノ空想ニ外ナラズト思ツタ。白戸君ガ來テ起キタ。加藤ノ世話デ金ヲ借り様トシタガダメダツタトノコト 余ニモ氣ノ毒ダガモ一ニ三日ガマンスレバ、契約金ノ來ル様ナ話シヲシテスグ帰ツタ

同時ニ加藤君モ來タ 午後河村氏ト芝ノ人ト加藤君ト余ト四人デ芝ノ御霊屋ヲ見テ芝浦ニ行ツタガモ一飛行機ハ終ツタアトデアツタ

夕方帰宅 夕食後日比谷ヲ散歩シ帰宅 十一時就眠

◆▼134ページ◆▼ 大正3(1914)年5月5日(火)

天気 晴

時事 岡中尉渡歐ノ途ニツク

終日宅ニアリ大半文藝敷(ママ)書忠臣蔵ヲ讀ム

夜七時頃田中芳氏ヨリ電話アリ 島平ニ帯(ママ)在マダ一両日居ルトノコトナリキ

◆▼135ページ◆▼ 大正3(1914)年5月6日(水)

天気 晴

午後少時TMへ行ツタノミ 終日在宅讀書

夕加藤君來 奈良原氏五十馬力ヲ京浜ニ賣ツタト力抵當ニシタトノ語ツタ。ソレヲ梅田ガ買ヒニカ、ツテ居タトノコト 後藤ハ都築ノ操縦者トシテ大坂ニ行ツテ居ルトノコトナドヲ話シテ帰ツタ

後チ田中芳氏ヘ電話ヲ懸ケ今夜遊ニ行クガ差支ヘナイカヲ聞キ合セタガ、都合悪ルソ

ーデアッタノデヤメタ 小遣ガイヨ、ヒツパクシテ來タ 又今月末ニナレバモー此様ナ
裕モ着テ居ラレナイ 困ツタモノダ

▲▼136ページ▲▼ 大正3(1914)年5月7日(木)

天気晴

終日在宅讀書

数日來齒ノ悪イ爲メ食物ガカメナイノデ腹ガ悪イカ又腦ガ余程イケナイ様デア
実ニ困ツタ

夜九時半頃薬師縁日デ草花ヲ買ツテ帰ツタ

今朝ツヒニ大坂へ小遣ヲ云ツテヤツタ 結果ハドーカシラスガ、実ニサケナイモノダ

▲▼137ページ▲▼ 大正3(1914)年5月8日(金)

天気晴

時事 今朝ヨリ日月共ニ赤色ヲ呈ス

今朝ノ新聞ニヨルト海野氏ガ帰ツテ來タラシイ。デ居處ガ知レナイノデ方々各知り合
ノ新聞記者ニ電話ヲカケタガ九時頃迄ニダレモ出勤シナカッタノデ、同氏ノ田舎へ手紙
ニ野島氏ノ添書ヲ入レテ出シタ

夕七時ノ列車デ竹島田中両氏ノ帰坂ヲ見送ル

▲▼138ページ▲▼ 大正3(1914)年5月9日(土)

天気晴

朝食後芝浦へ飛行機ヲ見ニ行ツタ。スデニ終ツタ 後チ加藤君宅ニ依リ保夫君ト共ニ白
戸君ヲ訪ヒ晝食ヲ御馳走ニナリテ三人共ニ芝浦ニ行ク。ガードヲクバルト早ヤ飛揚シテ
居タ。早速カケツケテ見ルト丁度第一回ノ處デ一度着水シ、ソレカラ各兵曹六名ヲカ
ワル、同乗サセテ海ヒヲ一週(ママ)ニ週(ママ)シテ居タカラ前後七回見ルコトガ出來
太ニ得ル處アツタ

夕帰宅御母サンハ帝劇ニ行ク。留都(ママ)番ノ時水上飛行機ノ紙カラ手動ボートヲ造
ツテ見テハ如何ト云フコトニナリ、設計ニカ、處へ猪ノ口君來ル 久シ振りナリ奥ニ階
ニテ話フス 星野君エンジンヲ借りタイトノコトデ猪ノ口ガ奔走スルノダトノコト 氣ノ
毒ナガラ出來マイ。海野氏スグニ大坂へ行ツタトノコト

▲▼139ページ▲▼ 大正3(1914)年5月10日(日)

天気 曇

時事 小関少尉青山ニ落ッ

終日在宅 脳好シカラズ心地悪シ

夕方TM三行ク 日比谷ヲ散歩シテ帰ル

大坂へ小遣請求ス

▲▼140ページ▲▼ 大正3(1914)年5月11日(月)

天気 曇後雨

終日在宅 讀書、雜誌、碁ナドシテ夜八十時床ニツク

辻本君兵役検査ノ爲メ帰國ス

九時ヨリ十一時迄加藤君來

▲▼141ページ▲▼ 大正3(1914)年5月12日(火)

天気 快晴夜雨

午前中例ニヨリナスコトナク悶々トシテ時ヲ過グ

午後手動ハイドロプレーンノ模型ヲ造ルベク加藤君宅ニ行キフロートヲ二個ツクリ三時

帰宅 後伯林ミヤゲ戀ノ繪葉書ヲ讀ム。夕方河村氏ノ依頼ニテ愛宕下町二ノ五高橋

方へ西山ノ金ヲ取りニ行ツタガ西山ガ來ナイ 其内ニ定ドンガ變リニ來タ

大坂へ金ト依頼ノ請求 商業ニツヒテ其後ノ相談ノ成行ヲ聞クベク手紙ヲ出ス。先日來

幾度カ書カントシテ書キ得ナカッタ、金ト依頼ノコトヲ一度ニ書イシマツタ後ハマタ反(マ

マ)ツテ晴レ々々シタ様ナ氣ガシタ

▲▼142ページ▲▼ 大正3(1914)年5月13日(水)

天気 晴

終日在宅 讀書或ハ思考

夕加藤君來 少時ニシテ帰ル

夜井ノ口君來 十一時前帰ル 星野君ト都築合同ノ件ヤ、進行ストノコト

海野氏ヨリ來信 四五日中ニ上京面談ストノコトナリ

▲▼143ページ▲▼ 大正3(1914)年5月14日(木)

天気 少雨後晴

八時朝食 九時御母サント横濱ニ行ク。ソレハ御母サンノ実姉ノ死ナレタ爲メデアッタ

実兄ト云フノモ來テ居ラレタ。何ンデモモトハ三千石ヲ領シタ家ノ子女デアッタノガ明治始年頃父ナル人ノ放蕩カラ子供ハチリゞ、バラゞ、今日會ワレタノガ二十幾年振りダトノコト。ソレニシテモ御母サンニサホド、ナツカシソーナ風モ見エナカッタガ、ドー云フモノカシラ

一時頃帰途ニツイタ

三時帰宅 長尾君ガ呼ビニ來タトノコトデTMニ行ツテ見ルト自轉車デ翼ヲ壞シタノデ親父ノ帰ラナイ内ニ直シテ呉レトノコトデタ方加藤君宅ニ行キ材料ヲト、ノエ帰ル夕食後日比谷散歩

▲▼144ページ▲▼ 大正3(1914)年5月15日(金)

天気 雨

朝食後TMへ翼ヲ直シニ行ツタ 一二時デ出來上ガツタ

午後ハ風呂ノ煙突ガ壞レテ居タノヲ直シタ。御蔭デ今日ハ御湯ガ立ツタ

三時頃加藤君來 模型ノサイドプレーンニツバメ號ト書イテ呉レトノコトデタ方迄カ、ツタ

▲▼145ページ▲▼ 大正3(1914)年5月16日(土)

天気 雨

午前宅へ余リ返事モ何ニモコナイノデサイソクノ手紙ヲ出シタ。午後TMニ寄ツテ白戸ノ宅ニ行ツタ テックタノデカナリ困難シタ。丁度行違ニ僕ノ處へ行ツタトノコトダ。デ、シバラク待ツコトニシタ 四時前ニ帰ヘテ來タ。都築氏カラ北海道ヲ二カ所ニ千二百円デアツテ呉レトノコトデ今日鳥飼へ電報ヲ打ツタカラ返事次第トリ極メルトノコトデアツタ。ソレカラ色々ノ話ヲシテ夕食ヲ馳走ニナリ花ヲ引キ八時前ジシテクツテ九時頃帰宅。宅カラ河村氏へ手紙ガ來テ僕ノ意志ヲ聞イテ呉レ 何ンナラ東京デ何處カへ這入ル様ニシテ呉レト云ツテ來タトノコト 馬鹿々々敷イ様ナ氣ガシタ。河村氏ニマデソシナコトヲシテ此間田中氏ニ云ツテヤツタ通りヨリ外通ハナイノデアル

▲▼146ページ▲▼ 大正3(1914)年5月17日(日)

天気 雨

終日在宅 讀書切抜整理 宅へ自分ノ意志通知 ホンマノ記ノ中ニ記ス
夜河村氏ト電気館ヲ見ニ行ツタ

▲▼147ページ▲▼ 大正3(1914)年5月18日(月)

時事 午前二時名古屋熱田駅ニ急行列車テンプク 即死一名重傷者多数
七時過ぎ起床 新聞朝食 八時日記 宅へ請求ノ手紙
立志論ノ讀書 自ラ得ル處アツタルヲ信ズ
晝前田中氏ヨリ余ノ要求スベテノ無効ヲ報告サル タゞチニ札状ヲ出シ置ク
三時頃白戸君來 二千百円ニテ取極メ明日カラ仕事ヲ初ムトノコト
夕刻日比谷ヲ散歩シ加藤君ヲ訪ヒ右ノ話ヲナシ尚小遣ヲ借用シテ九時帰宅ス
十一時半就眠

▲▼148ページ▲▼ 大正3(1914)年5月19日(火)

天気 快晴

午後三時頃飛行機上野ヨリ搬バル 今日ハ仕事セズ
讀書、其他長尾君遊ビニ來リ夕食迄碁ナドヲナス。加藤君夜ニ入りテ帰ル

▲▼149ページ▲▼ 大正3(1914)年5月20日(水)

天気 強風夜大雨

七時朝食 近來稀レノ早起キ 其故カ雨ガ降り出シタ。食後少時讀書 TMニ行キ、古
イ羽根ヲ出シテテール、エレベーター、方向舵ヲ張替ヘル 午後四時過ぎ終リテ帰宅
夕食後日本産ノキネトホン並黒花組ヲ見ニ行ク
今日ハ久シ振リノ仕事ニ非常ニ氣持ガヨカッタ

▲▼150ページ▲▼ 大正3(1914)年5月21日(木)

天気 雨曇 ムシアツシ

九時TMニ行ク。タンバクル、ボールトヲ整理シ三時過ぎ終リテ帰宅 鏡滋氏頗ル不
氣元(ママ) 御母サントナニカ云ヒ合ツタトカ。何ントナク間ガ悪イノデ加藤君ト散髪
ニ行カウト思フ處へTMヨリ宮口ガ來タトノ電話ニ早速行キエンジンシートニ穴ヲ開ケサ
ス

夜長尾君遊ビニ來ル 十一時過ぎ帰ル
今朝宅ヨリ金十円トドク 早速受信ヲ出ス

▲▼151ページ▲▼ 大正3(1914)年5月22日(金)

天気 快晴 ヤ、寒

讀書新聞八時朝食 九時TMニ行ク。ワラビ糊ヲ買ヒニヤル

十一時頃迄カ、ル ソレカラ煮テ塗ル 加藤來ラズ 白戸午後來 四時帰ル 同氏ノ母堂今朝上野着ニテ來京ノ由 鳥飼又帰ル 二名ノ婦人同伴 婦人トハ萬春園ノ娘二人 僕等ガ宿泊シタ時ノ小イサナ娘サンハモ立派ニナツテ居ル ソシテ其頃アレキシヨ、ハ、ト アダナシタ小娘ハ今藝者ニナツテ居ルトノコト 写真迄見セラレタ 省ミテ自分ノ不甲斐ナキ有様ニソ、ロ情ケナサヲ感ゼズニハ居ラレナカッタ

五時帰宅 加藤來宅ス 夕食後散髪ニ行キ帰途加藤宅ニ行キ借金ヲ返シ十時帰宅。イチゴト岩ナシトカ云フ小イサナ味ハイチゴ三似、ウテナノ様ナ皮ヲムケバミカンノ形シテ筋ハ黒イ粉ガツキ居タリキ。ソレヲ喰ヒテ就床

▲▼152ページ▲▼ 大正3(1914)年5月23日(土)

天気 曇

六時半起床 讀書ト折疊式飛行機考察 朝食後新聞 TMニ行ク。加藤戸延ニ君來 白戸君モ來ル 午前中シブヲ塗リ午後針金ヲツク。戸延午前中エンジン取付ノ木ヲ附ケ午後プレーンノ繼手ニツク

五時帰宅 夕食後北海道ノ返事ニヨリ明日休マズ仕事ヲシナケレバナライノデ白戸君ヲ訪フ母堂等不在 北海道ハ無期延期ニナリシ由 余ノ豫期ニ反セザリシ。サレド白戸君ノ困難サコソト思フル。ハタセルカラ入質中ノ品物ヲ他ニ賣ルノデ僅カニ受出シテ金ニカヘルマデノ間河村サンデ六十円バカリ借(ママ)シテ貫ヒタイノデ帰ハッタラ話シテテ呉レトノコト 実ニ困ツタガイヤトモ云ヘナイカッタ。帰途アントニートクレヲパトラノ活動ヲ見ル 當時ノ呼ビ物ダケニ実ニ立派ナモノデアッタ

十時半帰宅 白戸ノ困難ヲモノガタツタガ金ノコトツヒニ云エナカッタ 明朝ニシヨ一御母サンノ話ニ僕ガ商賣ガスキナライ、養子ノロガアルノダガトノコトデアッタ

▲▼153ページ▲▼ 大正3(1914)年5月24日(日)

天気 クモリ雨

時事 照(ママ)ケン皇太后陛下御大葬

御大葬ニ付休業 午前六時半起床 日記、讀書、新聞朝食。自宅ハガキ一枚着物ノ請求

九時頃加藤長尾ニ君來 御晝頃帰ル 白戸君來 長尾再ビ來ル 碁ナドシテ遊ブ 白戸君ノ金河村氏ニテト、ノヒ加藤宅ニ行ク 余モ同伴ヲ頼マル 質物ヲ受出シ六時頃 白戸宅ニ行ク。シバラクシテ母堂帰ラル 初対面ノ挨拶ヲナス。夕食後今後ノ方針其他ノ飛行機談ニツイテ語り八時半帰途ニツク

一シキリノ雨ハダン、止ンデ來タ 丁度御發引ノ時刻トテ遠チ近チノ寺鐘ノ音物スゴク品川沖ノ大砲ノ音又折シツメリ。往來ハ人通りカナリアレドモ何ントナク物サビシ

十時半床ニツク

▲▼154ページ▲▼ 大正3(1914)年5月25日(月)

天気 快晴

七時起床 朝食後TM二行ク プレイン組立テ 四時帰宅 讀書夕食後日比谷散歩
帰宅後讀書 九時頃御灸 十時半就床

▲▼155ページ▲▼ 大正3(1914)年5月26日(火)

天気 快晴

六時半起床 讀書朝食後TM二行ク 蝶番二穴ヲ明ケタルノミ 正午帰宅 加藤君來
合ス 午後河村氏ト三人ニテ押上ゲ迫電車ニテ行キ亀戸ニ參詣シ寺島村ニ出デ向島入
金ノ横ヲ通りテ土堤ニ上リ竹屋ノ渡舟ニテ浅草ニ出テ電車ニテ四時半帰宅ス
銀座二丁目ニテ奈良原氏ノ姿ヲ見ル
夕TMニテ少時遊ビ帰宅後讀書 ソコエ白戸君母堂ト正雄君トヲ連レテ來 九時頃帰
ル

▲▼156ページ▲▼ 大正3(1914)年5月27日(水)

天気 快晴

朝食前讀書日記 食後新聞ヲ讀ム 加藤來 スグ帰ル
後チ昨日TMヨリ借りタル英字ノ飛行機ノ本ノ必要ナル處ヲ拔書ク 夜十時頃迄 其
間時々少息 碁ナドヲナス。十一時半御母サン帰宅 十二時就眠

▲▼157ページ▲▼ 大正3(1914)年5月28日(木)

天気 晴

午前中飛行機ノ製圖ナドナシ午後八何ンダカ何ニヲスルノモイヤニナツタ處へ加藤君來
花ナドシテ遊ブ

▲▼158ページ▲▼ 大正3(1914)年5月29日(金)

天気 晴

時事 松本中将沢崎大佐鈴木中監等宣告アリ

午前製圖 十時頃ヨリTM二行キ「エンジン」ヲ取付ク 晝食後都築氏ト同道シテ山梨

倉庫ニ行キ飛行機附属品ヲ貰ヒテ今日ノ仕事ヲ終ル
夕方河村氏ト碁ヲ圍ム 一勝一敗。夜帝国館ニ活動ヲ見ル 十時帰宅
加藤君ノ言ニヨレバ奈良原氏ノ倶楽部非常ニ進捗シ會員名簿ナド出來居ル由

◆◆159ページ◆◆ 大正3(1914)年5月30日(土)

天気 雨

今日ハ古イ飛行機ノホンヤクト囲碁デ終日終ツタ

夜ハ太陽ノ小説ヲ讀ンダリ鏡滋氏ガ不在ナノデ御母サント二人デ花ヲヤツタ。コンナコトハ實ニ始メテデアツタ 其最中ニ台所デ猫ガ鼠ヲ取ツタノデ障子ノ破レカラ這入ナイ様ニ重イ板ガ立テデアツタ 上ヤ下デ小猫ガジヤレテ居ル内板ガタオレ赤イ一匹ノ小猫ハ下ジキニナツテ苦シソーニモガイテ居タガ、ツヒニ動カナクナツタ ソユ鏡滋氏ガ帰ツテ來タ。カワイソーナコトダト定ドンガ云フト、猫ナンカニカワイソダト云フト其猫ガ取り附クト御母サング云ツテ例ヲ話サレタ ソレカラ死靈生靈ノ話ニナツタ 余ハ今先キニ讀ンダ幽霊ト云フ小説ヲ思ヒ出シテ語ツタ。コノソードーデ花ハシゼン中止。赤ハシバラクシテ動キ出シタガモノニナリソーニモナカッタ

◆◆160ページ◆◆ 大正3(1914)年5月31日(日)

天気 晴

午前八時カラ五時半迄飛行機ヲ作ル 明日ハ休ミ明後日出來ノ筈

夕食後日比谷ヲ通り桜田本郷町ヲ横切り左ニ折レ廣イ夜道ノ通ヲ素見シナガラ□山旅館ノ前ニ出タ ソー、一昨日(ママ)ノ秋中国へ旅立ツ前一二日泊ツタコトヲ思ヒ出シタ。其筋向フニ、ハイカラナ床屋ノアツタコトモ思ヒ浮ンダ 早速ツカゝト這入ツテ顔ヲアツテ貰ラツタ 氣持ガヨクナツタ。加藤君宅ヲ訪ヒ洗濯賃ヲ拂ラツテ十時過ギ帰宅。赤猫イマダ死セズ、ツヒニクビリコロシテ捨ニ行ク ア、慘 河村氏ノ心コト解シ難シカワソードト云ツテ一タンヤツタモノヲ連レ歸リ醫者ニモ見セズ死生ナホ分ラヌモノヲクビリコロストハ

◆◆161ページ◆◆ 補遺

余ハ余ノベストヲツクスヲ以テ神ハ我ヲ保護ナサシメ給エ 奈良原氏ニ幸福ヲサツケ給エトハ余ガカツテアラユル神前ニ立ツタ時帽ヲ取ツテチカヒ且ツ願ヒシ處 余ハハタシテベストヲツクセシカ。余ハ或點ニ於テ充分盡セリ 又或點ニ於テ心余リニ弱ワカリキ

▲▼162ページ▲▼ 六月行事

飛行機發達経路ヲ一目ニシテ示シ得ベキ
各種模型ノ製作ヲ初ムルコト

▲▼163ページ▲▼ 大正3(1914)年6月1日(月)

天気 曇少雨

午前午後二回飛行界ヲ讀ミ滑走角度ニツイテノ理論ヲ知ル 十時頃白戸君來 十二時前帰ル 余河村氏ト碁ヲナス ツヒニ四目迫ニゴギツク 白戸君ヨリ電話アリTM三行ク 小遣トシテ余ニ七円加藤ニ三円貰フ
萬春園ノ娘等三時五十分ニテ出發ストノコト 皆様ニ宜シクト事傳シテ帰宅 タゞチニ九段ノ、ヤニ模型材料ヲ求ム 合計金四十五銭
帰宅後加藤君來 河村氏ト花ヲ引ク 夕食後迄前後十二ケ目三回ノ勝負ヲナシテ五銭勝利

▲▼164ページ▲▼ 大正3(1914)年6月2日(火)

天気 雨

大變寢過シテ八時ニ起キタ 日記ヲ附ケ朝食新聞後タゞチTM三行ク シバラクシテ白戸君來 思フ様ニ仕事ハカドラズニ一時頃終リニシテ帰ル 余ハ注文ノ品アリテ加藤宅ニ行ク 宮口ノ分モ頼ミ居キ少時遊ンデ四時頃出テ奈良原サンニ行 久シ振リデアッタ 夕食ヲ御馳走ニナリ今日ハ大分専門的ノ飛行機談ヲタゝカワシタ 白戸君ハドーモ頗ル不人氣デアル。或ハ僕モカモシレナイガ 談タママ昨夜ノコトニ及ブ 奈良原氏ハシキリト石黒輩ヲ悪ク云ツテ居ラレタ 聞イテ見レバアノ當時一ガイン奈良原ノミヲウランダノハ多少早計ニ過ギタラシイ シカシアノ當時トシテ考ヘテ見ルト又アノ成行ハヤムヲ得ザルモノデアッタ
九時帰宅

▲▼165ページ▲▼ 大正3(1914)年6月3日(水)

天気 晴強風

御晝前TMノ仕事一段落ガツイタ 午後切抜ヲ一カ月分整理シテ後チ碁ヲヤッタ 勝利
夕食後TM三行ク 廣島ノ娘等マダ帰ラズ 今朝ヨリ三時半ノアダ名ヲ呈ス 即チ毎日

三時半デ帰ルト云フテ帰ラズ今日デ約一週間ニナルカラデア
七時頃長尾君ト蔡館ニ活動ヲ見ル 空中 実ニ宜カリキ

▲▼166ページ▲▼ 大正3(1914)年6月4日(木)

天気晴

六時半起床 日記新聞後朝食 九時過ギヨリ加藤君ト博覧會ヲ見ニ行ク 飛行機ニ
何ニカ應用シ得ルモノヲト尋ネ麻布エムパイヤクロースト加美ニ注目シタ 余ハ南洋館
ヲ見タノミ マレー人ノ手踊リハ手首カラ先キトコシノ踊リダト思ツタ 男女トモ少シ種
ガ黒イ位デ日本人トホトシドカワリハナカッタ 服装ハ支那人ニ似テ居タ 喰人種ハタ
ウスキミ悪ク感シタ 思タヨリモ小サイ人種デアッタ 二時半帰宅

河村氏頭痛スルトテ氷デ冷ヤシテ居ラレタ

夕食 日比谷ヲ散歩ス 夜加藤君ヲ訪 コ、モ小児ガセキデ家中サワイデ居タ 帰途
水菓子ヲ求メ九時帰宅 床就(ママ)シタガ、チク、腹ガイタンデ困ツタノデ胃散ヲ買
ツテ來テ貰ツテノンダ

發信海野氏へ 関西ニ於ケル飛行機競技會ノコトニツキ

▲▼167ページ▲▼ 大正3(1914)年6月5日(金)

天気晴

朝食後豚肉ヲ土産トシテ白戸君ヲ訪ヒ碁花本デ終日遊ビ夜八時半頃辭シテ帰ル

▲▼168ページ▲▼ 大正3(1914)年6月6日(土)

天気 快晴

午前十時半迄歴史ヲ書ク 後チ碁 食後一時間同 終ツテ加藤君ヲ訪フ。ベビー正ニ
死ナントス 憂色アリソコ、ニシテ帰ル。夕食後TMニ行ク フト飛行機ヲ見ルニ發動機
ナクアタリヲ見ルニドコモナシ。ヤラレタナト思ヒナガラ出デ、中央停車場ワキニ出デ、
カジ橋ヲワタリテ京橋ニ出デ發明館ニテメンダインヲ求メ八時過ギ帰宅ス 九時頃長
尾君來 發動機ノコトヲ聞ク 豫想通り山勝カラ取りニ來タトノコト 長尾君ト今日
限り明日ヨリTMヲ去ツテ松田ニ行クトノコト 後チ碁ヲヤル 四目オイテニ勝一敗
十一時半帰ル 就床

▲▼169ページ▲▼ 大正3(1914)年6月7日(日)

天気 快晴

時事 第二期卒業飛行。所沢習志野間

朝食後白戸君ヲ訪ヒ發動機ノ話ヲナシ共ニ出ズ。白戸君ハ母堂帰国ノ爲メ金策ノ爲メ加藤ニ行ク。余ハ先キニ帰り先日御母サンニ預ケタ金ヲ貰ヒ正午白戸君ニ貸ス。ソレデモ尚足リズ河村サンデ借用ヲ申込ミシモキヨセツセラレタトノコト。之レデ二度目ノ無心ダカラ一度ハ此方ガ反(ママ)ヘツテ宜イト思ツタ。白戸君ニハ氣ノ毒ダガ

夜御母サンニ御清ドンハ歌舞伎へ行ツタ。留都(ママ)ニ鏡滋氏浅野君等ト花ヲ引ク。連戦連敗。五十銭余ヲ敗ケタ。八時頃白戸君ヨリ電話。秋田契約出來タトノコト。ソコデエンジンノ問題ダガソレニツキ今夜來テ呉レトノコトダガ留都(ママ)居ノ爲メ行カレナイノデ明朝行クコトニシタ。十一時頃皆帰宅。就眠

▲▼170ページ▲▼ 大正3(1914)年6月8日(月)

天気 晴

朝食ヲ待チ兼ネテ白戸君宅ヲ訪フ。ステニ都築へ行ツタトノコトシバラク待ツ。十一時頃帰宅。相談ノ上鳥飼氏ヲ電話ニテ呼ビ都築氏ノノーム七十馬力ニテヤルコトニ決定。エンジン使用料一ヶ所二百円。午後同附属品ヲTMニ運搬ス。十四十五飛行ノ豫定ナリシモ気車間ニアワズ第三土日曜ニ延期シ其間稲毛ニテ練習ノコトニ決ス。

▲▼171ページ▲▼ 大正3(1914)年6月9日(火)

天気 朝雨後晴

六時半起床。八時迄歴史ヲ書ク。朝食後新聞モ見ズ直チニTMニ行ク。夕刻プレーンヲ箱ニ納ム。

カンジンノ稲毛行キキマラズ。スナワチ鳥飼金ヲダシオシムヨリ白戸大ニ困ル。今夜都築ニ相談スベシ。

帰宅後夕食。入浴ヲホツセシモ鏡滋君ニサソワレ帝国館ニ行ク。サホド面白クトモ感ゼズナゼカ今日ハスグ帰りタイ様ナ氣ガシタ。之レハ恐ラク余ガ活動寫眞ヲ見テ以來ノコトデアロー。

四五日前カラ咳ガデ、困ツタガ昨日カラコトニハゲシクナツテ來タ

▲▼172ページ▲▼ 大正3(1914)年6月10日(水)

天気 晴

昨夜セキノ爲メ夢ヲ破ラル、コト数回

八時TMニ行ク。準備トトノイタ方馬力ニツミ七時五十分両国發ニテ久々振ニ稲毛ニ行ク。意外ニモ両国駅ニテ大口ニ會フ。二三日前帰京。今余ヲ訪ヒシ處稲毛ニ行キシト

聞キタゞチニアトヲオイ來リタル由 共ニ上總屋ニ到ル マヅ川上氏ヲ訪ヒ雑談ノ内ニ海岸借用ヲ乞ヒ上總ニ歸リ台湾ノ話ニ花ガ咲キ十二時前床ニ入ル。目ハ益々サエテセキ益々ハゲシクツヒニ一 眠睡モセズ夜ハ明ケヌ

▲▼173ページ▲▼ 大正3(1914)年6月11日(木)

天気 晴

眠レヌマ、五時床ヲ出タ キレイナ冷ヤカナ水デ顔ヲ洗ヒ、マダ露シゲキ中ヲ淺間神社ニ参拜。例ノキガンヲ込メ松林ヲ逍遙シ朝食

八時飛行機來 仕事ニカ、ル 十一時頃白戸君來 加藤君ワスレモノヲ取りニ東京ニ行ク。今日兵士ガ大分當村ニ泊ツタ

夕食前舟ヲユギ輪(ママ)快ヲキワム 夕陽キラ、ト美シカリキ 夜白戸君ト玉ヲ突ク後暮ヲ見十二時床ニ入ル 一時頃加藤君帰ル 咳ヤ、良好カ或ハ昨夜ト今日ノツカレカ、シツプシテ眠リニツク 少時ニシテ眠ル

▲▼174ページ▲▼ 大正3(1914)年6月12日(金)

天気 雨

朝カラノ曇ハ御晝前カラ雨ニナツタ 飛行機ハ出來上ツタ ドーシテモ一寸ヤツテ見タイノデ試運轉ダケスルコトニナツタ。ヤハリ後部ガ重イ 後チ相談ノ上後部ヲ二呎切ルコトニシタ

今日ハ白戸君ト暮ヲ一石ヤツタダケ夜ハ酒ヲ少シノンダ後アンマヲサセナガラ眠ツタ 雨マス、ハフル

▲▼175ページ▲▼ 大正3(1914)年6月13日(土)

天気 晴

雨カト思ツタガ大シテ降りモセズ 午前中後部ヲ切ツテ一回濱ヲ一週(ママ)シテ降りテ來タガマダ後部ガ重イトテ僕ガ油タンクノ下ニ後向キニ坐ワツテ乗ツタ。ソシテ直線飛行ヲヤツタ 上ルノ二人デモグン、上ルガ尚後重イノデ午後プレーンヲ三寸バカリ下ゲテヤツタガ余程ヨイガソレデモマダイケナイトノコト 其内ニ益々風ガ出テ來タノデ終リトシタ。今日ハ都築、鳥飼、河田、其他二三見エタ

夜白戸君ノ坐敷デ大口君ト四人盃ヲクンダ

▲▼176ページ▲▼ 大正3(1914)年6月14日(日)

天気 晴

朝雷鳴少雨後チ晴ル 絶好ノ飛行天気ナレドモ日限アレバヤムヲ得ズ荷造シテ積込ム
四時發車 吾レ等六時廿分ノ気車ニテ帰京ス 夜十時頃TMヨリ電話アリ行ク 信州
飯田ヨリ申込ミアリトノコト 場所ニ見ニ行クニ付キ論議スルナリキ 白戸君勿論在リ
ツヒニ明朝電話ニテ聞クコトニシテ十一時過ギ帰宅 就床

▲▼177ページ▲▼ 大正3(1914)年6月15日(月)

天気 雨

今日ハ間ノ悪イ日デアツタ

外出 加藤君宅二回TM一回白戸一回銀昇亭一回

來訪者 加藤君大口君 大口君ニ六面會セズ

夜同人ヨリ電話アリ 明日秋田へ同行ストノコト 十時半就眠

▲▼178ページ▲▼ 大正3(1914)年6月16日(火)

天気 雨

午前六時前起床 仕度ヲト、ノエ八時TMニ行ク 白戸加藤來 出發ニ際シ祝盃ヲ上げ
敷島ノ自動車ニテ上野ニ行ク。九時半出發 大口加藤両君ノ軽口ニテ車中大ニ振フ。

八時頃イタヤ峠ヲ通過中眠リニ入ル

車中五ツニナル女ノ子ト共達ニナリ大キニヨワラセラル

▲▼179ページ▲▼ 大正3(1914)年6月17日(水)

天気 晴

四時目ヲ醒ス 五時無事到着 出迎人無ク大ニマゴツク。ヤット宿ヲタヅネ當テ長町ノ
小林旅館ト云フニ入ル ヤ、上流ノ旅館。朝食後飛行機運搬組立ヲ初ム。フレーンヲ組
立テ、テール製作ノリヲ塗リテ六時頃帰宅 入浴夕食 酒味頗ル佳

後白戸君ト囲碁 十一時過ギ就眠

加藤頭痛ニテ夕方早く帰り床ニツク

▲▼180ページ▲▼ 大正3(1914)年6月18日(木)

天気 雨

降ツタリ止ンダリ。ツインプレーヲ取付ク 六時頃帰宅 テールヲ炭火ニテ乾カス

夜白戸君ト囲碁中柳屋儀助ナル人來 飛行機ノ説明書ヲ作り販賣シタシトノコトニテ

説明ヲ與フ。イヅレ御礼ヲシマスト云ツテ帰ヘツタ
十一時就床

▲▼181ページ▲▼ 大正3(1914)年6月19日(金)

天気 雨

午前中格納庫ヲ見舞ヒ後チ三人ニテ千秋公園ヲ見物ス 折柄雨ハゲシク降り出シツブ
又レニナツテ帰宿 晝食後白戸君ト囲碁ナドナシ三時頃ヨリテール組立ノ爲メ飛行場
ニ行ク 七時帰宿入浴夕食 女中共ナジミニナリ他ノ番ノモノ迄遊ビニ來リ大ニ振フ
十二時頃ヨリ雨又降り出ス

▲▼182ページ▲▼ 大正3(1914)年6月20日(土)

天気 晴

午前中雲ヒクク風無シ 早朝ノ一回カラクモ場外ヲ一週(ママ)セシモ其後チハ一向上ガ
ラズ エンジンヲシラベ種々ナス内午後ハ晴レタレドモ風加ワリヨヽヽ直線ニテ飛行ヲ終
ル 説明大キニ苦シム 其内エレベーターノ線ニ余リニユルミアルヲ大口君發見シ直ス 今
朝ヨリノ飛行振リニヨルニ最大原因之レニアルモノヽ如シ
夜アンマヲ取り十一時過就眠
今日ヨリ女中カワル

▲▼183ページ▲▼ 大正3(1914)年6月21日(日)

天気 快晴

午前四時十五分起床 仕度シテタゞチニ飛行場ニ走ル 五時十五分飛揚ステーション
上ヨリ鉄道線路ヲ練兵場ニ着陸ス 我レ等タゞチニ至ル 分解シテ運搬セヨトノコト。無
風!アキレザルヲ得ズ
十時第二回飛揚 ステーション上ヨリ一週(ママ)シテ帰場 午後風アリ直線ノミ 説明
又苦シム 夕刻翼ヲハズシ帰宿 夜先ヅ終リノ祝宴ヲ上ゲ都築、大口、白戸十時五十
分ニテ帰ル 余見送ル。加藤酒気元ニテ眠ル 加藤ノ助手振り実ニ困ツタモノナリ

▲▼184ページ▲▼ 大正3(1914)年6月22日(月)

天気 晴

今日ハヤヽ落チツイテ六時頃起床 朝食後丸通ニ電話シテ貨車ノ都合ヲ聞合ス 九時
ヨリ荷造リ

十二時積込ミヲ終ル 夕方迄ブラ、シテ三時頃石橋旅館ニ神氏ヲ訪ヒビールヲ馳走ニナリ帰宅夕食 丸通ヨリ運賃不拂ノ爲メ荷物發送停止ストノ通知アリ 大ニ驚キ神氏ニ交渉ス 折柄丸通來リ共ニ主催者鈴木ヲ訪ヒ要領ヲ得ズ神氏ニ談判 ツヒニ同氏ニ立替ヲ得テヤット安心ス 後チ神氏來 ビールヲ命ズ 女中チエ、ヨシ、ミサ三名來リ大ニ振フ 十一時二十分旅館ヲ去ル

▲▼185ページ▲▼ 大正3(1914)年6月23日(火)

天気 晴雨曇

四時頃目ヲ醒シ洗面 六時頃朝食又眠ル。醒メテハ又眠ルコト正午迄 午後ヤ、元氣回復ス

小林ノヨシ年十七才 チエト同年同町同校ニテ小林ヘモ同時ニ來リタルナリト 顔頗ルヨク氣立ヤサシキ方 参考ノ爲メ写真ヲ乞ヒシニ、チエ君ト一所ニ写シテ今月中ニ送ルトノコト アテナラネド又的ニスルコト余モ又常ノ青年? 思ヒナヤミツ、上野ニツク 七時半 八時半帰宅 十時就床 間モナク眠ル

▲▼186ページ▲▼ 大正3(1914)年6月24日(水)

天気 晴

朝湯 十時頃迄洋服荷造リヲナス 十時半白戸君來 勘定ヲナシ共ニT.M.ニ行ク 晝食 後村山ニ行ク 飯田飛行ノコトホゞキマリ明日白戸飛行場ヲ見ニ行ク。午後夕食過ギ 迄白戸君宅ニテ遊ブ 八時頃帰宅 入浴 旅装ヲ整理ス 後雑談 十時就床

▲▼187ページ▲▼ 大正3(1914)年6月25日(木)

天気 晴

間ノ悪イ日 午前加藤白戸両君來 午後川辺君ヲ見舞ヘリ 永住町ニ行ク 不在 帰宅後三十分T.M.ニ行キ飛行機ノ写真ヲ得テ白戸君宅ニ持参 同君不在 ソレヨリ奈良原氏ヲ訪フ 同ジク不在 奥サント少時談話 イロハニテ夕食。酒機嫌ニテ墓地下ノ料亭ニ上リ又酒ヲ呼ビ大スイシテ帰宅 奥ニ二階ニテ横ニナル 道々床ニ入ル迄何事モオボエズ。金入ヤ電車ノパスヲ落サ、リシハ何ヨリナリキ

▲▼188ページ▲▼ 大正3(1914)年6月26日(金)

天気 曇リ

目ヲ醒スト奥ニ階デアル 色々考ヘタ末昨夜ヨッパツテ其マ、寢タラシイ
十時頃丸通ヨリ飛行機ヲ受取ル 午後足ヲハツシ針金ヲ取ル 四時頃帰宅 母様留都
(ママ) 加藤君ト三人ニテ花ヲ引ク 川辺君來 奥ニ階ニテ面談数刻 十時半帰ル 台
灣ノヤリ方モホゞ分カツタ ソレカラ大口君ノ件ニツキ野島氏ノ意見モ分カツタ

▲▼189ページ▲▼ 大正3(1914)年6月27日(土)

天気曇

朝食後TMニ行ク 天気定マラズ塗物出來ズ 三時頃仕事ヲ終ツテ帰宅 新聞整理ヲ
ナシ、終ツテ圍碁 一勝一敗 夕食入浴後加藤君宅ニ行ク 明日ノ材料ヲ得テ帰宅
途次一品安料屋 二三皿ヲ平ゲテ帰ル。切抜ヲ讀ミ十時過ぎ就眠

▲▼190ページ▲▼ 大正3(1914)年6月28日(日)

天気晴

朝シユー雨 TMニ行ク 五時頃終ル。夕食後日比谷ヲ散歩ス 花園池ノ端趣キニ加フ。
其マ、散髪ニ行ク 八時過ぎ帰宅 御母サント雑談 十時過ぎ床ニ入ル
日比谷散歩中飛行機講演ノ練習ヲ繰返ス。仕事中組立迅速ナルベキ金物ニツイテ工
夫ス

▲▼191ページ▲▼ 大正3(1914)年6月29日(月)

天気晴

今日ハ翼ヲ塗り替ヘ足ヲケヅル
飯田ハ飛行場ナキ爲メ不調ニナル旨昨夜白戸君ヨリTMへ電話アリタリ
夕食就床 共ニ店ニタチ物アリテ遅クナル
古イ運動服ノ上着ウラ替シヲタノム

▲▼192ページ▲▼ 大正3(1914)年6月30日(火)

天気晴

二三日來トミニ暑サヲ増ス
TM仕事終ル

大坂ヨリ來月三十日點呼ノ報アリ

夕食後白戸君ヲ訪 忠雄君アリ 初音サント何事カアツテ、シキリニ泣イテ居タ。後チ
漸ク和解セシメテ十時過ぎ帰途ニツク

初音君ヨリ僕ニ浴衣一枚送ラル

▲▼1956ページ▲▼ 大正3(1914)年7月1日(水)

天気 晴

終日在宅 暑サキビシ 松本氏學勞休暇ニテ來ラル 吾レ等障子ノハメカエヲナス 夕食後スダレヲ買フベク京橋ヨリ八丁堀ヲ尋ネ得テ帰宅 鳥飼ヨリ電話アリ 白戸君ニ至急會ヒタシトノコト 呼ビニ行ク 十時帰宅 十二時就床 午後ナポレオンヲ讀ミ又飛行界ノ愚意ヲシルス

受信發信 神藤吉殿

平井君ヨリ電話アリ 今日三時ニテ大分帰坂ノ筈

▲▼1966ページ▲▼ 大正3(1914)年7月2日(木)

天気 晴 八十八度

午前スダレ釣り 後チナポレオンヲ讀ミ日本ノ飛行家ヲシラベル 午後白戸君ヨリ電話アリTMニ行ク 日比谷ヲ散歩シ三時過ギTMニ帰ル 四時前約束ノ通り難波トカ云フ人來ル 青山ニテ飛行ノ件ナリ 白戸君乗氣ナレドモ余アマリ氣進マス 夕刻帰宅 入浴夕食後大口川辺喜代市諸氏ニ通信。猪ノ口君來 十一時頃迄遊ンデ帰ル

▲▼1976ページ▲▼ 大正3(1914)年7月3日(金)

天気 晴 九十度

八時頃TMニ行ク エンジンヲ分解ス コンプレッションノ少ナイト思ツタヤツハヤハリリン グガ悪ルカッタ 夕方大口君來 スグ帰ル 余又帰宅ス 聞ケバ宅へ來テ長ク話シテ居タトノコト 夕食後芝浦へ加藤君ト納涼ニ行ク 花火ヤ花電車ニテヤヽニヤアフ 八時頃帰宅 十時頃ヨリ清正公様へ植木ヲ買ヒニ行ク 十一時帰宅

▲▼1986ページ▲▼ 大正3(1914)年7月4日(土)

天気 晴 九十三度

エンジンヲ組立テ取付ケ終ル 明日試運転

▲▼199ページ▲▼ 大正3(1914)年7月5日(日)

天気 晴少雨

午前五時青山へ飛行機ヲ見ニ行カント起キテハ見タガ風ガアマリニ強ヨイノデ、ダメダト思ツテ寝タ。シカシ強風ニモカ、ワラズニ一台飛ンデ來タトノコトデアッタ
八時頃TMニ行ク。今日ハフランダーヲ分解スルト云フノデ、ワレラノ方ハ中止シテ白戸君ニ其コトヲシラセルベク麻布ニ行ツタ。ソシテ終日碁ヤ花ヤ或ハ鯨餅ヲコサエタリシテ夕方ハ御湯ニ行ツテ夕食後帰宅シタ
十時過ギ床ニ這入ツタガ久シ振リデ寝心ノヨイバンデアッタ

▲▼200ページ▲▼ 大正3(1914)年7月6日(月)

天気 晴 八十度

新聞朝食中加藤君來 共TMニ行ク 種々準備 二時頃試運転セシニアダカモ風筒中ニテ試験セル如キ有様ナレバアタリノ軽イモノハ飛ビ額面ハ落チ硝子ガ壊レルト云フ風ニテツヒニ中止ス。御茶後雑談ノ後チ帰宅 夕食後顔ヲソリ十時頃床ニ入ル 夜雨降ル

▲▼201ページ▲▼ 大正3(1914)年7月7日(火)

天気 晴少雨

午前中折畳式ノ金物ノ圖面ヲ引キ碁ヲ打チナドス 晝食後TMニ一寸立寄り白戸君ヲ訪フ

夕食後加藤君ヲ訪レシモ不在 戸延君宅ニ居ルトノ由 小僧呼ビニ行キスグ帰ルトテ三十分以上一時間近クナルモ帰ラズ、少シシヤクニサワル。ヨツテ村山ニ行キ昨夜帰宅ノ由ヲ聞イテ帰宅 夕食入浴後飛行界ヲ讀ム 十時過ギ就床
帰坂前ニ一ヶ所ヤリタケレドモヤレソーニモナシ

▲▼202ページ▲▼ 大正3(1914)年7月8日(水)

天気 晴

飛行界ヲ讀ミックシ碁ヲ打ツ

夕方飛行機ノ計算ヲナス

晝食後白戸君來 コレカラ村山ニ行クトテ帰ル 都合ニテ長岡ニ出張スベシト

夜宮ロヨリ電話アリ 金ノコト 何ントカ早く解決シテヤリタイガ、カンジンノ人間ガ
留都(ママ)ナノデ実ニ如何ント困ツタモノダ
十時就床

▲▼203ページ▲▼ 大正3(1914)年7月9日(木)

天気 晴

朝食後TMニ行ク 主人マダ帰宅セズ 夫人ニ宮ロノコトヲ頼ミテ帰宅
終日大英遊記ヲ讀ミ囲碁ヲナス 昨日同様始メ悪シク後チ大勝
夕食後加藤君宅ニ行ク ツマラナイ話ノミ 九時半保夫君ト共ニ出テ、神明ニ來ル 同
君矢場ヲヒヤカサント云フ 余進マズ最モミジカキ部分ヲ素通リス 一女袖ヲ引クモノ
アリ 強ク手ヲ振りハナス。面倒クサキ憾ズルコト甚ダシ
十時過ギ帰宅 十時半就床 十一時過ギ眠ル

▲▼204ページ▲▼ 大正3(1914)年7月10日(金)

天気 晴

午前中加藤親父東下 坐敷ノカベヲ板ニ張替ル 午後コレニ壁紙ヲ張ル
商会ノ飛行機ヲ借りテ三ヶ月間稲毛ニテ練習スルニ一回モコワスコトナク又翼モ其マ、使
用シテ三百五十円入ルコトヲ確メタ
夕食後TMニ宮ロノ請求ヲナシ後白戸君ヲ訪フ 九時半ウデアツキヲ御馳走ニナリ碁
ヲ見テ帰ル

▲▼205ページ▲▼ 大正3(1914)年7月11日(土)

天気 雨

久シ振リノ雨 此雨ヲ喜ブ人ハイクラアルカシレナイ
晝食後TMニ行キ宮ロノ金ヲ十五円ダケ貰ツテ持ツテ行ツタ。大分ニ元氣モオトロエタ
様デ実ニ氣ノ毒デアッタ。奈良原サンノ金モ取ツテ上ゲタイト思ツタガ此頃ノ模様デアハ
出サナイダロー 兎三角一両日中ニ行ツテ見様。加藤君宅ニ立寄り帰宅 保夫君來
巢鴨ヨリ律子嬢暑中休暇ニテ又來ル 色氣ノナイ小供ヲシイ娘サン
夕方碁 夜八時頃TMニ宮ロノ受取ヲ持參 帰宅 十時就床

▲▼206ページ▲▼ 大正3(1914)年7月12日(日)

天気 雨

終日在宅 夕雨上リノ日比谷ヲ散歩シテ一時間バカリ後帰宅
正白(ママ)過ギ白戸君來 スグ帰ル

▲▼207ページ▲▼ 大正3(1914)年7月13日(月)

天気 曇リ

正午過ギTM二行ク 都合悪シトノコトニ夕方又行ク 漸ク十円ヲ得テ宮口ニ持参ス
帰途加藤君へ散髪代ヲ借リルベク立寄ツタガツヒニ云ヒ出シ得ズ帰宅シタ
此ノ二三日来洋々春ノ様ナ自分勝手ノ空想ヲ考ヘテ慰ミニシテ居タガ今夜不圖加藤
君宅ニテ談話中ヨリナントナク前途ニ又不安ヲ憾(ママ)ジ出シ今年春ノ様ナ気分ナリ
如何ニ前ノ空想ヲツケ様トシテモ再ビスルコトハ出来ナカッタ
玉井君稲毛ニ來リタル由 野島氏ノ格納庫立派ニ又成リタル由

▲▼208ページ▲▼ 大正3(1914)年7月14日(火)

天気 晴 強風

日記新聞朝食後タビチTM二行ク 鳥飼スデニ不在 受取ノミヲ渡シ居キ、白戸君ヲ
訪フ。シカシテ練習スルト同時ニ一度大飛行ラシキモノヲ進ム。君モ其氣ニナリ明日鳥
飼ト相談スベシト 小説本ヲ借り終日讀ミクラス。白戸君村山ニ行キ長岡ニ電話セシモ
二三日中ニ御返事スベシトノコトナリシト
夜丹藤君來ルトノコトニ待チシモ來ラズ 其雨模様ニナリシカバ帰途ニツク 途次丹藤
君ニ出會ヒシモ声カケズ徒歩ニテ帰宅。加藤君夕方來リ都築ノコト傳ナリトテエンジ
ヲ附属品スツカリツケテ持参セラレタシトノ由御母サンヨリ聞ク 豫期セン處ナレドモ
余リニ早キニ一寸驚ク サレドモイヨ、ソレトキマレバ早く大坂ニ帰ル迄ト決心ス

▲▼209ページ▲▼ 大正3(1914)年7月15日(水)

天気 晴

往訪加藤君、TM商会、奈良原氏
來訪ナシ

奈良原氏俱樂部事務所ヲ万代生命保僉会社ニ居キアルモ近日中ニ正式假事務所ヲ設
置スベク其上ハサシツメ余ト岩川君ニ事務ヲ取ツテ貰ヒタイトノコトナリキ

▲▼210ページ▲▼ 大正3(1914)年7月16日(木)

天気 晴

午前TMへ宮口ノ金取りニ行ク 呉レズ晝食後宮口へコトワリニ行ク所へ白戸君來 共ニ同君宅ニ行ク 明日ヨリ飛行機改造ニ着手スルコト、即チ來月芝浦ニテ民間飛行大會ニ出場スル爲メナリ 同氏ニナキ意気込ハタシカニ妻君ノタマモノナリ。大ニヤルベシ 忠雄君今夕帰国セシムルトノコトナリキ 帰宅就床後機ノ重點心込ヲ見ル 一時二十分迄カ、ル

▲▼211ページ▲▼ 大正3(1914)年7月17日(金)

天気 晴少雨

今朝目ヲ醒スト御母サンノ声ガシキリニキコエルノデ起キテ行クトスデニ朝食ノスンダ後デアツタ

新聞日記後TMニ行ク エンジン其他附属品ノ都築氏へ返スベキダケノモノヲ全部取ソコエル

午後帰宅 長尾君モ來 碁其他デタ方帰ル

御母サン帝劇 留都(ママ)ニ花ヲ引ク 初メ大勝 後チ悪シク結局四錢ノマケ 岩ドンガ三十錢バカリ負ケ。十一時半頃帰ラル 十二時就眠

▲▼212ページ▲▼ 大正3(1914)年7月18日(土)

天気 曇リ

今朝モ余リ早イ方デハナカッタ 朝食後新聞ヲ讀ミ九時頃TMニ宮口ノ金ヲ取りニ行ク不在 其マ、芝浦へ飛行機ヲ見ニ行ク 十時半飛行機八第來 武辺少尉操縦 ツギニ藤瀬中尉操縦 ナル程ウデニヤ、後者ノ勝レルヲミトム 正午帰宅。都築氏來 ピヤノ線ノ購入ヲ依頼サル シバラク飛行機談ヲナシテ帰ル。余TMニ又行ク 明日ニシテ呉レトノコト 芝ニ行キピヤノ線ヲ注文シ白戸君ヲ訪フ 共ニ青山ニ行ク 丁度ニューポールガ飛ブトノコトナリ 一度旋回飛行ヲナシ着陸 再ビ上ガッタ時ハ所沢ニ帰レリ 白戸君宅ニテ夕食 八時頃迄囲碁 徒歩ニテ十時頃帰宅

▲▼213ページ▲▼ 大正3(1914)年7月19日(日)

天気 晴

時事 陸海軍共ニ帝都ニ飛行 沢田中尉ノダツセン飛行見事ナリキ

終日TMニテジップラツケルベキ飛行機ヲ作ル 金モノガソロッテ居ナイノト自分ノ腹ニ這入ツテナイ設計ダカラヤリニクイコトオビタ、シイ 御晝前都築氏來 ユンジンノームヲモツテカヘッタ 晝食後白戸君ト山科へ見ニ行ツタ。モーリス型ノ骨組デヨリ以上丈夫ナモノデアツタ。出來上リハカッチリシタ小ジンマリシタ飛行機ハ出來ルダローガアノ發

動機ガ今ノ状態デアハ飛ビソーニモナイ。氣ノ毒ナモノダ。此前猪ノ口君ガ來タ時ニ注意
ハシテ居イタガキカナイラシイ

▲▼214ページ▲▼ 大正3(1914)年7月20日(月)

天気晴

終日TM 機体ヲ組ム

夕食後又TMノ豊サンニ模型ノ材料ヲ持ッテ行ッテヤッタ

昨日カラ風ガアッタダケ今日ハ非常ニ楽デアッタ

▲▼215ページ▲▼ 大正3(1914)年7月21日(火)

天気晴

朝食後製圖 九時頃ヨリ京橋区役所へ氣車割引券ヲ貰ヒニ行ク 帰途山科ニヨリ製作
ヲ見ル 昨日ヨリ發動機分解セリトノコトニ行キテ見ル 都築氏アリ ピストンガ破レ居
ルトノコト 猪ノ口ガ主任ニテヤリ居ルナリ 其分解ノ仕方ヲ見ルニシヤフトヲヌカズニ、
シリンダーヨリハヅシタルナリキ 然シテピストンノコワレ方タルヤシリンダーヲヌキタル、
クランクケースノ角ニ打チツケタルニソー違ナク一個ノピストンノ両側ニワレ居ルナト、シ
ヤフトヨリ分解シタル場合出來ルベキモノニアラザルコトヲ都築氏ニ照(ママ)明シテ後チ
帰ル 丁度正午ナリキ

午後白戸君へ帶ノ金十七円ト河村氏ヨリノ贈リ物ヲ持ッテ行ク 五時帰宅 入浴後明
日掃除ニツキ自分ノモノヲ取方付ケ夜加藤君へ洗濯モノヲ持参ス

▲▼216ページ▲▼ 大正3(1914)年7月22日(水)

天気晴

朝食後奥ニ階ヨリ掃除ヲ初ム 丁度加藤君來 手傳フ 正午終ル
午後文藝俱樂部ヲ讀ミ夕方飛行界ヲ觀ル
夕食後TMニ遊ビニ行ク 八時過ぎ帰宅 十時就眠

▲▼217ページ▲▼ 大正3(1914)年7月23日(木)

天気晴

朝食前ニ大口川辺ニ君ニハガキヲ出シ食後掃除ヲ初ム

夕六時頃終 食事中電話アリ 志賀潔君遊ビニ行クトノ趣キ 実ニ意外ナリ 氏ハ四

川省成都府ニアリスデニ三年ニ及ビ今日突然來ラルトハ夢想ダニセザリシ處。八時頃來

ラル 丁度白戸君モ來 好都合ナリキ 河村氏へ支那狼ノ毛皮ヲ贈ラル 見事ナモノナリキ。君ハ鼻下ニヒゲヲタクワエラレタセイカ以前ヨリ非常ニ大人ビテ見受ラレヌサレドモ相變ラズ酒ノセイカツヤ、シキ顔色ナリキ 加藤君歸リ白戸君又歸リテ三人ニテパウリスタニ行キ出テ、銀坐通リヲ京橋迄散歩シテ帰宅 十二時就床

河村氏トノ談話アリ 生ニ六奈良原、商会、大口、川辺等ノ事ヲ聞カレ話ス 他ニ多ク談リ得ザリシハモノタラヌ感ジシタリ シカシ支那ノ野蛮ナルコトヲ聞キテハ驚カザルヲ得ザリキ

三年前ノ志賀氏ニ比シ立派ナル氏ノ今日ト三年前ト尚今日變ルコトナキ余ヲ比シテナサケナキ感ジタリキ 床ヲ入りテモシバラク考ヘニフケリ將來ノコトトモ決セントシテ決セザリキア、

▲▼218ページ▲▼ 大正3(1914)年7月24日(金)

天気晴

朝風ナク暑苦シ 後風出ズ

喜代市兄ヨリ兵庫縣ニ出張ノ手紙來ル 返事ス

八時頃山科ニ行ク 十時頃適居ル 都築氏ツヒニ來ラズ、帰宅

晝食後午睡

夕食後白戸君ヲ訪フ 例ニヨリテ氏モ又余ノ如ク「テツテイ」セザル意見(悪ク云へ、バグチ)ヲ列ブ

余東京朝日連載ノ「先生ノ遺書」ヲ讀ム 其先生ナル人ノ性分余ニスコブル相似タリ。ア、余モ又彼レ先生ノ如ク世ノ劣敗者トナルカ。トツ努力セザルベカラズ。然シテシイテ余ハ余ノ意志ヲ強カラシメンコトニツトメザルベカラズ

▲▼219ページ▲▼ 大正3(1914)年7月25日(土)

天気晴

午前八時半頃カラ福引デーニ行ツタ 正門ハ人が多カロト思ツテ第二会場ヨリ這入ツテエスカレーターデー會場ニ行ツタ 來ルハ、大變ナ人 ヤットノコトデ福引場ニ行ツテヤットノコトデーツモナカヲ壊シテ見ルト空ッポ ヤレ、

午前四時頃カラ暑苦シクテ眠レナカッタノデ製圖ヲシタ
夜金春館ニレコードヲ見ル 頗ル快

▲▼220ページ▲▼ 大正3(1914)年7月26日(日)

天気 晴夕立ス

四時頃窓ヲ明ケ五時起床 朝食後白戸ニ行ク。掃除大半終リテ白戸君所沢ニ行キタ
リトノコト
晝食後午睡 旅費ヲ借り今夜出發トキメテ帰途加藤ニ立寄り用ヲ達シ帰宅 夕食後
TMニ行ク 主人不在
河村サンへ醫者ノ借りヲ支拂ヒ土産ヲ貰ヒ七時半車ニテ出ツ。加藤君見送リノ爲メ來
氣ノ毒ナリキ
八時無事出發 豫想シタ程暑カラズ。サレドモ眠レズ

▲▼221ページ▲▼ 大正3(1914)年7月27日(月)

天気晴

暑中休暇ニ淡路洲本ノ叔父ノ許へ暖(ママ)暑ニ行クト云フ十八才ノ中學生ト道ツレニナ
ル 海軍機關學志望ニテ明年卒業後同校ニ入學スルナリト。梅田ニテ分カレテ車夫ヲヤ
トヒ十一時無事無(ママ)宅 晝食後午睡 三時過ギ西ノ内へ行ク 氷リニ、榊蕩ヲ御馳
走ニナル 電車ガシケルノデ此辺大分變ツタ 西ノ内ナトモズイ分北ノ方へ這入ツタ。ソ
レカラ變ツタノハ、スシヤガイヨ、イケナクナツテ今日明日カラ店ヲ仕舞フコトニナツタ
トーカ ソレガ爲メカ今夜ハナレデナニカ相談シテ居タ
余ハ新世界ヲ一寸見テ帰宅 就床シタレドモ風ナク暑苦シクテ眠レズ戸ヲ明ケタマ、床
ニ入ル

▲▼222ページ▲▼ 大正3(1914)年7月28日(火)

天気晴

寢苦シキマギレニ夜ハ明ケタ 雨模型(ママ)ハ有難カッタが大シテ降りモセズ又晴レタ
昨夜床ノ中ニテ姉ヨリ養子ニデモ行ツテ早く身ヲカタメロトシキリニ云ワレタ ウマイロ
ガアレバダガサリトモ飛行機モ又止メラレズト困ツタモノダ
正午後日本橋ヨリ道頓堀ヲ千日前ニ出デ難波ヨリ電車ニテ帰宅。春次君來 スッポン
ガ安イトノコトニ買ヒニ行ク。夜食スコブル振フ。
八時半頃兄ト清平春次君ト新世界ニ行ク イロハニテ杯ヲ上ゲ帰宅ス
鮎屋ノ才二百五十円ばかり借金アリ。サレド名前ガ伊藤岩吉ニナリ居ルトノコトニ出
費ハマヌガレザルベシ。サレバ一日モハヤクテキキパキト引取ルモノハ引取り賣ルモノハ賣ツテ
キマリツケルニシカザルベシト余ハ趣意セシモ發言權ナケレバモウオシシバラクモクス

▲▼223ページ▲▼ 大正3(1914)年7月29日(水)

天気晴

朝食後白地ニ紹ノ羽織ト云ウ軽便姿テ香露園ニ行ク 電車ヨリ海岸迄松林ノ中ヲ行クコト約五六丁 波ノ音次第ニ高く、銀波キラメク ヤガテ濱ニ出ズルヤタゞチニ砲台下ノ格納庫ニ海野氏ヲ訪フ

帰途海野ニ名刺ヲ貫ヒ鳴尾ニ下車 蔭ナキ競馬道ヲ裾ヲマクリナガラ行 風アリヤ、タスカル。格納庫ニ番人アリ 利ヲ通ジテ戸ヲ開キ入ル。巨大ナルレンブラー見事ナリ。モーラヌ、ソルニエー機ノ修繕ナリタレドモ發動機分解セルマニテ、余程込入りタルゴタ、ナル由 萩田ナドノヤルコトハソレ位ノモノナリ

夕食後散髪 タガヨリ後チ延次郎君ト新世界ヲ散歩シイロハノ洋食ヲ喰ヒ公園ヲ散歩シテ帰宅

十時頃鳥佐ノオイシサン死シタトノ知セアリタリ

暑サ例ニヨッテ暑ク十二時過ギ追眠レズ

▲▼224ページ▲▼ 大正3(1914)年7月30日(木)

天気 快晴 暑

六時延次郎君來 朝食 共ニ出ツ 七時半宮門前ニ整列 入門九時半 氏名點呼ヲ終リ學科ニ入ル 一時半退門 三時前帰宅

夕食後公園新世界ヲ散歩シ帰宅後西ノ姉ト共ニ西ノ宅ニ行キアメ湯ヲ呑ム

飛行界八月號ヲ求メ帰ル

夕方車輪装置ヲ考察ス

▲▼225ページ▲▼ 大正3(1914)年7月31日(金)

天気 快晴

終日在宅 少時讀書製圖 午後姉ト將來ニツキニ三商議ス 姉ハ何處ヘカ養子ニ行ク 拙宅ニ居ヨトノ意見ナリキ

夜新世界へ二度行ク 二度目ニ兄ト清平モ行ク ビリ軒ニテビールヲ呑ム。別ニ目的アラザルモアーシタ女中等ノ好サソーナノニナジミヲコシラエタイ様ナ氣デ行ク 之レ現代青年一搬ノ傾向ニアラザルナキカ。十二時就眠

▲▼228ページ▲▼ 大正3(1914)年8月1日(土)

天気 快晴

昨夜ノ約束デ野田君ガ起シニ來タ 時ニ四時 早速仕度ヲスル内ニ竹島主人田中芳君モ來 兄ト五人連レニテ行ク ジレナガラ待ツコト約三十分 ヤット電車ニ乗ツテ上本町六丁目ニ下車 大坂軌道ニ乗替ヘ東進ス 満員々々 停車僅ニ四五回ニテ有名ナル生駒

トンネルモ過ギ生駒駅ニ着ク 坂路十一丁 田中氏肥大ノ体ヲユスブリナガラ、アダカ
モゼンク病ミノ如シ

参拝終ツテ茶店ニ入り朝食 観下スレバ大小ノ連本ヲヘタテ、カスカニ南都ヲ望ミ得 森
黒ク田青ク水白ク起伏スル様 加フル涼風汗ヲ拂ツテ氣持好キコトカギリナシ。聞クナ
ラク此辺一日五十銭ニテ宿泊シ得 カツケ患者ニテ來ルモノアリトノコトナリキ
午後迄午睡 少時讀書 夜新世界散歩

▲▼229ページ▲▼ 大正3(1914)年8月2日(日)

天気晴

夜明ケニ火事ガアツタノデ今朝ハ煙筒ノ掃除ヲシタ 後チ道具ヲ方附ケタリ 少時讀
書シタリシタ

午後西ノ内へ行ツテ午睡シタ 三時半起(ママ)宅

夜夕食後大正館ニ活動喜劇ヲ見ル ナンダカ馬鹿々々シイテイヤデアツタ 大正館前
ノ「ヤヨイ」ノ仲居ガ二人後デ立ツテ見テ來タ 一番御シマイガ面白イト云フノデガマン
シテ見タ。帰除(ママ)ビリ軒デビールヲノンデ帰宅 就床

▲▼230ページ▲▼ 大正3(1914)年8月3日(月)

天気曇

夜ハ寢ラレナイクセガツイテ起キタノガ八時

夕西ノ内へ行ク タ立アリ 後チ延君ト芦辺館ニ活動ヲ見ル 九時半帰宅 十一時就
床

▲▼231ページ▲▼ 大正3(1914)年8月4日(火)

天気晴

八時起床 朝食 此前カラ云ヒツケラレタ薪ヲツクルベク、鋸ヲ持チ出シタガ切ルベキ
台ガ見ツカラナカッタノデイヤニナリニ階ニ上ガツテ、サントスジユモンノ模型ヲ作ツタ
處ガ寸法ヲ間違ヘ再ビ造リカヘル氣力モナカッタ 午後モボンヤリト過シ現在未來ヲ考ヘ
ツ、夕方ニナル 少時代數學ヲヤッタ 不思議ト之レガヨク頭ニ這入ツタ 勿論風呂上
リノ上ニ涼シイ風ガ手傳テ氣ガ晴レタ々々シテ居タカラデモアロー。食後納涼博覽會ヲ
見ル 各動力会社ヤポンプ製造所ノ広告的噴水ヤ大瀧ガ随分氣持ガヨカッタ

▲▼232ページ▲▼ 大正3(1914)年8月5日(水)

天気晴

今夕宅ニテ髮結競技會ガアルノデ障子ヲ張替ヘルヤラデ大分急(ママ)ガシカッタ
八時頃カラ大分來テ十一時頃中止シテ帰ヘッタ 僕等ノ寢タノ八十二時頃
發信 奈良原河村白戸加藤諸氏

▲▼233ページ▲▼ 大正3(1914)年8月6日(木)

天気晴

夜ハ明ケタ 又暑一日デアアル 無意識ナル今日此頃仕方ナシノノンキニモアキテ、サテ
又スルコトモナクイヤシナイノデアアルガ：スル氣ニナレヌ 過已ノ失敗、現在ノ境寓(ママ)、
今ノ處ヤハリ余ハ余デ東京方面ニ飛行機ノ手段ヲ購(ママ)ジ居キ宅ニ居テ時機ヲ待ツヨ
リ外ナイノデアアル
夜新世界散歩、夜大ニ苦シム

▲▼234ページ▲▼ 大正3(1914)年8月7日(金)

天気晴

終日小説ヲ讀ム タソレヲ帰(ママ)シニ行ツテ又新ラシク一冊借リタ。ガアマリ氣ノ進マ
ヌ本デアッタ。西ノ内デシバラク納涼ミ帰宅 後チ新世界ニテ散歩シお猿ノ藝ヲシバラ
ク見テ帰ヘッタ。ニ階ニ上ルト御照ルサンガ居テシバラクシテ帰ヘタ 就床

▲▼235ページ▲▼ 大正3(1914)年8月8日(土)

天気晴

時事 獨拂空中戦争開カル

午前中小説 余リ面白イトモ思ワナカッタ 午後三時頃迄午睡
午後號外アリ 獨逸益々不利 拂飛行家ガローハ獨飛行船ト共ニ墜落惨死セリト
夜延次郎君ト新世界ニ行ク 焼死者アリ坂堺入口ニ横タへ警官臨見(ママ)中ナリキ

▲▼236ページ▲▼ 大正3(1914)年8月9日(日)

天気晴

午前中裏ノ納家デ薪ヲ切り午後竹島ノ裏ニ行ク ソコへ吉田岡本ニ君來 商界亂脈ナ
ル話ニ大分花ガ咲イタ シカシ吉田君ノ僕ニ対スル「マダ飛行機ニ乗セテ貫ヘナイダロー」
ノ一言ハ実ニ断腸ノ思ヒデアッタ。夕方朝切ツタ木ヲ割り内ニ運ビ入
夕食後大正館ニ喜劇ヲ見九時半頃帰宅ス

西ノ姉モ來 二階ニ上ル。大姉ガ兄ガ僕ガ小遣ヲ遣ツテイケナイト云ツタトツゲタ 僕ハツクゞ、ナサケナクナツタ ア、帰坂以來僅ニ二円カソコラノ小遣ガソシナニ云ワレルノカ実ニ残念デアアル

ドーシテモモ一 度東京ニ出デヤローカト思ツタリシタガ結局父兄姉ノ前デ僕ノ前途ヲ取キメル必要アルコトヲサトツタ

▲▼237ページ▲▼ 大正3(1914)年8月10日(月)

天気 晴

時事 東洋ノ風雲漸ク急 余等又何時召集ニ會ヤモ知レズ

立秋以來ヤ、涼シナツタナツタ

來信 白戸加藤二兄

今日ハ新世界ヘモ行カナカッタ

▲▼238ページ▲▼ 大正3(1914)年8月11日(火)

天気 晴

時事 広島師團出帥

無事 午後都築氏ヨリ手紙來 土佐堀二丁目ノ三坂丈太郎ナル者ヲ調ヘテ知ラセテ

呉レトノコトニ夕食後先ヅ京町堀ノ大野印刷所ニ立寄り聞イタガ分ラズ。土佐堀ニ出

デ田坂ニ立寄り店員ニ聞イタラ一ヶ月半程以前ニ移轉シタトノコトデ、前ニ住マツテ居

タト云フ家ノ隣リデ聞イテ見ルト上本町四丁目辺へ行ツタトノコトナリキ

▲▼239ページ▲▼ 大正3(1914)年8月12日(水)

天気 曇リ ヤ、涼シ

午前薪ヲ造リ十一時半淡路カラ帰ルベキ兄ヲ迎ヘニ恵美須駅ニ行ク

晝食後上本町二三坂ヲ尋ネ漸ク要領ヲ得テ帰宅 手紙ニシテ報告ス

夜延君ト新世界散歩

▲▼240ページ▲▼ 大正3(1914)年8月13日(木)

天気 雨

時事 東海道線大暴風アリ

久シ振リノ雨デ冷ヤカナコト スベテノ人ハヨミガエツタ様ナ氣持ガシタデアロー 午後カ

ラ少シ風ガ出タ 儀兄ハ船ニヨフノデ出發ヲヤメタ

夜延君ト活動ヲ見ニ行ツタ 快鳥ハヤ、ヨカッタ

▲▼241ページ▲▼ 大正3(1914)年8月14日(金)

天気 晴

昨夜モオソク迫四良平君ガ來テ相談コトヲシテ居タ 今日ハ店ガシメテアツタ
朝儀兄ヲ恵美須駅迄見送ツタ

終日一人デ碁ヲヤツタガタイクツ 其内徳チャンガ來タノデ無理ニ二階へ上ゲテ二回バ
カリ教エナガラヤツタ

其前今度ノ戦ニアマリ豫期シタ程飛行機ガ活動シテ居ナイラシイノデ、イロ、ノ考エテ
見ルニドーモ發着ニ不便ガアルノデハナイカト思ツタ。ツマリ要塞ノアル様ナ處デハ山間
デアル 山間デハ現今ノ飛行機デハ殆んど發着ハ不可能デアル。ソコデ佛ニ今ブレリオ
氏ノハアルガアマリ惑(ママ)心出來ナイノデ、春考察シカケタヤツヲ再ビ研究ヲ始メルコ
トニシタ 今日ノ実験ハスベテロープヲ使用スル點ニ研究シタノデアツタ

以前ニ六固形体ノモノヲヤツタノデアツタガソレデハ運搬ナラビニ着陸ニ甚ダ不便ナコト
ヲサトツタカラデアツタ

▲▼242ページ▲▼ 大正3(1914)年8月15日(土)

天気 晴

時事 天皇皇后両陛下還達啓アラセラル

獨り碁ト發着装置ノ工夫

白戸君ヨリ來信 今夜甲府へ契約ノ爲メ出張 キマリ次第電報ヲ打ツカラスグ上京シ
テ呉レトノコト

新ラシク飛行機ヲ造ル由

▲▼243ページ▲▼ 大正3(1914)年8月16日(日)

天気 晴

時事 獨逸へ最後ノ通牒ヲ發ス

イヨ、最後ノ通牒ガアツタ 夜延君ト新世界へ行ツテ帰途区役所ノ小遣ガワラジバキ
ニ灯燈ヲサゲテ急(ママ)ガシゲニ徒ムノデアツタ 見テ居ルト二三軒先キノ家ニ這入ツタ
ノデ早速行ツテ見ルトハタシテ召集令デアツタ 延君ノ声ハヤ、フルイヲオビテ彼レガコ
ーフンシタ時ニ聞ク声音デ「イヨ、ノキヤガッタナ」ト云ツタ 余モハット、トムネヲツヒタ
ガ延君程ニゲキスルコトハ出來ナカッタ。ソレデモ今夜ハナカ、ノ眠レナカッタ 裏ニ足音ノ
スル每人声ノ聞エル毎ニ來タカ、ト思ツタ ソシテ出ル時ト後チノ事ニツヒテ東京ニ居

イテアル荷物ハ依(ママ)類ハ大坂へ文藝書冊ハ河村サンへ飛行機ニ関スルスベテハ河辺君ニ
與へ余ガ半生ノ努力ト失敗トハンモンヲ世人ニ告ゲシコトヲ彼レニ侘(ママ)スルコトニシヨ
ト思ツタ シカシ之レハ戦死ノ後ノ計デアアル

▲▼244ページ▲▼ 大正3(1914)年8月17日(月)

天気晴

昨夜ノ召集ハ要塞砲兵ノ豫後備ニテ今宮ニテ十七名アリタル由
朝ヨリ裏ノ納屋ヲ壊ス手傳ヒヲナス
夕方西ノ家ニ行キ延君ト共ニ新世界ヲ散歩 ビリ軒ニテ氷ヲ飲ム 女中等シキリニ秋
波?ヲオクル 今日ハ如何ナル吉日ゾヤ

▲▼245ページ▲▼ 大正3(1914)年8月18日(火)

天気晴

午前二時電報アリ 白戸君ヨリ來テ呉レトノコト
召集何時トモシレネド承知ナラ云(ママ)クト返シタ
午前午後薪ヲ造ル

▲▼246ページ▲▼ 大正3(1914)年8月19日(水)

天気晴

午前中薪ヲ切り、夕方割ル
三時迄午睡
夜就床後電報來 來テ呉レルカヘントノコト
兎ニ角行クベク決シテ寢タガ一向睡レナカッタ
ソレカラ、ハ、ト考ヘテツヒ三四時頃ニ漸ク睡ルコトヲ得タ

▲▼247ページ▲▼ 大正3(1914)年8月20日(木)

天気晴

此ノ記事昨日ト入替ル
裏ノ手傳ヲナス 白戸君ヨリ來電。キテクレルカヘンタノムトノコト 兎ニ角行クベク決心
ス

▲▼248ページ▲▼ 大正3(1914)年8月21日(金)

天気 晴

六時起床 コンヤタツト打電

薪ヲ家へ運び後チ朝食 今日出發ニ付父ヤ兄姉皆不平 大ニシカラル。然シ此度ノ行金
錢上ニ六決シテ損ナケレバ召集ノ來ル迄余ハ行クコトニ決ス

夕方出發ノ際モ父頗ル不機嫌 余ニアマリノコトニ二三言ヲ返シタレドモ父ノ心ニナツテ
見レバ又アハレノ點ナキアラズ。ア、ナゼ飛行機ヲ犠牲ニ出來ナイノカシラ。自分ニモ確
信ナキニ…。自分ニモ分ラヌ

今朝西ノ宮ニ海野氏ヲ訪フ

▲▼249ページ▲▼ 大正3(1914)年8月22日(土)

天気 晴

沼津デ約三十分間停車 ソレカラ山北迄ハ多ク険行 最モハゲシイノハ御殿場小山間
随分気味ノ悪イ處ガアッタ 鉄橋ハコトゴトク落ちテレールガ宙ブラリノ處ヤ川原ニ横
タワツタ處ガアッタ。ソレデモ一時間ノ延着デ無事ツイタ 満員ノ決(ママ)果今日ハ終
日カラダガ痛タカッタ

三時頃ヨリ一寸午睡 夕食後TMニ挨拶ニ行ク。白戸君稲毛へ行ツタトノコト 夜同君
ト共ニ白戸宅ニ行キ十時半帰宅ス。今日星野君最初ノ試運轉ヲナス。イキナリ水タマ
リニ飛ビ込ミ、プロペラヲキズ付ケタリト
都築氏余ヲ一ヶ月二十五円ニテ發動機カントクニヤトヒタシトノコト事傳アリタリト
大ニヨシ

河村氏湯河原へ避暑ヨリ今夜帰京サル

▲▼250ページ▲▼ 大正3(1914)年8月23日(日)

天気 晴

時事 正午日獨国交断絶シ午後六時宣戰發布サル

六時起床 朝食新聞自宅へ手紙

八時ヨリTMニ行キ飛行機ヲ手入シ附属品ヲト、ノフ 加藤君ヨリ電話アリ 來ル様云
ヒタレドモ來ラズ

夕方白戸君宅ニ行ク 湯ニ行キ夕食ヲ馳走ニナリ碁ニ三番ナシテ來ル 時十時十五
分 タ、少時御母サント雑談 就床。近來頗ル寝ツキ悪シクナリタリ

▲▼251ページ▲▼ 大正3(1914)年8月24日(月)

天気 晴曇

時事 星野式処女飛行良好

午前朝食後加藤君宅ニ行ク 十時帰宅 TM二寸行ク 十一時半白戸君TMヨリ電
話ヲ懸ク 行キテ共ニ稲毛へ發動機受取ニ行ク 強風アリ 野島氏ノカーチス組立成リ
星野君ノ分風向ヒニシバリアリ

上總ニ行キ野島宮里其他旧友諸氏ト快談數刻 時ノウツルヲ知ラズ心ヨリ笑ノ声ヲ
發セリ

車ノ都合ニテ白戸終列車ニテ帰り余宿泊ス

九時十分荷ヲ造シ出シ海氣館ニ行キ川上星野諸君ト會談。帰宅後川辺君ト床ノ中ニ
テ昨年ヤ奈良原行動談ヲナス 川辺君近來又非感(ママ)ノ様子ナリ

大口君モ病氣シタリトテ元氣衰へタリ

川辺君ノ將來ノ飛行界觀念余ト一ナリキ

▲▼252ページ▲▼ 大正3(1914)年8月25日(火)

天気晴

午前八時ヨリ五時迄飛行機手入 明日出荷ノ筈

夜先月來ノ切抜ヲ整理ス

昨日寝ナイノト今日ノツカレ床ニ入ルナリ眠ル

▲▼253ページ▲▼ 大正3(1914)年8月26日(水)

天気晴

午前八時ヨリ出荷準備 晝食後新宿駅ヨリ貨車ニ積込ム 鉄道院直扱ヒトテニンプナ
クシート迄カケサセラル

三時終ツテ帰途白戸宅ニヨリ都築ノ話ヲ聞ク 先日ノ遣リナリト

帰宅後出發準備 九時宅ヲ出デTMニテ出發ノ祝杯ヲ上げ自動車ニテ飯田町ヨリ気
車ニ投ズ 十一時發車 満員 寝ルベキ、ヨユーナシ

▲▼254ページ▲▼ 大正3(1914)年8月27日(木)

天気晴

五時半甲府着 出迎へノ自動車ニテ宿トセラレタル東光寺芳野湯ニ入ル 處ガ道ノ遠イ
コト大變ナノデ朝食ヲ終ルヤ佐渡幸へ移轉ス 芳野湯ヨリ南面シテ富士ヲ見ル スコブ
ルヨシ、スケッチス

今日ツヒニ金ノ受渡シ済マズ 余等ハ自動車ニテ練兵場ヲ見設備ヲナサシメ聯隊ニ立寄
リ副官ニ會見シテ帰ル 帰宿後ハ切抜ヲ見タリ五目ヲナシタリシテ夜ニ入ル

夕食後市中ヲ散歩シ遊郭ヲ見ル 市中ハサスガブドート水昌(ママ)店頗ル多シ。サレドモ水昌(ママ)ハ價格頗ル不廉
發信 自宅ト河村氏

▲▼255ページ▲▼ 大正3(1914)年8月28日(金)

天気 晴

甲斐新聞社金ヨコサズ荷物ツカズ困ル
夕方荷物ツク 甲斐二百八十円持参
白戸十一時五十分來ル
天気不良ノ兆アリ

▲▼256ページ▲▼ 大正3(1914)年8月29日(土)

天気 雨夜風雨

朝來ノ雨ダガ先ヅ運搬シテ機体トテールヲ組立ツ内雨益々降ル 天幕ノ下ニ又屋根ヲ作ル 明日清天トノ報アリ 右プレーンヲ組立ツ
コレヨリ先キ雨ツヨキ爲メ加藤君ヲ聞キニ歸ス。五時帰宅 全身ビシヨヌレ。其内風加ワリ、モーレッツヲ極ム 鳥飼プレーンヲ組ミタルヲ嬉コバズ、見ニ行クベク促ス。ヨツテ九時頃シヤツノ上ニ白戸君ノ、レインコートヲ借りテ出ル 白戸君同ジク來ル 風クルヒ雨大ニナヤマス
格納庫天幕ハチギレテ飛ビ鉄板舞フ キケンナレドモ格納庫内ハ風ナイ 安全ナリ 飛ビチツタル鉄板ニテ足ヲ切ル
十一時帰宅
シバラクシテ床ニ入ルモ風雨益々ツヨク眠レズ耳ヲツメテ眠ル

▲▼257ページ▲▼ 大正3(1914)年8月30日(日)

天気 快晴

午前中ヤ、風アリタルモタナギハヨシ
組立手入ニ三時半迄カ、ル 終ッテイツモ御定メノ川湯ニ出テイコウ 昨日ヨリハ水減ジタルモ水勢ツヨシ 小供等タワムル中最モ小イサキ一人タオサル、ヤ強キ流レニ押シ流サル 余タ、チニ引上ゲヤル
其内白戸鳥飼ニ君來 直線ノ試運轉ヲ行フ 七十トシテノ牽引力ナケレドモ飛行ニ於テハ心配ナカルベシ。帰宅スレバステニタンガレナリキ
契約ノ金持参セズ サイゴノ談判夜ノ十二時ニ及ブ

◆▼258ページ◆▼ 大正3(1914)年8月31日(月)

天気 晴

午前八時迄ニ金五百円持参セザルカギリ飛行機ヲ分解スベシトノ約ノ下ニ五時頃練兵場ニ向フ

八時過ギ九時十時ニナルモ積(ママ)任者來ラズ 觀衆一万余ニ及ブ。ヤムヲ得ズ飛行機ノ飛ブコトヲ示ス爲メ十一時西ニ向ツテ滑走 大田ヲ畫キテ一週(ママ)着陸 説明セズ觀衆ハ待チアグネルコトニテドシ、帰路ニツク

午後同ジク 五時頃漸ク二百円ヲ持参シ余説明シニ週(ママ)半ノ大小周回飛行ヲナシテ終ル 夜十二時最後ノ談判ノ決(ママ)果明日ハ分解帰京ニ決ス 甲斐新聞ナルモノ如何ニシテ後チノ解決ヲツケントスルカ見モノナリ

◆▼261ページ◆▼ 大正3(1914)年9月1日(火)

天気 晴

風無ク絶好ノ飛行天気 五時前起床 練兵場ニ行キ白戸鳥飼ニ君モ手傳ヒ八時頃馬車ニツンデ停車場ニ送ル。ソヲ知ラズシテ見ニ來ル人多ク中止ノ張紙モナサザル主催者ノ心事スコブル、キカイナリ 貨車オソクナリ十二時積込ヲ終ル 朝食晝食ヲ一時頃一度ニ食ス 三時十六分ニ乗ルベク停車場前佐渡幸支店ニテ待チ合ス。三十分遅レテ氣車來ル 東海道線不通ノ爲メ満員 ツヒニ八王子迄立往生ヲナス

◆▼262ページ◆▼ 大正3(1914)年9月2日(水)

天気 晴

七時半朝食 正午後新宿へ飛行機ヲ取りニ行ク 三時帰り四時半ヨリエンジンヲ下シ荷造リヲナシ夕方終ル 夕食ハIMニテ食ス 後チ帰宅 巢鴨ヨリ來客 律子嬢トマル 飛行機ノ繪葉書ヲ呉レトネダラレテ繪葉書ヲ見セ其中ヨリ十枚ヲエラバシム 十時半就眠

◆▼263ページ◆▼ 大正3(1914)年9月3日(木)

天気 晴

五時起床 仕度シテ両国ニイソグ 五時五十分ニヤット間ニ合フ 稲毛七時着 十時頃ヨリ星野式組立ヲ手傳フ 夜ニ入ル。午後加藤來

本日川辺君來リタル由 一時上野發ニテ函館ニ行キタリト

▲▼268ページ▲▼ 大正3(1914)年9月8日(火)

天気 晴れ

新聞朝食

殊ンド完成シテアト機体ノ前部ノミヲ余ス

夕食後囲碁 大勝ス 八時白戸夫妻ト共アンドリウースノロバートヲ見ルベク同道ス。

見終ツテ。パウリスタニテハンバーグステーキニコヒーヲ飲ミ九時帰宅 十時半就床

今朝五二良尋ネ來リタル由 残念ナコトシタリ ハガキニテ今日至急出帆スルコトニナリタル由ヨコス

▲▼269ページ▲▼ 大正3(1914)年9月9日(水)

六時起床 入浴新聞日記朝食

白戸君ニ行ク 夕方終リ帰りニ夫妻ト共ニ麻布電気館ニ活動ヲ見ル イヅレモ一度見タモノノミニテツマラナイコトオビタゞシク時間モ遅クナルノデ失敬シテ九時帰途ニツク午後五二郎又尋ネ來リタル由 今夜來ル筈ノ處ツヒニ來ラズ 明日ハ終日待ツコトニス

▲▼270ページ▲▼ 大正3(1914)年9月10日(木)

天気 曇

二度迫五二郎ニスカラフマセタレバ今日ハ終日宅ニ居ル 御母サン宮戸坐ニ行キ不在 午後浅野君ト河村氏ト三人デ花ヲ引ク 千変萬化ツヒニ三錢ノ敗

六時頃御母サン帰ヘラル 五二郎ツヒニ來ラズ

九時半就床

秋氣充チタ々テ氣持チヨキコトカギリナシ

▲▼271ページ▲▼ 大正3(1914)年9月11日(金)

天気 雨

六時半起床 今日モー一日待ツテ見ルコトニシタガツヒニ來ナカッタ

十時頃加藤白戸両君來 奥ニ階ニテ河村氏ト四人ニテ花ヲ引ク 大敗

夕食後浅草帝国館ニ行ク 交戦国則(ママ)待センホドニモアラザリキ

▲▼272ページ▲▼ 大正3(1914)年9月12日(土)

天気 晴

モー一日今日モ待ツツヒニ來ラズ
夕方御母サンニフランネルヲ一枚依頼ス
模型ヲツクルベク材料ヲ買フベクノヤニ行ク
TMニヨリ豊サント一所ニ
帰宅 十時就床

▲▼273ページ▲▼ 大正3(1914)年9月13日(日)

天気 雨

朝食後白戸ニ行ク
機体ヲツクリテールヲ仕上ゲ
夕方ヨリ雨マス、シゲクツヒニ今夜泊ルコトニ決シ入浴ニ行ク際宅へ電話ヲカケ置ク

▲▼274ページ▲▼ 大正3(1914)年9月14日(月)

天気 雨

雨尚ヤマズ 夕刻ヨリヤ、風モ加フル
四ノ橋水ニツカリタリト 浅草辺ノ被害思フベシ
フロートヲツクル
夜カルタヲナス 今夜モトマル

▲▼275ページ▲▼ 大正3(1914)年9月15日(火)

天気 晴

時事 我軍即墨セン領
荒サミニ荒ンダ雨モ今日ハキレニ晴レタ ドコノ家デモ洗濯ノ音ガシテ居タ
今日ハメインプレーンニ枚ヲ仕上ゲタ 夕方宮口來 余ハ入浴ニ行ク 夕食後宮口ト共
ニ出ヅ 二日ブリニ帰宅
御母サンハ山田屋サンへ行ツテ留都(ママ) 帰宅サル、追起キル 十一時半就眠

▲▼276ページ▲▼ 大正3(1914)年9月16日(水)

天気 晴

六時半起床 日記ヲツケ朝食新聞 田辺氏へ時好(ママ)ノ通信 後チ加藤君宅ニ寄り
ホーノ木ヲ少シ貫ヒ麻布ニ行ク

麻布トマリ

▲▼277ページ▲▼ 大正3(1914)年9月17日(木)

天気晴

秋雨去ツタ 今日ノ空朝マダキノ肌ザハリ心持ヨキコトカギリナシ

主翼テール其他木材部殆ンド完成ス

夕食後氷川社ニ御神楽ヲ見ル

ミコシヲカツグ若者等ノ大ケンカアリタリ

五時頃夕立ス 市内ノ落雷ニケ所

今夜モ麻布トマリ

▲▼278ページ▲▼ 大正3(1914)年9月18日(金)

天気晴

エンジンヲ作ル 四時終ル 夕方瓜生氏來 エンジンマダ積出サザル由 夕食ヲ共ニス

九時河村宅ニ帰宅 御清ドンガ僕ノフランネルヲ縫フテ居テ呉レタ

▲▼279ページ▲▼ 大正3(1914)年9月19日(土)

天気晴

エンジン仕上ル

夕方織田氏來 エンジンノ話 飛行機ヲ持ッテカラ命ニ投ズレバ一個爆燐(ママ)ヲ投ズレ

バー一万円ヲ呉レルトカ話アリタリ

モーターヲ讀ム

▲▼280ページ▲▼ 大正3(1914)年9月20日(日)

天気晴

八時起床 メインプレインノソケットヲ作ル 夕銭湯ニ行ク 帰宅夕食 小説ヲ讀ム

▲▼281ページ▲▼ 大正3(1914)年9月21日(月)

天気晴

彼岸ノ入り 天気晴郎(ママ) 秋気ミナギル

フロートナラビニ機体ノソケットヲ作ル

夕食後鍋町へ帰宅 大坂ヨリハガキ來 ミネ姉女子ヲ上ゲタリト
書間T.M.ヨリ電話アリタリトノコトニ一寸行ク 加藤君ノ電話番號ヲ聞キタカッタトノ
コト

▲▼2822ページ▲▼ 大正3(1914)年9月22日(火)

天気 晴

六時半起床 切抜日記新聞後T.M.ニ模型ノエンジンヲニユーム色ニ塗りニ行ク 出來上ル
ヤ麻布ニ行キ製作ヲナス
夕方表ニ出デテ空ヲアオギ秋氣ニ接シテ清々シタリ

▲▼2833ページ▲▼ 大正3(1914)年9月23日(水)

天気 曇

午前六時半起床
アラビヤナイトト新聞ヲ讀ム 朝食後製作ヲ初ム
夜ネムクテタマラス中島小林二氏ガ來テ囲碁ノカタワラニ横ニナツタマヽ眠ル

▲▼2844ページ▲▼ 大正3(1914)年9月24日(木)

天気 雨

朝カラドシヨリシテ居タガツヒニ雨ニナツタ ソシテ急ニ寒サヲオボエタ 大抵ノ内デハ障
子ヲ入レ替ヘルヤラ裕ヲ引張り出スヤラシタラシイ
終日模型製作
御茶受ハ御中日ト云フノデイナリスシ
夜碁トアラビヤナイト

▲▼2855ページ▲▼ 大正3(1914)年9月25日(金)

天気 雨後曇

七時起床 新聞トナイト物語ヲ讀ミ八時過ギ朝食
今日暇 組立ヲ終ル
三時頃大門館ノ活動ヲ見テ鍋町ニ帰ルベク麻布ヲ出ヅ 大門館夜開場 直チニ帰宅
夕食入浴後行ク 金剛ヲ見テ帰ル 十時雑談御茶 十一時二十分前就床

▲▼2866ページ▲▼ 大正3(1914)年9月26日(土)

天気 晴

六時半起床 日記朝食後障子ノハメ替ヲナシ加藤君ニ行キ模型用機体ノカバーヲ造ルベキ木型ヲツクル 晝食ヲ御馳走ニナリ二時白戸ニ行ク
夕何シノ花カ先頃カラ見事ニ咲イテ居タノデスケツチブックニ納ム
發信 みね姉ノ安産ノ祝詞

▲▼287ページ▲▼ 大正3(1914)年9月27日(日)

天気 晴

主翼ノ組立ヲナス 少シモ思フヨウニナラズジレナガラモ仕上ゲテ夕方終ルヤ湯ニ行キ夕食後アラビヤナイトヲ讀ツ、早く眠ル

▲▼288ページ▲▼ 大正3(1914)年9月28日(月)

天気 晴

今日ハタンクト操縦機ヲ作ル
夕囲碁 七時半帰宅スベク出ズ 徒歩ニテ中ノ橋ヲ渡リ森元町ヲ横リ電車通りニ出デツイテ下リツ、ツヒニ道ヲアヤマリ三田ニ出ツ 驚イテ次ギハ間違ハヌ様電車ノ行先ヲタシカメ上野行線路ニソウテ九時前漸ク帰宅ス
御母サン僕ニ白戸君ニイ、ヨーニサレナイ様ニナサイ分カリマシタカト云ワレタガナンダカ分カツタ様デ分カラナイ 兎ニ角白戸ノ宅ヘ引越スコトハ止シニシヨウ
來信 喜代市兄ヨリ淡路ヨリ帰坂ノ趣キ

▲▼289ページ▲▼ 大正3(1914)年9月29日(火)

天気 雨

六時半起床 日記新聞朝食後麻布ニ行
晝機ヲ作ル
夜早くヨリ眠ル

▲▼290ページ▲▼ 大正3(1914)年9月30日(水)

天気 雨

今日モ又雨
終日機ヲ作ル
夜小説ヲ床ノ中ニテ讀ム 白戸君花ヲ進ム 止ムヲ得ズナス

十二時就眠

▲▼293ページ▲▼ 大正3(1914)年10月1日(木)

天気曇

十時起床 新聞朝食

朝少シ降ツタガ後チ晴レタ

飛行機ハ余ス處エレロンノ推 ■線ト前ノカバーガ半分トニナツタ

夕方二三町附近ヲ散歩ス

夕食ハ日本製洋食(デ一二杯カタムケ)囲碁ヲナシ八時出テ(ママ)鍋町ニ帰宅

切抜ヲ見ル タゞ青島ノ飛行ノミデフクロモ一張サケンバカリ

十時半頃御母サン松村サンヨリ帰宅サル

初子君今日來宅ノウワサ 頗ル迷惑気ナリキ

來信 伊丹要ノ助氏

白戸今日カクメイノエンジンニツキ成田ニ行キシモツヒニ唯目ニ決ス

頗ル不満ノ体ナリキ

▲▼294ページ▲▼ 大正3(1914)年10月2日(金)

天気晴

朝食後麻布ニ行ク途中科學世界ト材料少々ヲ求ム

夕方銭湯ニ行ク 漸ク今日ヨリ晴レテ夜色コトニヨカリシ

▲▼295ページ▲▼ 大正3(1914)年10月3日(土)

天気晴

八時起床 終日製作

白戸午前外出 千覽氏ヲ訪問セシ處大連ニテ飛行機ニ出資シタキ人アル由 明朝手紙

ヲ持ツテ來宅スルトノコト

夜待宵ノ月サエ渡リエモ云ワレズ

▲▼296ページ▲▼ 大正3(1914)年10月4日(日)

天気晴

午前シートヤメートルヲツケ全部完成ス 加藤君來 晝食後共ニ徒歩ニテ墓地ヲ抜ケ

奈良原氏ヲ訪フ 在宅ナリシモ坐敷ニ上レト云ワズ立話ニテ帰ル

夜十五夜 ヤ、曇リナリシモ後チ雲切レタ々ニナリテ一シオ風情ヲ益ス

◆▼297ページ◆▲▼ 大正3(1914)年10月5日(月)

天気 晴

新聞朝食後都築氏へ■飛行ヲ戻スベク行ク 在宅 少時談話 其中ニ過日余ト星野氏
関係ノ尽力ヲ謝シ尚此後チノ引立ヲ乞フ

単葉模型ノ製作ヲ依頼サル 帰りハ徒歩 加藤君宅ニヨル 梅田ノ飛行機ヲ見ニ行カウ
トノ進メニ約シテ帰宅 晝食後河村氏モ共ニ行ク 之レヨリ先寒川町ノ福島氏ヨリ海
軍ヨリ飛行機用布トホツシユマグネトノ注文ニツイテ余ニ尋ネラル、處アリ 知ルダケヲ
オシユ

一時半出發 穴守ニ参拜 舟ニテ格納庫ニ行ク途中向フヨリ同ジク舟ニテ帰りタル一行
ニ出會フ ヨツテ其儘セールシテ大森ニ出デ、帰ル 其間スケッチ一枚

夜TMニ行ク 加藤君ヨリ電話アリ 梅田ガエンジンヲ見テ呉レトノコト 見ルカト聞合
セアリ 研究ナレバ拝見ダケハスベシト返答シ後チ日比谷ヲ月下散歩シテ帰ル

◆▼298ページ◆▲▼ 大正3(1914)年10月6日(火)

天気 晴

麻布へ手紙ヲ取りニ行ク 昨日千覧氏來リ大連へ出張シ來ル様手紙出シタリト

十一時頃都築氏來 雑談晝食後同氏ト共ニ同氏宅ニ行キ同氏單葉ノ製圖ト模型ヲ依
頼サレ三時頃迄相談 帰途加藤君ニヨリ圖板ヲ注文ス

梅田今日同宅ニ來リ一兩日中ニ發動機ヲ見テ呉レトノコト

何ントナク心勇マシ…

夜御母サン留都(ママ) 花ヲナス 初メテ十五錢モークル 後チ伊東屋へ製圖用紙ヲ買
ヒニ行ク

◆▼299ページ◆▲▼ 大正3(1914)年10月7日(水)

天気 晴

新聞朝食後加藤へ圖板ヲ借りニ行ク 親父羽田へ行キタリト 十時帰宅 白戸君來
晝食後帰ル 後チ製圖ヲ初ム 夕食後終ル

後チ散歩ニ出デ、顔ヲ當リ久シ振りニ一品屋ニ這入ッテ杯ヲ上ゲTMニ行キ酔ヲサマシ
テ九時帰宅 其儘就床

◆▼300ページ◆▲▼ 大正3(1914)年10月8日(木)

天気晴

日記新聞朝食後製圖 午後三時少ケイ
五時頃都築氏來 金デハ出來ナイカラ木デツクツテ呉レトノコト 後チパウリスタニ同
道 帰宅後夕食
御母サン晝食後松村サンノ娘サント歌舞伎へ行カル 例ニヨツテ花 七時頃加藤君モ來
共ニヤル 金二十二錢負 河村サン三十一錢マケ
十一時過ギ御母サン帰ヘラル 就床

▲▼301ページ▲▼ 大正3(1914)年10月9日(金)

天気晴

六時起床 入浴新聞日記朝食
製圖
四時終ツテ日比谷ヨリ新橋方面ヲ散歩ス
帰宅 夕食
御母サン巢鴨行き 今夜帰ラズ
花 五錢負ケ

▲▼302ページ▲▼ 大正3(1914)年10月10日(土)

天気晴

日記新聞朝食
製圖 午後五時迄
夕食
夜七時半ヨリ九時迄TMニテ遊ブ
帰宅雑談 オ清トシガ少シノコトヲ大キク云フクセガアルノデ大笑ヒ 處ガ中々笑カケ
タラ又トマラナイクセモアルノデ外ノモノ迄ガオカシカッタ
十一時就床

▲▼303ページ▲▼ 大正3(1914)年10月11日(日)

天気晴

夜中ノ雨ハ晴レテ好日曜天気デア
朝入浴日記姉ヘ手紙 朝食製圖
九時頃加藤君ト豊サン來 豊サンスグ帰ル 後チ花 連戦連敗 約四十錢敗ケル 余
ノ囊中三十一錢ヨリナシ 三十錢ヲ投出ス 御母サンモソバニ居テ余ヲ取ラズ漸ク十錢

取ル 余ナントナク涙グマレタ
四時ヨリ又製圖 夕食後八時頃夜業ヲナス 河村氏歐州戦争競技ナルモノヲ買フ 即チ二人シテヤル 約二時間戦ノ結果ツヒニ我軍ノ大勝利二期ス 我レハ獨オー軍ナリ 十一時就床

▲▼304ページ▲▼ 大正3(1914)年10月12日(月)

天気晴

新聞朝食製圖 四時迄

夕食後麻布ニ行キ金一円借用 武石夫妻來 模型ノ説明ヲナス 中島氏ニ立寄り帰途散髪ヲナシ寒サシノギニ一杯ヤリ電車ニテ帰ル
本門寺ノ御會式ニテイタル處ドンドロ、ニギヤカナリキ

▲▼305ページ▲▼ 大正3(1914)年10月13日(火)

天気晴

四時朝食新聞製圖

午前白戸君 來晝食後帰ル
午後河村氏ノス、メニヨリ帝国館ヲ見ル 頗ルヨシ
六時帰宅 夕食後九時迄夜業

▲▼306ページ▲▼ 大正3(1914)年10月14日(水)

天気晴

朝湯新聞朝食製圖 加藤君晝前帰り午後又來ル

松本氏來 四時頃帰ル 三時頃製圖ヲ止ム
星野岐阜ニ行キタル由 一米突五ノプロペラ破壊シタル由 一米突六ノモノヲ送リタリト サレバ静岡ニテハヅカ一回ノミニテ機ヲ破壊セシメタルナラン。プロペラハ他ノピッチ多キモノヨリ一米突五ノモノヨリ多ク引キタリト 余ノ言的中ス

▲▼307ページ▲▼ 大正3(1914)年10月15日(木)

天気晴

日記朝食新聞製圖

製圖中御母サント河村氏ト替ル、見ニ來ラル ハゲマサル、コト甚大ナリ
夜機関ノ本ヲ見ツ、アル處へ白戸君ヨリ電話アリ 都築氏岐阜へ行クニ付廻轉計ヲ借り

タシトノコト 出發六時ノ列車ナリト 時正二八時十五分前 早速加藤ニ昨日貸シタルバカリナレバ芝へ取りニ行キ新橋へ持参ス 八時三十分ナリ 然ルニ九時ノ列車時間變更サレテ八時卅五分發トナリ正ニ發車ニ間ナキ時ナリシカバ早速入場券ヲ求メテ這入ルニ第二番目ノ車窓ヨリ都築氏ノ顔見エタレバ手渡シ發車ヲ見送りテ帰宅ス

◆▼308ページ◆▼ 大正3(1914)年10月16日(金)

天気晴

六時半起床 日記新聞朝食製圖 夕方迄

夕食後八時頃加藤ト戸延來 雑談ノ中戸延日加藤ノ方暇ニ付ナニカ他へ行カウト思フト 余今スコシ資力アラバ飛行機製作所ヲ初ムベキニ 然シテ今日日比谷ヲ散歩中考へタリシ東京全市ノ中小學生徒ヨリ小學五錢中學十錢ツ、寄附セシメ之レニテ自己考案ノ飛行機一台ヲ製作シテ陸軍ニ納或ハ飛行協會ニ寄贈シテ以ツテ自己ノ飛行界ニ於ケル信用ト位置ヲ作ルベキ、ト思へリ
十時前帰ル 十一時就床

◆▼309ページ◆▼ 大正3(1914)年10月17日(土)

天気晴

日記朝食新聞後少時製圖 一先ヅ一團落ツク

後チ機關學少時

久シ振リニテ河村氏ト囲碁 余四目オイテヤル 余ニ勝目充分ナレドモ初メニ勝ツ時ハツヒニ又アトヲヤルト云ワナクナルコト戦争競技ノ如クナレバ先ヅニ回共負ク 夜ハタセルカナ、ヤロー、ハト云ヒ出シタレバ今度ハトツヒニ三番共立ナゲニナシ最後ノ四番目ニテ一度負ケテ居ク

◆▼310ページ◆▼ 大正3(1914)年10月18日(日)

天気曇リ後雨

朝ノ仕事ヲ終ツテ依(ママ)服ヲシラベタガ着レルモノハハヅカニ二枚 ソレモ大分ヨゴレテ居ル ドコカーケ所出來テ呉レナクテハ実ニヤリキレナイ

九時 ウス日ガサシタノデ徒歩加藤君ニ行ツタガタレモ居ナイ 戸延君ニ行ツタガ同ジク居ナイ。麻布ニ行ク 千覽氏ノ方返ナシ 飯田ハ村山三二日中ニ帰京ノ由
夜七時頃帰途ニツク 雨シト、ハト降ル

◆▼311ページ◆▼ 大正3(1914)年10月19日(月)

天気 晴

イツモノ如ク朝食後ハ飛行機着陸装置ヲ工夫ス

九時頃ヨリ空晴レタレバ麻布ニ行キ飛行機ヲ持ち帰ル 午後御母サン寺マイリノアト河村氏ト囲碁 三回勝テ一回負ク

夕方TMニ行キ模型ノカバーヲ塗ル 帰宅 白戸夫妻來 大演習ニツキ召集セラレ明後日所沢へ入営ノコトナリト 尚信州飯田ノ方ハ大演習後飛行ノコトナリタリト 契約千二百円 運賃滞在費向フ持チ

夕食後河村氏白戸夫妻ガベタツイタノニ大ニ氣ヲ悪クシ活動ニ行クベクサソワル 電氣館ニ行ク 歐州大戦 最モ少シ有利ナレバステ心オゴルコト人間ノ弱點ナリ

▲▼312ページ▲▼ 大正3(1914)年10月20日(火)

天気 雨後曇

午前中切抜張り 加藤來 晝食過ギテ帰ル

二時頃白戸來 後チ共ニ麻布ニ行ク 湯ニ入り

夕方宮口來 附近ノ人モ來 酒宴ヲ催ス

麻布泊リ

▲▼313ページ▲▼ 大正3(1914)年10月21日(水)

天気 晴後曇

五時起床 其内ニ近所ノ人々モ來リ 朝食後六時十五分出發ス 時間セマリタレバ信濃町ヨリ山手線ニテ新宿ヨリ汽車 六時五十分發 八時十分所沢着

松葉館ニ知覽氏ヲ訪フ 來ラズト 徳川大尉留都(ママ)宅ニ行キ九時迄遊ブ 十時入隊 余等場内ヲ巡覽ス

十一時半スベテヲ終リ帰途ニツク

飛行協会ノ格納庫ヲ訪フ ロバート此處ニアリテ試験ヲタノマレタリトノコト 百八十キ只楽クナリト

美好軒ニテ晝食 大和君ト三上綱吉氏トヲ訪フ 久シ振リニ話ニ花ヲサカス時空漸クアヤシクナリテ帰途ニツク

二時四十四分所沢發

夕方帰宅 然ルニ河村氏ヨリ白戸人員過剩ノ爲メ余(ママ)隊ニナツタレバ明朝向ヒニキテ呉レトノ所沢ヨリ電話アリタリト 其由村上トTMニシラセ鍋町ニ帰宅 十時十五分就床

▲▼314ページ▲▼ 大正3(1914)年10月22日(木)

天気 晴

五時起床 日記ヲ書キ六時十五分前宅ヲ出ズ 麻布ニテ朝食 七時發 時アダカモ下志津ヨリ帰ルモ式ニ機頭ヲ青山方面ニ去ル
九時半所沢着 松葉館ニ白戸ヲ訪フ 余ハサカナル練習飛行ヲ見ルベク飛行場ニ行ク時丁度終リタル處 例ノ茶店ニヨル オバーサン今日ハ宅ニアリイロ、ムカシ話シヲナス 余御土産ノカワリトテ五十銭オク シキリニジタイシタルモ與ヘテ帰ル 晝食後隊ヘ軍服ヲカヘシニ行キ二時四十四分發ニテ帰京 夕食後帰宅

▲▼315ページ▲▼ 大正3(1914)年10月23日(金)

天気 雨後晴

午前中雨 在宅 一時頃白戸來 間モナク帰ル 余本所太平町ノ矢吹氏ヲ訪フ 久シ振リニ話ツキズ四時過ギスシノ馳走ニナリテジシ浅草ニ行キ帝國館ノ活動ヲ見六時半 帰途新橋迫行キ太田屋ニテ夕食ヲナス コ、モ一年振リトテ女中コト、カワリタル中ニ 余ノ番ニアタリタルモノ一人古キモノニテ昨年アタリ居タル女中ノ消息ヲ聞キ八時半 帰宅ス
宅ノ兄ヨリ手紙來 ツル殿女子安産 姉ジンゾー病トノシラセ 後子見舞状ヲ出ス

▲▼316ページ▲▼ 大正3(1914)年10月24日(土)

天気 晴

朝食日記新聞 八時頃TMニ仕事ニ行ク
白戸午後稲毛へ出張ス
五時頃帰宅
御母サンハ高折氏ノ渡米ヲ見送ルベク横濱ニ行キ夜帰宅セラル

▲▼317ページ▲▼ 大正3(1914)年10月25日(日)

天気 曇リ

七時起床 TMニ行ク 白戸ヨリ電話 三時頃稲毛ヨリ馬車來ルトノコト 大急ギニテ、 プレインノ組立ヲナス 十時半頃荷馬車來 五時頃全部發送ヲ終ル 夕食ハTMニテ喰ヒ帰宅ス
都築氏不在中ニ來 岐阜土産見事ナ柿ヲ貰フ。今夜カ明朝來テ呉レトノ趣キナリシカバ端書ヲ出シテ七時十五分前宅ヲ出ズ
兩國停車場ニテ三十分間待ツ間階上ニテビールヲノム ウマシ
車中今朝來サシモノ頭痛モ漸クイエタリ

昨夜ノ夢甚ダ悪ルカリシ

▲▼318ページ▲▼ 大正3(1914)年10月26日(月)

天気晴

午前六時半起床 海岸ト山ノ景イツモナガラヨシ
馬車予定ヨリオソク十時頃豊サンノ來ルト同時ニツク
組立ニ着手ス 一汽車遅レテ鳥飼氏來
晝前白戸來
夕方八方通り組立終ル
夜川上氏宅ニテ白戸ノ碁ヲ見ル
十時頃上總屋ノ迎ヘヲ受ケテ帰宅 就床

▲▼319ページ▲▼ 大正3(1914)年10月27日(火)

天気晴

午前七時半起床 終日急ガズ充分ナル組立ヲナス 晝前鳥飼、宗里二氏來
夜宗里氏ニ今ノ飛行機ノ数際(ママ)ヲ聞ク
後チ川上氏宅ニテ又碁ヲ見帰宅
後大口君ノ妻君ト宗里氏ト談話
十時就眠
今夜砲兵多クトマル

▲▼320ページ▲▼ 大正3(1914)年10月28日(水)

天気晴

六時起床 タゞチニ仕事ヲ始ム
八時頃引出ス 急雨アリ シバラクシテ止ム
試飛行ヲ行フ 飛揚充分ナラズ 安定ヨシ 牽引力不足ヨリモ翼布ノ風ノモルノガ最大
原因ナラン
後チ「エレロン」ヲ「ゴシツマン」トス
夕食後豊サンニ日記ヲ讀聞カス
白戸來 オ―テ川上氏宅ニテ碁ヲ見
十時前帰宿 昔話シナドシ十一時前就床
今日村山來 午後帰ル 白戸妻君來 泊ル

▲▼321ページ▲▼ 大正3(1914)年10月29日(木)

天気 風曇

三時前ヨリ風ノ音デ眠レズ 五時頃格納庫ニ簾ヲ張ル
九時頃鳥飼來 翼ニゴムヲ塗ル
午後飛行機ニ多少手入ヲナス
夕食後海気館ニ宗里君ヲ訪ヒ設計法ニツキ知ラザル處ヲ聞ク
帰宅後大口君ノ坐敷ニテ十時過ギ追遊ビテ床ニ入ル

▲▼322ページ▲▼ 大正3(1914)年10月30日(金)

天気 雨

朝來ノ雨シヨウハントシテ終日止マズ
晝ニ上ル 一羽ヲシメサセテ宗里君ヲ呼ニ杯ヲカタムク。丁度静遊館へ何女學校カノ
生徒來遊行シ來リタルモ雨ニナヤマ様子ニ宗里君彼レ等ニ飛行機ヲ見セテ説明セシモ
ノト手紙ヲ持タセヤリタルモ帰校ノ時間セマレリトテツヒニ來ラズ 宗里君ノ失望大ナ
リ
夜店ノイロリニヤグラヲ居キ娘等ト共ニフトンノ中ニ足ヲ入レテ雑談ヤ白髪ヲヌイテモ
ローコレナルカナ田舎ノ青年男女ガ落ち行ク淵ハ

▲▼323ページ▲▼ 大正3(1914)年10月31日(土)

天気 雨

八時過ギ起床 雨尚ホヤマズ 晝前宗里君ト豊サン東京ニ帰ル 余一人スケッチブック
ヲタツサエテ草ヤ浅間様ノ獅子ヲ写生ス 雨小止ミシタ社頭ノ眺メテ一寸ヨカッタ。ソ
コ御吉ガ何ンノ爲メカヤツテ來タ。スケッチヲ見タリ奉納札ヲ見テ帰ツタ
夜早ク床ニ入ツタ 九時半頃豊サン帰ツテ來タ 星野君今朝浜松デ發動機トマツテマッ
サカサマニ墜落 重傷ヲ負テ濱松衛戍病院ニ入院シタトノコト 僕ガ行ツテ居ナクテ実
ニヨカッタト思ツタ
都築氏ハ大分ソングイヲシタカモシレナイ

▲▼326ページ▲▼ 大正3(1914)年11月1日(日)

天気 雨

八時起床 今日モ雨 三時頃ヨリ晴ル
夕方裏ノ山ニ登リ松ヲ通シテ海ヲスケッチス

夜早く眠ル

發信 大口川辺諸君 河村氏ト星野氏見舞

◆▼327ページ▲▼ 大正3(1914)年11月2日(月)

天気晴

午前六時起床 朝食後タゞチニ飛行機ノ手入 其内白戸、鳥飼、宗里君來 飛行ヲ初ム 最初一番ピッチ大ナル分、一、六五、ノ時ハ一二尺ジャンプスルノミ。ツギニピッチ小ナルモノ、九〇〇ノ時ハ飛揚セシモ進行中シズムカタムキアリ 最後二一、四〇〇ニテヤリシニ少々ノ追風(約四米)位ニテモ飛揚スルコトヲ得タリ。明日加藤ノ一、四五〇ノプロヘラニテ試験ノ上分解荷造リト決定
夜白戸ノ處ニテ十時過ギ遊遊
十一時就眠

◆▼328ページ▲▼ 大正3(1914)年11月3日(火)

天気晴

終日無風

朝早くヨリ飛行準備ヲト、ノエ、鳥飼ノ來ルヲ待ツ 十二時過ギテ汐上ゲ來ルモ來ラズ ツヒニ格納庫ニ納メ一時頃晝食ニ向ワントスル處へ來リプロヘラニ穴ヲ明ケ、タメス ソー トーニカアル様ナレバ其マ、ニシテ晝食ヲ三時食ス。後チ方向舵ノ操縦線ヲ直シタ方終ル
夜店ニテ雑談後大口君ノ坐敷ニテ遊ビ九時過ギ坐敷ニ歸ル 吉坊後ヨリカキヲ持來リムク 余少シ食ス。手紙ヲ居イテ行ク。コイツ困ツタ奴ト寝ナガラ開キ見其マ、丸メテ居ク
写真ヲヤブカナイ様ニシテ呉レダトカ何ントカ、ウルサイコトガ書イテアッタ

◆▼329ページ▲▼ 大正3(1914)年11月4日(水)

天気晴

鳥飼早く來 白戸アトヨリ來リ加藤ヨリ新ラタニ求メタルプロヘラニテ試験ス 飛行充分ナラズ又チークニテ試ミル 風少々出ズ 南ニ向ツテ滑走 上ガラズ吹き流サレ車輪横ニナリテアヤウク見エタレバ走り行ク 無事ナリシモ風益々和リタレバ中止ス
午後停車場前丸通ヨリビール五本ヲ貰フ 白戸トノム

◆▼330ページ▲▼ 大正3(1914)年11月5日(木)

天気 曇リ

強風ツヒニヤマズ 加藤ノプロペラヲヤ、少(ママ)イサクシテ、マワス 調子好サソナリ
今日ハプレーンノ角度ヲ少シ下ゲ同時ニユガミヲ直シ置ユヲ整理ス
午後風マス、強シ

二時頃札幌ノ沢田氏來 何事ナラント海気館ニテ白戸ト共ニ話ヲ聞ク 都築ニエンジン
ヲ賣ツタトハイツワリニテ丁度昨年ノ奈良原トノ關係ノ如クニテ吾等ヨリ都築ニ支拂ヒ
タルエンジン料並ニ機体ノ代金五百五十円ヲ一文モ石黒ノ手ニ入ラザルノミナラズ今度
星野ガエンジンヲ少々コワシタトノコトデ驚イテヤツテ來テ吾等ニ相談ニ來タノダトノコ
ト。サリトハ馬鹿ナ見(ママ)ニアツタモノダ
然此方モ少々風ムキガヨクナツテ來タ

▲▼331ページ▲▼ 大正3(1914)年11月6日(金)

天気 晴

鶏鳴アカツキヲツグル頃ヨリ漸ク風ナギタレドモ暗雲去來ス。サレドモ得兼ネタルコトナ
レバ潮ガ引クヤ否ヤ試験ニカ、ル。プロペラ、イクラ廻シテモ廻ラズ困難スルコト約一時間
ツヒニ白戸廻シテ走りダス 車輪砂ニクイ込ミテ滑ノロクツヒニ上ガラズ 帰り來ルヲ見
レバ車輪ノテーコー大ナリシ爲メ前部ノボールト二本共見事ニオレテ櫂又役ヲナサ、ル
ニ至ル

格納庫ニ納メト二角分解ニ決定ス

▲▼332ページ▲▼ 大正3(1914)年11月7日(土)

天気 晴

時事 青島カンラク

荷造ヲ終リ停車場ニ運搬スル處へ手紙來テ貨車積中止セヨトノコト 兎ニ角豊サンヲ東
京ニ帰ヘス 五時頃スベテノコトヲ終リ夕景色ノウルワシキマ、小舟ヲアヤツリ上陸スルヤ
電報來 両国駅迄送レトノコト 早速駅ニ行キ貨車ニ積込ム内白戸來 諸々ノ勘定ヲ
ナシタ食ヲスマシテ七時三十九分ニテ帰京 青島陥落シテ市中御鳥(ママ)様ト両方デ
頗ルニギワシ

TMニ寄り帰家 十一時迄雑談 就床

▲▼333ページ▲▼ 大正3(1914)年11月8日(日)

天気 晴

六時起床 入浴日記新聞朝食

七時半ヨリ兩國へ飛行機ヲ取りニ行ク 九時帰ル
TMニ行ク 荷造ヲ初ム 飛行機來ル
午後エンジンヲ山科へ取りニ行ク 都築氏來
三時過ギ馬車ニテ飯田町へ出荷ス 余一人行ク。貨車ナク積込ミ出來ス 五時頃帰宅
TMニテ夕食

◆▼334ページ◆▼ 大正3(1914)年11月9日(月)

天気 雨

六時半起床 スベテノ準備ヲトノエ荷物ヲ積込ムヘキ運送屋ノ通知ヲ待ツ 晝頃白戸
君來 金十円借りルコトヲタノム 千覽氏ノ大連ヨリ返事アリ 最(ママ)非ヤルトノ諺
オリコト
一時頃積込ムトノコトニ行ク ゴタ、シテ漸ク三時過ギ積込ム 普通ニテ八間ニ合ワズ
止ムヲ得ズ客車便ニス TMニテ夕食 帰宅後買物 十時宅ヲ出デ十一時飯田町發
車内頗ル樂ナリ

◆▼335ページ◆▼ 大正3(1914)年11月10日(火)

天気 晴

五時半甲府着 以前ヲ思ヒ起シツ、洗面 辨当ヲ買込ム 之レヨリ夜ハ次第ニ明ケルト
同時ニ雲ハ四散シテ青空ヲ現ワシタ
九時二十分辰野着 上諏訪ニテ後ニ連結シアリタル貨車ヲ切ラレタレバタ、チニ電話ニ
テ問合サシム。ソシテ自動車ノ時間ニ合ワザレバ豊ヲシテ先發セシメ今夜ハ辰野泊
リトス
十一時貨車來リ二時頃飯田へ出發サセル
夜一杯ヲカタムケ、アンマヲ取りテ就眠ス

◆▼336ページ◆▼ 大正3(1914)年11月11日(水)

天気 晴

今朝霜深足端ヒヤ、カナリ 食前旅館楼上ヨリスケッチヲ一枚 切抜整理 九時二十
分鳥飼氏來 十時五十五分發電車ニテ共ニ出發 伊那ニテ晝食 一時過ギ自動車ニテ
伊那ヲ發ス 之レヨリ飯田迄十一里 電車ハ三里先キノあか羽迄行ク由 自動車ニユラ
ル、コト三時間 無事飯田ニツク 否 アマリ無事デモアラザリシ。ホトンド腹ノ中ハクツ
ガヘリタルカト思ワレタリキ

旅館ニ着 少時村山君來 共ニ展覽會場ニ行ク 觀覽ハ午前九時ヨリ午後十時迄 之レ

ニ少ナカラズ驚カサレタ

夜カラーヲ買フベク町中ヲサガシタガ氣ニ入ッタノガナク東京ヘハガキデ白戸君ニ持參
ヲ依頼シタ

夜ハ寒氣ツヨシ

▲▼337ページ▲▼ 大正3(1914)年11月12日(木)

天気晴

午前八時朝食 飛行場ヲ見ニ行ク。モヤ深ク四辺ノ山見エズ。車ニユラレテ行クコト約一
里 天龍ノ仙境即チ天龍川上流天龍峽ノ名所ニ出ズ 其中州ヲ飛行場ト定ム 場所
頗ルヨシ

歸リテ組立ヲ初ム 丁度正午食後ナリ

夕方帰宅 エレベーター方向舵ヲ張替ヘ十二時就眠 仕事ハ鳥飼氏一人ナス 余ハ町ニ
出デテナポレオン史話ヲ求メ歸ル

發信 上總屋、TM、河村諸氏

▲▼338ページ▲▼ 大正3(1914)年11月13日(金)

天気晴

地震自動車(一昨日余等ノ乘リ來タリタルモノ 往來ヲ通ルト、ホトンド地震ニコトナ
ラズ此名ヲ附ス)ニ目ヲサマサレタ、チニ起床 朝食組立ニ従事 午後九時半迄夜業
帰宿入浴 一杯ノンデ昨日ト今日ノ日記ヲ書ク

發信

▲▼339ページ▲▼ 大正3(1914)年11月14日(土)

天気晴

午前五時起床 朝食 イマダ、クラケレバ夜ノ明ケルヲ待ツ 明ケ方ノ星キラハ、トウツ
クシ。其内ニ朝カスミカナタノ家ノ影ニ立ノボルト見ル間ニ広ガリテ家ヲカクシ森ヲ包ミ
光ヲメツシツヒニ空ヲオーヒ玄月淡クナリヌ

九時ノ開会迄ニ、アラマシ終リアトハ、ボチハトナス

終日ノ入場者約二千余 内學生ハ中學一小學一ベテ千名程ノ由 夕食ハ帰宅 再ビ
行キシモオリ悪シク火事アリ 一年一度位ノ出來事トテ見ニ來ル人少ナク七時頃閉場
ス 帰途八時頃村山氏ノ響應ニテ仙ナントカ楼ニテ酒肴ヲ馳走ニナル ゲー者一名來
イヅレモ名古屋語ナリ

今日ハジメテ、ハチノ子ヲ喰フ 初メハ心悪ルカリシモ後チハ、ウマクナリヌ
大坂へオーバートインバヲ請求ス

▲▼340ページ▲▼ 大正3(1914)年11月15日(日)

天気 雨

昨夜ヨリポツリ、降リ出シタル雨ハ今朝ヨリ益々シゲクナリツヒニ延期ノヤムナキニ
イタレリ

朝食後展覽會場ニ行ク 雨モリシテ翼甚ダシクヌレ居タリ。サレド必要ナル部分ハ昨夜
ノ内ニ用意シタレバ、サシツカヘナカリキ

午後雨止ム 夕方前公園へ散歩ス 山ノ中腹ニ郊戸神社アリ 町ヲ見下シテ中々景ヨシ
帰宅後入浴夕食 之レヲ記ス

後チ前ノ寄席ニ落語ヲ聞キニ行ク

▲▼341ページ▲▼ 大正3(1914)年11月16日(月)

天気 晴

起床朝食 タゞチニ會場ニ行ク 第一番ニ高等女學校トカ云フノガヤツテ來タ ソレカ
ラ今日ハ夜九時迄續々ト引切りナシニ來タカラ少ナクトモ五千ノ人ハ這入ツタデアロー

福引ハ土地ノ人へ金剛ガ当ツタ 僕等モ切符ヲ買ツタガ銀剛モアタラナイ

夜帰宿入浴 床ニ入り足ガクタビレタノデアンマヲタノム

▲▼342ページ▲▼ 大正3(1914)年11月17日(火)

天気 晴

七時過ぎ起床 會場ニ行ク。マガリシ柱ヲ取替ヘワイヤーヲ張替ヘル 今日ノ入場者小
學生ハ朝カラ夕方迄引キリナシ 夜ハ土地ノ婦人連多カリキ コトニ晝間女郎ノ多カリ
シニハ驚キタリ

福引券ヲ買ヒシモアタラス

▲▼343ページ▲▼ 大正3(1914)年11月18日(水)

天気 曇少雨

降ツタリ止ンダリ終日ス 入場者少ナシ

今夕方ヨリイヨ、声ヲカラス。マルデヤシノ如シ

九時帰宿 入浴 夕食 囲碁 アンマ 就眠
伊那ノ飛行会決定ス

▲▼344ページ▲▼ 大正3(1914)年11月19日(木)

天気 曇り

アン雲出来シテ気ヲモマスコトシキリナリ
今日藝者ノ入場者多ク藝者アート稱ス
今日最後ノ富籤アリ 余ノ切符銀時計ヲ取ル
シカルニ之レヨリ先キ丸通ノ番頭余ノ切符ヲ持ニゲ 最(ママ)非呉レロト云ヒシナリニナ
リ居リタレバ問題トナリシモ結局豊サンニ與ヘルコトトスル
夜九時展覽會ヲ終ルヤ分解 荷造ヲシテ飛行場へ運搬ス 十二時帰宿 ソバヲ喰ツテ寝
ル

▲▼345ページ▲▼ 大正3(1914)年11月20日(金)

天気 曇り

五時半起床 六時車ニテ飛行場ニ行ク 組立二時頃出来上ル 三時頃試飛行ヲナス
速力キワメテ早く成績ヨシ 二回目西南ニ向ツテ飛揚 ベンテン島ノ手前ヲ一週シテ帰
着ス
夕方帰宿 夕食後囲碁 處へ村山君ヨリ電話ニテ招待アリ 行キテ馳走ニナル 藝者二
名 飯田名物ノ土地歌ヲ聞ク 一寸面白キ節アリ
帰宿十一時 就床

▲▼346ページ▲▼ 大正3(1914)年11月21日(土)

天気 晴

朝來強風 試飛行中止
格納庫ハ天幕ヲ卷キ機械ハ綱ニテ充分ニシバリ帰ル 帰途丁度晝ニナリタレバ飯田橋キベ
ノ風八ニ入ツテ晝食ヲナス 元柳糸館ニ居タト云フ堪トカ云ウ女ヲ見ル。マツシ

▲▼347ページ▲▼ 大正3(1914)年11月22日(日)

天気 晴

五時起床 風尚ツヨシ。サレドモ車ニテ行ク
寒風足ノ先ヲ氷ラス。アカツキヨリ風ヤ、ナギタレドモ四五米アリ 場所ダケニ氣流悪

シ。入場者数万ニ及ビ十一時頃ヤムヲ得ズ川上三向ツテ滑走ス。スパーク充分ナラズ引
モドシテ修理ス。其際後部櫓取付ヲ人足ガコワス。二回目。余プロペラヲ持ツ。ナントナ
クドーキス。ハタセルカナ飛行数米ニシテ機ノ左右動ハゲシク無事着陸ト見ル間二川ノ中
ニ滑リコムヤ、オイ風ニエンリヨナクフキマクリテ機ハモンドリ打ツテ水中ニヒツクリカヘル。
カ、ルコト初メテナリ

引上ゲルニ損傷頗ル少ナク、夕方ホヰナオル。プロペラ一寸バカリノ巾カケタレバ切り取
ル。曲線頗ルヨク以前ヨリ成績ヨク
夜六時頃帰宿。夕食。アンマ。眠ル

◆▼348ページ◆▼ 大正3(1914)年11月23日(月)

天気晴

九時起床。モヤ深く無風状態ナリ
十時行キテ修理ヲナス。夕方出来上リ試飛行
川上ニ向ツテ滑走。一気ニ飛揚。川上ニテ小田ヲ晝キ帰着。小數ナレドモ歡衆熱狂シテ
滑稽ヲキワム
車ナク徒歩ニテ帰ル。電話アリ。山口氏ノ御馳走トノコトニ仙萬樓ニ行ク。例ニヨツテ藝
者マツシ。十時頃帰ル。就床

◆▼349ページ◆▼ 大正3(1914)年11月24日(火)

天気雨

朝曇リ。朝食頃ヨリ雨トナル。余ト豊サント場ニ行キテ、ワイヤーヲ取替ヘル。小學生
團体遠方ヨリ二組來ル。説明シテ發動機ヲ廻シ見セテ返ス。先生等大嬉ビナリキ
二時頃帰宿。村山氏ノ外ニオバーサン藝者二名アリ。盛ニ花ヲ引ツ、アリ。余ト白戸ト
前島君ト又別ニ花ヲ引ク。夜ニ及ビテ余ハ先キニ眠ル
都築、沢田ヨリエンジンノ請求シキリニ來ル

◆▼350ページ◆▼ 大正3(1914)年11月25日(水)

天気晴

霧深く寒気強ク好天気ナリキ
十一時頃漸ク霧晴レ第一回飛行。川上ニ飛揚。大田ヲ晝キテ二週(ママ)目ニ着陸。正
斗行足強ク「ウシ」ニ衝突セントセシカバ余左ノ下翼ニ飛ビ付キ無事成ルヲ得タリ
二時頃ヨリ風強クナリ四時頃直線飛行ヲナシ記念写真ヲ取り飛行ヲ終ル
五時帰宿。入浴、夕食、花。伊那中止ノカワリニ諏訪飛行ノコトヲ交渉シ來ル

十時過ぎ就床 タゞチニ就眠

◆▼351ページ◆▼ 大正3(1914)年11月26日(木)

天気 晴

終日飛行天気

十一時一時三時三回飛揚 二回目八場外八幡村方面ヲ三週(ママ) 大成功
余一人ニテ写真ヲ取ル外記念写真沢山出來ル
三時ヨリ荷造ヲ開始 五時半八幡迄出荷
其アト天竜河原ニテ明月ノ下土地ノ親方ノ好意ニテ鯉ノ生作りニビールヲヌク 初メ
一杯ハ甘露々々 一イキニホシタリ
七時八幡前ニテ馬車ニツミ替へ帰宿 出發準備ヲナス
諏訪ヲ取キメルベク一時頃迄カゝル

◆▼352ページ◆▼ 大正3(1914)年11月27日(金)

天気 晴

四時頃便所ニ行ク

五時起床 朝食 仕度

六時自動車表ヲ通ル タゞチニ出發 原口君自動車場迄見送り來ル
八時前赤穂着 十時辰野着 十一時三十分三人帰京 余一人残ル 散髪ヲナシ町ヲ
見テ帰宿 眠ル 四時荷造(ママ)來ル 丸通ニ預ケエンジントプロペラ一個客車便ニテ東
京へ發送ス
入営兵ニテ宿ノ客頗ル多シ

◆▼353ページ◆▼ 大正3(1914)年11月28日(土)

天気 晴

北風強ク寒氣烈シ 時々雪降ル

イク度ガ話シ兼ネタレドモ十一時半ニテ上諏訪ニ行ク 一通リ町ヲ見テ小高キ處ニ昇
リ見下セドモ原ヲシキモノナシ 試ミニ一濃(ママ)夫ニ聞ケバ野田ノ原ト云フガアリトノ
コトニ某旗亭ニ入りテ晝食ヲナシ車ヲ頼ミタルモ車通ゼストノコトニ一時止メント思ヒシ
モ時間ツブシニト思ヒ案内者ヲ頼ミテ登ルコト里余 大汗ヲカク 路々残雪アダカモ霜
柱ヲ踏ム如クナリキ

一時間半程ニテ原ニ達ス 原トハ名ノミ タゞ山ニ木ガナク芝草ガ生ヒ居ルノミ 大凹凸
アリテ、モノニナラズ サレドモ苦シダ甲斐アリテ右ニ遠ク富岳ヲノゾミ、ヤツガ岳駒ガ

岳雪ヲイタバイテ中景ヲナシ右ハ眼下ニ湖面ヲ鳥觀シ得 実ニ佳景ナリシ
五時頃町ニ下リ旗亭ニ入り夕食方々女ニタワムル。六時十八分ニテ辰野ニ帰り八時頃
床ニ入ル

▲▼354ページ▲▼ 大正3(1914)年11月29日(日)

天気晴

今日モ寒イ日デアッタ 終日タイクツノ内ニ送ル

夕食後此處ノ藝者ヲ一ツ見シモノト宿デア聞イタ辰野館ヘト行ツタ 女將ハ其宿ノ女中
ダツタノダソーダ 仙太郎ト云フノガ來タ 東京向島ノモノダトカ ヨクモナイガ飯田
ノホドデモナイ 半玉ヲ一人ヨンテ木曾ブシヲ習ツタ。半玉ヲ先キニ帰ヘシ一寸當ツテ見
ルト此辺ノ藝者ナドワケノナイモノデアル 御金ナシカ出スモノガアルカト思ワレル位デ
アッタ。然シ、自分ハ少々ヨイ過ギテ居タ爲メ御メンコウムツタ

▲▼355ページ▲▼ 大正3(1914)年11月30日(月)

天気晴

昨夜ノ酒デ今日ハ終日腹ノ工合ガ悪ルカツタ

夜辰野館カラ電話ガ來タガ、アンマヲ取ツテ寢タ

フトコロ六十円シカナクナツタ 心細イノデ白戸ノ處ヘ請求ヲヤツタ

▲▼358ページ▲▼ 大正3(1914)年12月1日(火)

天気晴

午前八時起床 上諏訪ヨリ電話アリ 鳥飼氏來諏 村山君飯田ヨリ來ル由 余十一

時迄村山氏ヲ待チシモ來ラズ 一人諏訪ニ行キ鳥飼氏ニ會フ タイムスノ浜氏來 晝食

後飛行場ヲ見ニ行ク。帰途鷺ノ湯ニテ御馳走ニナル

村山氏明日來ルトノコト

▲▼359ページ▲▼ 大正3(1914)年12月2日(水)

天気晴

十二時村山氏來 三時頃取引モ済ミ関ニ行キ一杯ノム 浜氏來。伊那急ニ展覽會ダケ

ヲ催スコトトナリ、鳥飼氏九時廿五分ニテ帰京ス

宿村山氏ト共ニ牡丹屋ニウツル

関ハ当地第一ノ料理店ダケニ立派ナリシ 数日前福島大將閣下ノ泊リシシ處。料理モ

ヨク値モ安カリキ

▲▼360ページ▲▼ 大正3(1914)年12月3日(木)

天気晴

今朝イヨ、伊那中止トキマル ヤレ、

東京へ打電 又ハガキヲ出ス

夜村山氏ト都座へ活動ヲ見ニ行ク 駒田好洋一坐 大ゲサナモノ 写真モナカ、ヨシ
帰ル時飛行機ヲ持込ムベキ入口ヲ見シモ横ハバヨケレドモ高サガ這入リソモナシ

▲▼361ページ▲▼ 大正3(1914)年12月4日(金)

天気晴

八時半ニテ村山氏飯田ニ帰ル 停車場迄見ル 後チ飛行場設備ノ差(ママ)圖ニ行ク

帰宅 御晝頃他ノ飛行場ヲ見テ呉レトテ來タ。ソレハ三間巾ノ道路ヲ使用シテ滑走台
ヲヌキニシヨト云フノデアッタガ、ダメデアッタ

散髪後晝食一時 後チ金物屋へタイムスノ人ヲ訪ヒ都坐ノ方ヲ早クスル様交渉シテ帰
途凹屋ニテ一パイノム

夜早ク床ニ入ル

▲▼362ページ▲▼ 大正3(1914)年12月5日(土)

天気晴

八時三十分豊サン來 十時余辰野ニ行キ丸通ヨリ馬車ニ台ニ積込ミテ諏訪ニ送ル 運
賃一台三円。ミノワ屋ニテ晝食 ツグミヲ、ヤカセタルニ、ツグミノ頭トハネト尾ヲ大根
ニサシテ飛行機ダト持チ來ル 氣ニ入りタレバ板場ニ若干與ヘル 二時ノ汽車ニテ諏訪ニ
帰リ上翼ニ枚ツケルコトニツキ計算ス。夕方豊サン帰リ飛行機ガ這入ラナイトノコト
困ツタガ明朝工夫スルツモリ

夕食後辰野カラ馬車來ル筈ニテ丸通へ聞キニ行ク 道セマク今夜ハ下諏訪トマリトノコト。
遊廓ヲ散歩シテ帰宿

九時頃床ニ入りシモ辰野ヲ積出ス時ギヤソリン、モリ居タルガ氣ニナリテ眠レズ大キニ
苦シム

▲▼363ページ▲▼ 大正3(1914)年12月6日(日)

天気雨

七時起床 日記朝食
都坐へ組立ニ行ク 處方當地消防夫ノ切(ママ)労表障(ママ)會ガ學校デ開クハツノ處雨
ノ爲メ都坐ヲ貸シテ呉レト頼ミニ來タノデ貸スコトニシタ 御蔭デ今日櫓ヲ直シテ機体
ヲ中ニ入レタダケデアッタ

▲▼364ページ▲▼ 大正3(1914)年12月7日(月)

天気晴

七時起床 朝食後都座ニ行ク 八時半ニテ鳥飼白戸二氏來
五時頃帰宿 浜氏少時來
白戸君近所ノ武石サン夜松本ノ帰途ヨラル 泊ル

▲▼365ページ▲▼ 大正3(1914)年12月8日(火)

天気晴

八時頃都座ニ行ク。スツカリ出來上ル迄ニ約十一時頃迄カ、ツタ。シカシ入場者ガ少ナ
カッタノデヨカッタ 午後カラ夜ニカケテ余ノ想像デ約五百人ト見タガ報告ニヨルト五
百四十何人ダッタトノコト 余リ違ワナイモノデア
説明約(ママ)自分ダケデ約七八回ヤッタ 外ニ鳥飼氏モヤツタ シカシ今度ハエラソニ
云ツテ直線ヨリ出來ナカッタリシタ日ニハ、ト云フオソレガ、ムネニアルノデ其ツモリデ手
カゲンシテ、觀覽者ニモタバノ興行物視セナイデ日本ノ飛行界ヲ發達サセルト云フ
高尚ナ考ヘヲ以テ見テ貰ヒタイト云フ様ナコトモ云ツタ

▲▼366ページ▲▼ 大正3(1914)年12月9日(水)

天気晴

今日ハ大分入場者ガアッタ 説明昨日ト同ジ位 今日ハ白戸鳥飼村山三人デ宿デア花
ヲ引イテ居テ三時頃カラ夕食迄來タノミデアッタ
午後プレーンヲ張ル
夜一番オシマイノ説明ノ時飛行協會ノコトヲ話シタリシタ。之レスベテ、若シ飛バナ
カッタ時ノ防禦線デア
帰宿スルトヤハリ。パチ、ハヤツテ居タ 村山君ノ一人勝 関ヲオゴルト云ツテ居タガ寢テ
シマッタ

▲▼367ページ▲▼ 大正3(1914)年12月10日(木)

天気 晴

本日入場者頗ル多ク九時迄延長ス
明日モー一日展覽スルトノコト
ツギタシ、プレーンノ取付ヲナス

◆▼368ページ▲▼ 大正3(1914)年12月11日(金)

天気 曇

入場者少ナク説明ノハリ合ヒナシ
サレドモタビ、ヤッタ

◆▼369ページ▲▼ 大正3(1914)年12月12日(土)

天気 曇

七時起床 入浴朝食 都座ニ行ク 昨夜タノンダ人夫來ラズ 再三請求シテ漸ク九時頃ヨリ運搬ス

午後遊廓ニテステケ、、ヤッテ居タ コツチハプレーンノ角度ガウマク行カナクテヤキ、シテ居ル處ダッタノデ、シヤクニサワツテ仕方ガナカッタ

夕方風ガ強クナツテ來タ 人夫ハ二人共メシニ行ッタノデ、マックラナ寒イ中ニ一時間バカリ居タ。十時頃宗里君福井ヨリ來ル

雪降り出ス

◆▼370ページ▲▼ 大正3(1914)年12月13日(日)

天気 晴

昨夜來ノ雪シン、トシテ尚止マズ降り積ムコト約五寸余。朝格納庫ニ飛行機ヲ見舞フ九時頃雪止ミ空晴レタレバ残ノ仕事ヲナス

然ルニ主催者午後ヨリ開會ヲセマル

プロペラヲ取替ヘ試験中チークノ分廻シ勝手悪ルク、イクラ廻シテモ廻ラズ付替ヲナサント云ヒシモ鳥飼キカズ 白戸シキリニ心配シテ氣ヲツケヨト云フロノ下余ガ手ヲカケテ正ニ引カント、スルセツナ大ナル音響ト共ニ余ハ何事カト思ヒ氣ガツキテ、ハジメテ両手共ハジカレタコトニ氣ガツキタ、チニ雪ノ中ニ手ヲ入レテ冷ス
皆ノス、メニヨリ醫師ニ行ク ヤット打タレタ處ガワカッテ來タ

後チ場ニ行ク。牽引力少ナク滑走ノミニテ上ガラズ人ヤ、沸湯シダス。余宿ニ歸リ一人心配中 日ハクル、モ帰ラズイカニシツラント思ヒナヤム時歸リ來ル ヤ、安堵ス

種々考究ノ結果カーブレーターガゴブルラシイト云フコトニ一致ス

▲▼371ページ▲▼ 大正3(1914)年12月14日(月)

天気 晴

晴レテ無風 絶好ノ飛行天気ナレドモ機ハ飛ベズ 余諏訪明神ニ酒ヲ一年間止ムベク念
ジタレドモ甲斐ナシ

カーブレターアタタマル迄發動機ヲマワシ廻轉數ヲハカルニ充分ナル廻轉ヲナシ居タリ。
然ルニ飛ベズ。ア、萬事休ス

今夜終日ノ出來事アリタレドモ記サズトモ記憶ヲハナレザルベシ

▲▼372ページ▲▼ 大正3(1914)年12月15日(火)

天気 晴

朝食前ニ行キテ荷造リヲナシ丸通ニ運ビ食後古キ機体ヲ分解ス 三時晝食
往來ヲ通ルニモ氣ヲ居カレテ心悪シ

五時發甲府行キニ乗リタル時ヤット落付キヲカンジタリ

八時甲府着 佐渡幸支店ニ入り娘ヲ見ナガラタ食ス 後千宗里、山縣ニ君ヲ案内シテ
遊廓ヨリ市街ヲ見物ス 時オソク、戸ヲ立テル家多カリキ
十一時五十九分發ニテ帰京

▲▼373ページ▲▼ 大正3(1914)年12月16日(水)

天気 晴

五時前八王子ニテ目醒メ六時新宿着

明ケノ明星キラ、ト輝キテウツクシ

電車ニテ帰宅。芝ノ人ノ來テ居ラレタニハ不意ニ驚イタ

昨夜仕事ノ都合ニテ皆テツ夜セラレ今夜余ノ帰リヲ待チ受ケ下サレタトハ有難キコト
ナリ

色々話シテ湯ニ行キTMニ行キ加藤ニ行キ白戸ヘ行き晝食後一寸今後ノ方針ヲ畫シ花
ヲ引キタ食後帰ル

九時頃如何共眠クテタマラズ御先ニ御免ヲ蒙ツテ眠ル

▲▼374ページ▲▼ 大正3(1914)年12月17日(木)

天気 晴

七時起床 入浴 負傷以來ノ日記ヲツケテ朝食

TMヨリ電話アリ 穴守ノ飛行場ヲ案内シテ呉レトノコト スグ行ク 十時頃出發 穴
守様ニ参拜飛行場ヲ見、雀ヲ打ちナドシテ帰途トリ屋ニテ晝食 酒数本ヲノム
四時頃帰宅 白戸夫妻加藤來 白戸五時過ぎ帰り加藤夜九時頃帰ル
御蔭デ奈良原氏訪問出來ズ

▲▼375ページ▲▼ 大正3(1914)年12月18日(金)

天気 快晴

時事 神尾中将ノガイセン、本邦最初ノフラワーデー

七時起床 入浴日記朝食。朝ヤ、風アリタレドモ午後風ナク絶好ノフラワーデー。十
時頃、神尾中将ヲ迎フベク東京駅ニ向フ 同行河村氏
道行ク人如何ナル階級ノモノト雖花ヲツケザルモノナク、東京駅ノ賑ハ又別ニ將軍着
東頃ニハツゞケウチニ打上ゲル花火ト気球ハ空ヲカザリテウツクシク、萬歳ラッパノ音ト
共ニ近衛騎兵ニ前後ヲ守ラシ馬車ニテ参内セル將軍ノ四方八方ヨリ萬歳ノ声： 余ハ
カ、ル時イツモ、ノドノオクガツマツテ來テ涙グマレルノデアッタ。帰途日比谷ヲ通り
午後TMヨリ電話ニテ行キ白戸鳥飼夫妻ト自動車ニテ上野ニ行キ丸万ニテ忘年會ヲナ
ス 三時半出デテ鳥飼一人帰り余等三人浅草ニ行キ五九良ヲ見テ帰ル

▲▼376ページ▲▼ 大正3(1914)年12月19日(土)

天気 晴

七時起床 入浴日記朝食例ノ如ク終ルヤ奈良原氏ヲ訪フ 在宅ナリシモ、何ンダカ大
変ニタツイテ居タ 折リシモ又來客ガアッタノデ、ツヒニ用件ヲ済サズニ帰ヘッタ
帰途白戸ニヨリ花ヲ引キ晝食後ラジユムニ行ク 湯ハ効力アルベクモ設備ト、ノハズ不快
ナリキ 四時半帰り花 夕食後葬館ニ活動ヲ見ニ行ク
十時帰宅 談話 就眠

▲▼377ページ▲▼ 大正3(1914)年12月20日(日)

天気 晴

時事 東京駅開通

七時起床 入浴朝食

食後障子張ヲ初ム 九時過ぎ心ヒソカニ待チタル神田ノ花子嬢來ル。何ンデモ余ノ旅
行中余ガ帰ヘツタカ帰ラナイカ春子夫人ニ聞イタトカ聞カナイトカ御母サンカラヒヤカ
シノ様デナク聞カサレタノガツヒ昨日ノコト。サレバ何ントナク気が、リニナツタ仕方ガ
ナイ 折柄デ挨拶ヲサレタガ二三度頭ヲ下ゲタノミ 云フベキ語(ママ)葉ヲ知ラナカッ

夕。先方サンモ初メノ今日ハ、ハッキリ聞エタガアトハヤッパリ余ト同
夕方松本氏來 奥二階ニテ雑談 夜食後共ニ東京駅ヲ見ニ行ク。途中我等ヨリ先キニ
出テ帰途ニツケル春花兩君ニ出會フ

東京駅ハ立派デアッタ。カジ橋ヲ渡ツテ京橋ニ出デ銀坐通りカラ新橋ニクルト昨日ニ引
替ヘ今日カラハ眞クラ ナンダカアワレノ様デアッタ。ソレカラ新新橋ヲ見テ帰ル 時八
時過ギ 花子嬢スデニ帰ヘリテアラズ

▲▼378ページ▲▼ 大正3(1914)年12月21日(月)

天気晴

午前中奥二階ノ障子ヲ張ツテ終リ

午後白戸來 少時ニシテ帰ル 写真ト切抜ヲ整理ス

夕方TMニ行キ日比谷ヲ散歩ス

▲▼379ページ▲▼ 大正3(1914)年12月22日(火)

天気曇リ

七時半起床 洗面朝食 新聞ヲ讀ム處へ都築氏ノ助手西島氏來 手紙ヲ持參ス。ノ
ム七十ヲ分解手入ヲタノムトノコト 明日ヤルコトニス。シバラク話ヲシテ帰ル

九時頃ヨリ白戸宅ニ行キ散髪ヲナシ

晝食後ラジュームニ行ク 帰ル時女ボーイ不意ノ余ノ左ウデヲツネル 不ラチナヤツ

帰宅後夕食 花 雨降ル 九時出デテ帰宅

▲▼380ページ▲▼ 大正3(1914)年12月23日(水)

天気曇リ

雨上リタルモ風冷ヤカニナリタリ

朝食後TM(オーバー)ヲ取リニ行ク

九時頃山科ニ行キエンジンヲ見ル エキゾーストヲハヅシ中ヲアラタメタルニ、キレイナリ
シカバ其マヽニシテバルブラシラベシニスプリンク受ケガイヅレモマガリ居ルニソレヲ直サス
二時頃鐵工所ニ其レヲ渡ス 帰途或写真屋ニ奈良原式一號トグラードガ中野ノ氣球
庫前ニ置カレテアル写真ヲ見タノデ五枚ばかり注文シタ居イタ トニカクメヅラシイモ
ノデアッタ

帰宅後切抜整理

▲▼381ページ▲▼ 大正3(1914)年12月24日(木)

天気晴

午前中切抜整理

十時頃ハイ原へ襖ノ紙ヲ買ヒニ行ク 午後之レヲ張ル
夕食ハメヅラシク牛肉デアッタ シカシ火ガ悪イトカナントカカトカ文句ヲ云ツテ妻君
ヲヨワラセルノデ自分迄氣持悪クナッタ セツカクノ御馳走モチットモウマクナカッタ
此頃ノ鏡滋氏ハドーモ変ナヨーデ自分等ガ考ヘテ何ンデモナイコトヲ一々小言ヲ云ツテ
居ルガ実ニ不思議ニタヘナイ

食後奈良原氏ヲ訪フ 不在 奥サンニ面會 大意ヲ話シテ明夜會見スベク帰ル
日露海戦記ヲ讀ム 五月廿七日ノ會戦迄ハ面白カッタガ其後チハ専門ニナツテ來タノ
デヨシタ。今夜ミガ鼠ヲ二度取ツテ大サワギヲシタ

▲▼382ページ▲▼ 大正3(1914)年12月25日(金)

天気晴

七時半起床襖ヲ張り終ル 時十時

巢鴨ノ時枝サン女子ヲ上ゲラレタトノコト 御母サン午後行カル 鏡滋氏客ニ行ク 余
留都(ママ)ヲナス 切抜整理

夜夕食入浴後青山ニ行ク 相カワラズ不在 話ト、ノワズ 奈良原同人トシテハコトワル
トノコト シイテナラバ高井當間サンニ話シテ呉レトノコト 少シシヤクニサワル

▲▼383ページ▲▼ 大正3(1914)年12月26日(土)

天気雨

七時起床 朝食新聞店番

十一時頃加藤君來 スグ帰ル

晝食後飯田ヨリ來リタル眞綿ヲ三分シ一ツヲ河村氏へ 一ツヲTMニ持參シ其足ニテ白
戸ニ行ク 丁度ラジユームニ行ク處ナリトノコトニ共ニ行ク 滑稽ナル御シヤベリノ女ニ大
分笑セラレタ

帰宅 夕食 花

預ケタ五円ヲ貰ツテ帰途寒サニタエズ肉屋ニ入りテ酒ヲ呑ム 九時半帰宅 十時半就
床

▲▼384ページ▲▼ 大正3(1914)年12月27日(日)

天気晴

今朝山田屋ノ主人死去セラル 御母サン行カル 御通夜

午前餅ヲ切ル 今朝妻君ガ御ソナエノ上ニ立チタル、ハシラ折ツタトカデ大ヘン心配シテ居ラレタ。ドーモアマリビク、ノシスギラレル様ダ 今少シ大タンニナラレタ方ガ過チガナクツテヨカロート思ワレル
午後店番
年賀状ヲ書イテ出ス
夕方松本氏來 少時碁ヲ囲ム
今朝福島氏ニ行キ車輪トプロヘラヲ聞合ス 取シラベ返スベシトノコト

▲▼385ページ▲▼ 大正3(1914)年12月28日(月)

天気晴

七時起床 朝食後岡田鉄工所へ仕事ノ出来ヲ見ニ行ク 正午迄ニ出来ストノコト
晝食後仕度シテ山科ニ行ク 何時迄待ツテモ出来ズ西島君ト新富町辺リ散歩シ一品屋ニテビールヲ一杯カタムク 四時頃帰宅ス
夕方御母サ(ママ)帰ラル

▲▼386ページ▲▼ 大正3(1914)年12月29日(火)

天気晴

七時半起床 朝食 店タレヲ居ズ店番ス
九時過ぎ西島君來 仕度シテ十時頃山科ニ行ク カムノ組合セ悪ク、カバーヲ直ス必要生ズ 丁度猪口君來 岡田ニ行キテ直サセル。クラクナル頃漸ク組上ル。新ラシキカバーツヒニ使用ニイタラザリキ
夜IMインダクシヨニイルヲ貸ス 酒ヲ馳走ニナル 後チ白戸ニ行ク 不在 少時ニシテ御力ザリヲ買ツテ帰ヘテ來タ
十時半帰宅

▲▼387ページ▲▼ 大正3(1914)年12月30日(水)

天気晴

七時半起床 朝食後山科ニ行キ發動機ヲ整理シテ支那公使館出シタノガ丁度十二時帰宅 晝食 店番 掃除
夜モ掃除 後京橋へ御飾ヲ買ヒニ行キ帰宅後飾付ケヲナス 十一時過ぎ入浴 就眠

▲▼388ページ▲▼ 大正3(1914)年12月31日(木)

天氣 晴

午前八時起床 朝食新聞 發明館ニテ硝子紙ヲ求メ之レヲ張り模型飛行機ヲ組立テ
柱ヲ塗リ豊川様ノ燈ローヲ張り自分ノ机ヲ方付ク
夕方繪ハガキヲ買ヒニ行ク
夕食 酒ヲ馳走ニナル 後チ銀坐通りニ行キ大志軒バーニテ又ノムヘンナ女ボーイ居ル
帰宅 御母サント色ヲ話シ
十二時過ギ又新橋ノ方ヘ散歩ス 風強ク寒シ 三時入浴

◆◆389ページ◆◆ 補遺

今年中得ル處ナシ

借金ナキノミ

來年度ノ空想ヲ書きツゝ元旦ヲ迎ふ

収入録

月日	摘要	金額
	前年繰越	2.290
1/9	奈良原敬子様	1.000
13	奈良原三次氏	10.000
23	加藤喜代次郎	10.000
25	姉	10.000
23	白戸	2.000
28	姉	.500
29	々	.300
27	奈良原氏	10.000
31	姉	1.300
	合計	47.390
2	合計 二月中	17.600
3	三月中姉ヨリ	21.760
3	帝国民間飛行機研究会ヨリ	10.000
3	二階ノ兄ヨリ	5.000
	合計	101.750
4/7	時計入質	3.000
	合計	104.750
5/21	久太郎兄ヨリ	10.000
	合計	114.750
6/1	日本民間飛行研究会	7.000
6/21	同上	76.000
414 ページ		
	計	83.000
	総計	194.750
7/14	白戸君ヨリ入り	.500
7/16	加藤君ヨリ借り	1.000
24	白戸君ヨリ借り	5.000
27	白戸君ヨリ借 内十円貸入	15.000
	合計	21.500
	総メ	216.250
	残	2.290

1	姉ヨリ	1.000
4	々	.500
7	々	.550
々	々 十日ヨリ十八日迄	.550
20	電報ト小遣ヒ	.250
21	姉ヨリ	12.500
25	白戸ヨリ 稲毛行残り	1.300
8/31	日本民間飛行研究会	50.000
		285.190
9/25	白戸ヨリ	5.000
10/6	都築氏ヨリ	1.000
10/12	白戸ヨリ	1.000
10/18	々	1.000
415 ページ		
10/20	研究会ヨリ	10.000
25	々	1.000
11/2	白戸ヨリ借	1.000
11/7	研究会	2.000
11/9	全	10.000

416～420 ページ

支出録

月日	摘要	金額
1/2	合計	.980
1/3	合計	.600
1/5	中沢ニ與フ	.200
1/6	合計	.360
1/7	電車券ト筆一本	.120
1/9	帝劇見物辨当ト材料	.700
1/11	模型材料	.120
1/14	合計	5.970
1/15	活動	.210
1/16	合計	2.550
1/17	電車	.090
1/21	芋	.050
23	合計	7.770
24	合計	2.200
25	合計	1.000
26	温泉回数券ト活動	.850
27	新世界	.380
27	河村氏へ	10.000
29	合計	.380
31	合計	
々	加藤喜代次郎	10.000
々	合計	2.660
	総合計	47.190
417 ページ		
2	神戸行	4.000
5	材料費	1.000
	散髪其他合計	1.500
	廿日ヨリ廿四日迄	.500
2/24	河村氏へ五円送り	5.000
26	下神費	1.000
27	散髪其他	.500
28	写真代	3.900

	合計	17.600
3/1	大口送迎費	4.000
3/5	下神費ト小説借賃	3.500
3/6/12	小遣ヒ	1.050
12	西ノ姉	.500
13/19	小遣ヒ	1.000
20	河村氏へ送品代	.810
20/28	八日間小遣ヒ	1.000
28/29	上京費	10.000
29/31	切抜 2 ヶ月分、下駄 2 足、足袋 1、	4.400
	電車パス、其他	
	合計	26.260
1 月/3 月迄	総合計	90.610
418 ページ		
41/413	風呂二回上野行其他交際費 風費ナシ	5.000
	出所不明二月ヨリ三月末迄ノ間	1.000
3 日方/19 迄	小遣ヒ	3.000
19/28	小遣ヒ	5.000
	四月分合計	14.000
	総合計	104.610
	1 日/17 日迄小遣	1.300
	18/22 迄 スクラップブック	1.970
	電車券三十回分ト活動ハガキ胃散	1.900
	二五日ヨリ卅日迄	1.970
	五月分計	7.140
	総合計	111.750
2	加藤へ道具代	1.000
3	活動長尾君ト二人 カミ三銭	.470
4	博覽會行二人、胃散、水菓子 30	2.000
3	菓代御母サンニ預ク(後チ白戸君ニ貸)	5.000
7	メンダイン小一個	.220
6	白戸君へ豚肉	.400
9	活動	.200
21	旅館拂	13.300
々	旅行中雑費	3.100

々	河村氏へ食料内金	40.000
419 ページ		
6/22	帽子	2.000
24	電車券	1.250
26	時計	3.500
25	夕ビ切抜川辺君見舞夕食其他	4.600
28	散髪トパウリスタ	.500
々	運賃立替	1.520
30	白戸君貸	5.000
	計	83.000
	総計	194.750
7/14	散髪	.120
/16	奈良原氏中元	.850
々	アイスクリーム	.100
19	洋食ト青山行	.380
24	加藤へ返ス	1.000
25	博覧会行	.600
々	パウリスタ	.200
々	清新軒ト活動	1.200
々	エンピツト電車	.110
々	石鹼ト往復ハガキ	.230
々	メンダイン	.220
26	富岡分河村サンへ	6.300
々	切抜	.500
420 ページ		
26	車賃	.200
々	赤帽	.100
々	汽車賃往復半價	4.200
々	洗濯	.500
27	朝食	.300
々	シトロン	.250
々	車賃	.350
30	弟子一同へ	1.000
々	ビリ軒	.500
	〆	19.210

	総メ	213.960
	7月分西ノ宮行	1.000
	本	.300
	不明	.900
	一日ヨリ廿一日迄小遣	2.850
22	汽車賃土産、其他	7.500
22	電車ニ切手其他	.400
26	ワイシャツ 1 シヤツ 2 土産物 1	
	クツシタ止 1 電車 1	3.700
29	茶代佐渡幸支店切抜	1.000
	不明	1.400
	河村氏拂	32.500
	土産車繪葉書	2.700
421 ページ		
		268.510
	大坂へ送ル	5.000
9/3	稲毛行キト過日ノビール三本代	1.500
9/6	電回数券稲毛帰りサル又湯	2.120
	フランネル着物代	5.000
	六日ヨリ十五日迄諸雑費	2.100
	合計	285.230
9/15/10/6 迄	切抜雑誌帽子クリーニング、電車、穴守行	3.220
10/6	電車、紙、羽織紐	1.000
10/7,8	散髪、花、酒	.700
10/12	散髪酒エンピツ筆	.700
10/21	所沢行並ニ諸雑費	2.000
々	着モノ一着代御母サンニ渡ス	5.000
22	所沢行キトハミガキ繪葉書	1.500
23	浅草ト夕食	1.500
25	稲毛行き	1.140
25/11/4 迄	稲毛小遣	2.000
11/12	ナポレオントサル又	2.000